

平成7年度

# 筑波国際センター業務報告書

(VOLUME 1)

平成8年9月

国際協力事業団

筑波国際センター

JICA LIBRARY



J 1134489 [2]

平成七年

筑波国際センター業務報告書

平成八年九月

国際協力事業団

000  
36  
TIC  
RY







## はじめに

筑波国際センターは、昭和55年設立の筑波インターナショナルセンターと昭和56年設立の筑波国際農業研修センターを発展的に統合し、それらのすべての業務を引き継ぐとともに、広報啓発、青年海外協力隊、青年招へい事業などを加え平成8年5月に新たに発足しました。

従って、今年作成する平成7年度業務報告書は筑波インターナショナルセンター及び筑波国際農業センターとして最後の活動報告書であるため、書式を統一して報告することをせずに、それぞれVOL.Ⅰ、VOL.Ⅱとして報告させていただくことにしましたので読みづらいこともあるかと思いますが、ご容赦願います。

両センターで平成7年度3月末までに同年度の545名を含めて延べ117ヵ国5,772名の研修員を受け入れられました。研修の成果については、研修の指導に当られた方々を始め研修員からも高い評価が寄せられています。これも偏に、研修員受入諸機関のご指導・ご協力と、地元つくば市並びに周辺市町村の方々のお陰であり、ここに関係各位に深く感謝申し上げます。

つくば市は、世界に誇る科学技術研究学園都市であることは申すまでもありませんが、開発途上国に科学技術の進歩に伴って見られる技術協力の要請の高度化、多様化に鑑みまして、筑波のこの特色を生かした研修受入事業の拡大の可能性は実に大なるものがあると思われまます。

当センターといたしても、開発途上国の社会・経済の発展により寄与するための事業の質の改善と規模の拡大に務めるとともに、彼我の相互理解・友好親善を促進して研修員来日の機会を総合的見地から意義のあるものにしたいと存じますので、関係各位のご示唆・ご鞭撻を今後ともお願い申し上げます。

平成8年9月

筑波国際センター

所長 橋本 明彦



1134489 [2]



# 1. 研修員受入れ

## 1-1 集団研修コース

平成7年度において筑波インターナショナルセンターは、平成6年度に受入れた測量技術Ⅱ、化学技術研究他2コース計36名の研修を継続して実施するとともに、平成7年度新規18コースの研修を実施し、これらのコースに154名の研修員を受入れた。(資料1)

資料1 筑波インターナショナルセンター 平成7年度集団研修コース等実績一覧表

	研修コース名	定員	実数		回数	研修期間	第1四半期			第2四半期			第3四半期			第4四半期			主要研修機関
			割	個			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
継	測量技術Ⅱ	7	7	0	5	3.5 (11.5)	8/1			7/7									国土地理院
継	産業技術研究	7	5	0	7	4.0 (11.0)	8/29			7/27									工業技術院
継	地震工学Ⅱ	20	18	1	5	4.0 (11.0)	9/5			7/29									建築研究所
継	化学技術研究	7	6	0	12	5.0 (12.0)	8/29			8/27									物質工学工業技術研究所 生命工学工業技術研究所
1	自動車の安全・公害対策技術	12	11	0	6	2.0	5/15			7/9									(財)日本自動車研究所
2	獣医バイオ診断技術	6	6	0	4	6.5	※ 5/15						11/26						家畜衛生試験場
3	物質工学研究	7	6	0	15	10.0	※ 5/15						3/10						物質工学工業技術研究所
4	生命工学研究	5	5	0	13	10.0	※ 5/22						3/17						生命工学工業技術研究所
5	環境地図セミナー	5	5	0	2	2.5	6/19			8/27									国土地理院
6	法定計量	6	6	0	3	5.0	※ 7/17						12/17						計量研究所 都道府県計量行政協議会
7	測量技術Ⅱ	8	8	0	6	8.0 (11.5)	※ 7/31						7/7						国土地理院
8	森林研究	5	5	0	4	3.5	※ 8/14			11/26									森林総合研究所
9	河川及びダム工学Ⅱ	11	11	0	3	3.5	※ 8/21			12/3									建設省河川局
10	産業公害防止	6	6	0	8	4.0	8/21			12/17									資源環境技術総合研究所
11	産業技術研究	5	5	1	8	7.5 (11.0)	※ 8/28			7/28									工業技術院
12	防災科学技術	9	11	0	19	3.0	9/4			12/3									防災科学技術研究所
13	地震工学Ⅱ	20	22	0	6	7.0 (11.0)	※ 9/4			7/28									建築研究所
14	石炭鉱山保安	9	9	0	15	3.0	9/11			12/10									資源環境技術総合研究所 (財)石炭開発技術協力センター
15	土木技術研究開発幹部セミナー	8	8	0	4	0.5	9/24			10/6									土木研究所
16	湖沼環境保全セミナー	15	19	0	1	1.0	10/6			11/5									茨城県
17	グローバル地震観測	5	5	0	1	2.0	11/16			12/22									建築研究所
18	放射線安全管理実務者	5	6	0	6	1.5	1/29			3/7									動力炉・核燃料開発事業団

◎は、特設コース ○付数字は準高級研修員 研修期間( )内数字は全期間 ※は日本語講習  
 (備考) (継続) 産業技術研究…ブラジル研修員平成7年1月早期帰国のため、割当国実数は6年度新規より1名減。  
 (継続) 地震工学Ⅱ…バプア・ニューギニア研修員平成7年1月早期帰国のため、割当国実数は6年度新規より1名減。

これらの諸コースについては、前年度の評価の結果に十分な検討を加え、ジェネラルインフォメーションの改訂及び研修内容の改善をはかり、研修の成果を高めるべく配慮して研修を実施した。なお、本年度から新たに当センターが実施することとなったコースは、「湖沼環境保全セミナー」及び「グローバル地震観測」の2コースである。各集団コースの実施概要については、資料2を参照されたい。

#### 1-2 個別研修コース

平成7年度において筑波国際ショナルセンターは、平成6年度に受入れた41名の研修を継続して実施するとともに、新たに138名の研修員を受け入れた。(参考資料9-4及び9-5参照)

#### 1-3 ブリーフィング・オリエンテーション

当センター及び筑波国際農業研修センター受入れ集団研修員全員に対し、来日時、一週間にわたって滞日生活の円滑化と日本についての理解の促進に資するためのブリーフィング・オリエンテーションを財団法人日本国際協力センターに委託して資料3に示すプログラム及び講師陣で実施した。これに加え第二次オリエンテーションとして、地球環境問題及び日本特に筑波における健康管理についての講演会を計3回実施した。

#### 1-4 研修関連事項

##### (1) 研修コース運営委員会

測量技術Ⅱ及び地震工学Ⅱコースについては、それぞれ運営委員会を開催し、専門技術的見地から当該年度及び次年度コースのカリキュラム、受入れ条件等について検討を行った。

##### (2) 集団研修コースの評価、検討

各集団研修コースの終了後、研修員による評価、受入機関及び当センターの評価の結果をもとに、カリキュラム内容、研修員の資格・受入条件、開発途上国のニーズと日本の現状を勘案した研修コースのあり方等について、受入機関と検討し、その結果、必要な変更、改善を行うなど研修コースの充実、向上を図った。



## 資料2-1 平成7年度（継続）集団コース実施概要

### 1. コース名（和文）：測量技術Ⅱ（継続）

（英文）：Surveying & Mapping Ⅱ

コースコード：J9400048

### 2. 研修期間：6. 8. 1～7. 7. 7

当センター実施期間：6. 8. 1～7. 7. 7

### 3. 研修目的・背景

昭和33年に東京で開催された第2回国連アジア極東地図会議において発展途上国における測量・地図作成専門技術者養成の重要性が認識され、以降本コースが実施されている。前年まで「地図作成課程」と「測地測量課程」の2コースを隔年で実施していたが、今年度よりこの2コースを統合して、測量全般に精通することを目的とし、測地測量、写真測量、地図、編集印刷までを一元化させた。

### 4. 到達目標

- 1) 地図作成に不可欠な技術を習得する。
- 2) 地図作成の作業計画、精度管理、工程管理に必要な基礎的知識を習得する。
- 3) デジタルマッピング、GPS、VLBI、地理情報システムなどの新測量技術の知識を得る。
- 4) 自国で基本図作成の測量計画の立案ができるようになる。

### 5. 研修対象者・資格要件

- 1) 自国政府から推薦を受けた者
- 2) 現在、測量または地形図作成に従事している測量技師で実務経験3年以上の者
- 3) 大学卒、もしくは大学卒相当以上に学識がある者
- 4) 十分な英語力（とくに会話力と書く能力）を備えた者
- 5) 25才以上で35才以下の者
- 6) 心身ともに健康であること（女性の場合は妊娠していないこと）
- 7) 軍籍を持たない者

### 6. プログラム概要

#### 1) 研修項目

講義 基礎科目（法規、測地学概論、数学・最小二乗法、情報処理）測地測量（基準点測

量、水準測量、地磁気測量、幾何測地学、地球物理学、重力測量)、地形測量(地形学、写真測量、リモートセンシング)、地図編集、応用測量(地籍測量、応用測量)、地理調査、印刷、地図情報

実 習 測地測量(基準点測量、水準測量、地磁気測量、重力測量)、地形測量(写真測量、リモートセンシング)、地図編集(地図製図、アトラス)、地理調査、印刷、測地実習、地図情報、地球地図、測図実習、地理調査実習

見 学 観測所見学、測量会社、測量機器メーカー見学、測量原点見学、建設大学校他

## 2) 研修方法(英語率)

講 義 : 43% (49%)  
 実 習 : 23% (0%)  
 研修旅行・見学: 14% (0%)  
 課題研究 : 18% (70%)  
 その他(討論・カントリーレポート発表)  
 : 2% (0%)

## 3) スケジュール

オリエンテーション: 06・08・02~06・08・06

日本語情報処理: 06・08・08~06・08・26

集 団 研 修: 06・08・29~07・07・04

## 7. 受入実績(当年度、積算)

当 年 度					当年度までの累積		
定 員	割当国数	応募人数	応募国数	受入人数	設立年度	回 数	受入人数
7	9	13	9	7	平成元年	6	55 (I-214)

当年度割当国及び受入人数( )内: バングラデシュ(1)、インドネシア(1)、マレーシア(1)、ネパール(1)、フィリピン(1)、ケニア(1)、タンザニア(1)、ペルー、パラオ(1)

## 8. 実施体制

主な受入先: 建設省 国土地理院

直轄/委託: 委託先: (財)日本地図センター

研修指導者: 企画部国際協力官 福島 芳和

研修監理員: 丸山かづ代、小川 成夫

1. コース名 (和文) : 産業技術研究 (継続)  
(英文) : Advanced Industrial Technology  
コースコード : J9400366

2. 研修期間 : 6. 8. 29~7. 7. 27  
当センター実施期間 : 6. 8. 29~7. 7. 27

### 3. 研修目的・背景

社会・経済発展を推進するためには、産業技術の研究・開発を効果的かつ効率的に行っていく必要がある。近年、日本の先進技術は世界的に注目を集めており、世界各国から日本との共同研究や日本からの技術移転に対する要望が年々高まっている。

本コースは、発展途上国の産業技術の発展のために、発展途上国自らの手で研究開発能力の向上を図れるよう、次代を担う研究者を育成・強化をすることを目的としている。そのため、発展途上国の産業技術に係る有能な中堅研究者を対象に、工業技術院の各試験所において個人別の研究課題に基づき研究手法習得のための研修を実施するものである。

### 4. 到達目標

- 1) 日本の研究技術を習得する。
- 2) 自らの手により研究を立案、実行できる能力を養成する。

### 5. 研修対象者・資格要件

- 1) 自国政府から推薦を受けた者
- 2) 大学卒もしくは大学卒相当の学識があり、鉱工業分野での基礎研究を行う能力がある者
- 3) 現在、鉱工業分野の研究に従事しており、同分野で3年以上の職務経験がある者 (行政官はこの要件に合致しない)
- 4) 25才以上35才以下の者
- 5) 十分な英語力を備えた者
- 6) 心身ともに健康であること (女性の場合は妊娠していないこと。)
- 7) 軍籍を持たない者

## 6. プログラム概要

### 1) 研修項目

各自の選択した研究課題に基づき、担当する工業技術院の各試験研究所に分散して10か月の専門研修を行う。専門研修は、受入研究者の指導の下に、定められた研究課題についてマンツーマンの講義、実習を行い、わが国における研究成果や研究方法を直接学びとる方法により実施する。

### 2) 研修方法 (英語率)

講義 : } 77% (100%)  
実習 : }  
研修旅行・見学 : 23% (90%)  
その他 : 0% (0%)

### 3) スケジュール

オリエンテーション : 05・08・30～05・09・03

日本語研修 : 05・09・05～05・10・04

専門研修 : 05・10・05～06・07・24

## 7. 受入実績 (当年度、積算)

当年度					当年度までの累積		
定員	割当国数	応募人数	応募国数	受入人数	設立年度	回数	受入人数
7	9	8	7	6	昭和63年	7	50

当年度割当国及び受入人数 ( ) 内 : タイ(1)、中国(1)、ブラジル(1)、コロンビア(1)、フィリピン(1)、トルコ(1)、マレーシア、アルゼンティン、アルジェリア

注) ブラジル研修員は平成7年1月に早期帰国

## 8. 実施体制

主な受入先 : 通商産業省 工業技術院 各試験研究所

直轄/委託 : 委託先 : (財)日本産業技術振興協会

研修指導者 : 通商産業省工業技術院国際研究協力課国際研究協力企画官室 三條 和博

研修監理員 : 新聞 潤子

1. コース名 (和文) : 地震工学Ⅱ (継続)

(英文) : Seismology and Earthquake Engineering II

コースコード : J9400012

2. 研 修 期 間 : 6. 9. 5 ~ 6. 7. 29

当センター実施期間 : 6. 9. 5 ~ 7. 7. 29

3. 研修目的・背景

地震予知、地震防災等に貢献できる人材を、講義、実習等を通じ育成することを目的とする。

4. 到達目標

- 1) 本分野の全過程について重要かつ最新の知識と技術を習得する。
- 2) 本分野についての計画立案能力を養成する。
- 3) 本分野についての指導能力を養成する。

5. 研修対象者・資格要件

- 1) 自国政府からの推薦を受けた者
- 2) 大学卒業者または地震工学、地震学分野で5年以上の経験を有する者
- 3) 基礎数学(微分・積分等)を理解している者
- 4) 25才以上35才以下の者
- 5) 英語の読み書き・会話が十分できる者
- 6) 心身共に健康で、支障なく研修生活を送ることができること
- 7) 軍籍を持たない者

6. プログラム概要

1) 研修項目

講 義 : 地震構造論、構造解析、地震予知等

実 習 : 専門別研修

見 学 : 地震予知観測施設、建築施工現場等

個別研修 : 国立研究所、大学、企業等で各自の専門の研修を行う。

## 2) 研修方法 (英語率)

	〈地震学コース〉	〈地震工学コース〉
講 義	: 44.5% (100%)	47.8% (100%)
実 習	: 42.1% (100%)	38.8% (100%)
研修旅行・見学	: 9.3% ( 0%)	10.0% ( 0%)
そ の 他	: 4.1% (100%)	3.4% (100%)

## 3) スケジュール

オリエンテーション: 6・09・06～6・09・10

集 団 研 修: 6・09・12～7・03・31

専 門 研 修: 7・04・03～7・07・27

## 7. 受入実績 (当年度、積算)

当 年 度					当年度までの累積		
定 員	割当国数	応募人数	応募国数	受入人数	設立年度	回 数	受入人数
20	24	28	19	19	平成2年	5	95 (I-595)

当年度割当国及び受入人数 ( ) 内: 中国、インドネシア、インド、ネパール(1)、パキスタン(1)、フィリピン(1)、イラン(1)、トルコ(1)、エジプト(1)、アルジェリア(1)、モロッコ、アルゼンチン、チリ(1)、コロンビア(2)、コスタリカ(1)、エクアドル(1)、ニカラグア(1)、メキシコ、ペルー(1)、ヴェネズエラ(1)、ケニア(1)、ザイール(1)、バブア・ニューギニア(1)、ギリシャ(1)

注) P. N. G. 研修員は平成7年1月に早期帰国

## 8. 実施体制

主な受入先: 建設省建築研究所

直轄/委託: 委託先: (株)建築研究振興協会

研修指導者: 国際地震工学部長 北川 良和

研修監理員: 中野真紀子、伊藤 和子

1. コース名 (和文) : 化学技術研究 (継続)

(英文) : Chemical Technology

コースコード : J9400285

2. 研 修 期 間 : 6. 8. 29 ~ 7. 8. 27

当センター実施期間 : 6. 8. 29 ~ 7. 8. 27

3. 研修目的・背景

現在、先発的発展途上国では、二次産業としての製造業が重要な位置を占めているが、それを支える技術的基盤整備が未だ不十分な状態であるため、これら諸国の化学技術研究者の資質の効果的な向上が熱望されている。本コースは、発展途上国の国立研究機関や教育機関の研究者を対象として各々専門に応じ、物質研・生命研の関係研究室で受入れ、特定の課題についての研究手法を指導し、関連工場等への見学を通じて、研修員の持つ化学工業技術のレベル向上を図る。

4. 到達目標

- 1) 研修員が物質研・生命研で行われている基礎的、探索的研究 (業務) に参加することにより研究の本質を知り、研究手法を習得する。
- 2) 研修員が本人の研修分野での自国の工業に貢献しうる基礎的研究のできる専門家となるために、必要な知識を習得する。

5. 研修対象者・資格要件

- 1) 大学の化学科を卒業した者又は同等の資格を有する者
- 2) 当該分野の研究者として実務経験3年以上の者 (行政官は不適格)
- 3) 25才以上40才未満の者
- 4) 十分な英語力を備えた者
- 5) 心身ともに健康であること (女性の場合は妊娠していないこと)
- 6) 軍籍を持たない者

6. プログラム概要

1) 研修項目

共通講義 : 物質研・生命研の各研究室で実施している研究についての概要説明

専門研修 : 17のテーマの中から研修員が物質研・生命研と相談し、選択した特定の課題について  
研修指導官のもとで研究手法の研修を行う。

2) 研修方法 (英語率)

講 義 : 0 % ( 0%)  
 実 習 : 95.8% (100%)  
 研修旅行・見学 : 4.0% ( 0%)  
 その他 (技術レポート発表会) : 0.2% (100%)

3) スケジュール

オリエンテーション : 6・08・30～6・09・03  
 日本語研修 : 6・09・05～6・10・06  
 専門研修 : 6・10・07～7・08・23

7. 受入実績 (当年度、積算)

当 年 度					当年度までの累積		
定 員	割当国数	応募人数	応募国数	受入人数	設立年度	回 数	受入人数
7	9	12	6	6	昭和58年	12	96

当年度割当国及び受入人数 ( ) 内 : 中国(1)、タイ(1)、フィリピン(1)、エジプト(1)、メキシコ(1)、  
 パラグァイ(1)、大韓民国、インドネシア、コロンビア

8. 実施体制

主な受入先 : 通商産業省 工業技術院 物質工学工業技術研究所  
 生命工学工業技術研究所

直轄/委託 : (財)日本国際協力センター

研修指導者 : 物質工学工業技術研究所 国際研究協力室長 中西 房枝

研修監理員 : 五味 昭



## 資料2-2 平成7年度(新規) 集団コース実施概要

### 1. コース名(和文) : 自動車の安全・公害対策技術

(英文) : Automobile Safety and Pollution Control Technology

コースコード : J9500475

### 2. 研修期間 : 7. 5. 15~7. 7. 9

当センター実施期間 : 7. 5. 15~7. 7. 9

### 3. 研修目的・背景

近年、発展途上国においても、自動車産業あるいは自動車部品産業を国の基幹産業として、育成する政策をとっている国が多い。本コースでは、これらの国々の自動車産業に指導的な役割を果たす行政官及び専門家に対し、日本の経験を紹介することにより、自動車の安全問題、公害問題、エネルギー問題等を克服した健全なモータリゼーションの展開に資することを目的とする。

### 4. 到達目標

- 1) 日本のモータリゼーションおよび自動車産業の歴史、政策、技術、法規等に関し、包括的な知識を習得する。
- 2) 自国のモータリゼーションおよび自動車産業の推進に必要な先進かつ実践的な専門知識を向上させる。
- 3) モータリゼーションの進展に伴って生じる。環境および安全に関する問題について、最新の専門的知識を習得する。
- 4) 各国のモータリゼーションや自動車産業の現状、問題点について、他国の研修員の報告をもとに討論・分析し、必要な情報を収集する。

### 5. 研修対象者・資格要件

- 1) 自国政府からの推薦を受けた者
- 2) モータリゼーションまたは自動車産業に3年以上の実務経験を有し、現在、指導的地位にある技術者
- 3) 大学機械工学系の学科を卒業した者。または同等の資格を有する者
- 4) 英語の読み書き・会話が十分にできる者
- 5) 25才以上40才以下の者
- 6) 心身共に健康で、支障なく研修生活を送ることができること
- 7) 軍籍を持たない者

## 6. プログラム概要

### 1) 研修項目

講 義 モータリゼーションおよび自動車産業全般、自動車に関連する技術、わが国における自動車産業およびモータリゼーションの現状、各国におけるモータリゼーションにおける課題

実 習 動力性能試験方法、排ガス試験方法、騒音試験方法、衝突試験方法

見 学 自動車工場、部品工場、タイヤ工場、および関連研究機関等

### 2) 研修方法（英語率）

講 義 : 48% ( 78%)

実 習 : 8% ( 0%)

研修旅行・見学 : 28% ( 0%)

そ の 他 : 16% (100%)

### 3) スケジュール

オリエンテーション：7・5・15～7・5・19

集 団 研 修：7・5・22～7・7・7

## 7. 受入実績（当年度、積算）

当 年 度					当年度までの累積		
定 員	割当国数	応募人数	応募国数	受入人数	設立年度	回 数	受入人数
12	15	26	12	11	平成2年	6	76

当年度割当国及び受入人数（ ）内：バングラデシュ(1)、中国(1)、インド、マレーシア、パキスタン、フィリピン、タイ(1)、エジプト(1)、イラン(1)、サウディ・アラビア、トルコ(1)、アルゼンティン(1)、ブラジル(2)、メキシコ(2)、ソロモン諸島

## 8. 実施体制

主な受入先：財団法人 日本自動車研究所

直轄／委託：委託先：(財)日本自動車研究所

研修指導者：(財)日本自動車研究所 研究主管 石垣 秀生

研修監理員：南日 育子、松田 公代

1. コース名（和文）：獣医バイオ診断技術

（英文）：Advanced Technology for Veterinary Diagnosis

コースコード：J9500150

2. 研修期間：7. 5. 15～7. 11. 26

当センター実施期間：7. 5. 15～7. 11. 26

3. 研修目的・背景

熱帯・亜熱帯に位置する開発途上国においては畜産は基幹産業の一翼をなしており、家畜衛生は生産を維持する上で開発途上国の人々にとり大きな関心事である。

近年、世界的な規模で一般の急性伝染病に限らず、複雑な要因を含んだ慢性的疾患も顕著に見られるようになってきたため、従来からの診断方法に加え遺伝子工学を応用した新技術を駆使しての診断法が必要となってきた。

本コースは、家畜衛生専門家及び獣医を対象に、遺伝子工学を含む家畜衛生診断技術に関する講義・実習を通じて技術、研究能力を高めることを目的とする。

4. 到達目標

- 1) 日本の家畜衛生に関して包括的な知識を習得する。
- 2) 日本の家畜疾病診断及び治療に関する最新技術を習得する。
- 3) 新しい技術の研究手法に習熟する。

5. 研修対象者・資格要件

- 1) 自国政府からの推薦を受けた者
- 2) 獣医師で5年以上の実務経験を有する者
- 3) 十分な英語力を備えた者
- 4) 25才以上40才以下の者
- 5) 心身ともに健康であること（女性の場合は妊娠していないこと）
- 6) 軍籍を持たない者

6. プログラム概要

1) 研修項目

講義：遺伝子工学、免疫学等

実習：専門別研修

見 学：家畜衛生試験場支場他

2) 研修方法 (英語率)

講 義 : 11% (23%)

実 習 : 74% (100%)

研修旅行・見学 : 7% (41%)

そ の 他 : 8% (100%)

3) スケジュール

オリエンテーション：7・5・16～7・5・20

日 本 語 研 修：7・5・22～7・5・26

集 団 研 修：7・5・29～7・6・23

専 門 研 修：7・6・26～7・11・23

7. 受入実績 (当年度、積算)

当 年 度					当年度までの累積		
定 員	割当国数	応募人数	応募国数	受入人数	設立年度	回 数	受入人数
6	8	9	8	6	平成4年	4	26

当年度割当国及び受入人数 ( ) 内：中国(1)、ケニア(1)、ザンビア(1)、ブラジル、パラグアイ、  
フィリピン(1)、エチオピア(1)、アルゼンティン(1)

8. 実施体制

主な受入先：農林水産省家畜衛生試験場

直轄/委託：委託先：(財)日本国際協力センター

研修指導者：研究交流科長 石川 雅士

主任研究官 佐藤 真澄

研修監理員：柴田 芳美

1. コース名 (和文) : 物質工学研究  
(英文) : Polymer and Chemical Technology  
コースコード : J9500268

2. 研 修 期 間 : 7. 5. 15~8. 3. 10  
当センター実施期間 : 7. 5. 15~8. 3. 10

3. 研修目的・背景

化学工業は国の基幹産業であり、国民の生活に密接に関与しており、その基盤となる物質工学を含めた化学技術は非常に重要なものである。同分野での研究の進んでいるわが国は、化学工業の基礎的、技術的な基盤がまだ十分でない開発途上国に対して、若手研究者の育成、最新の化学技術研究の手法に関する技術移転が求められている。

本コースは開発途上国の国立研究機関、教育機関の化学技術分野の研究に従事している若手研究者を対象とし、研修員個人が選択した専門研究テーマに応じてそれぞれの研究室で受け入れ、一定の課題についての研究を進めながらその手法に関しての研修を行うものである。また、共通の講義や関連企業への見学などを通じ、わが国の化学技術に関する最新技術を紹介する。この経験により、自国の産業に貢献する基礎研究分野の専門家として研修員自身の研究能力を高めることと、将来のさらなる研究を啓発することが本コースの目的である。

4. 到達目標

- 1) 研修員が物質研で行われている基礎的、応用的研究に参加することにより、研究の本質を知り、研究手法を習得する。
- 2) 研修員が本人の研究分野で自国の化学工業に貢献しうる基礎的研究のできる研究者となるために必要な知識を習得する。

5. 研修対象者・資格要件

- 1) 自国の政府から推薦を受けた者
- 2) 大学卒の資格を有し、化学技術に関する基礎的研究を行う能力を持つ者
- 3) 当該分野の研究者として実務経験3年以上の者 (行政官は不適格)
- 4) 25才以上40才未満の者
- 5) 英語会話能力、記述能力を十分に備えた者
- 6) 心身ともに健康であること
- 7) 軍籍を持たない者

## 6. プログラム概要

### 1) 研修項目

#### ア. 共通講義：1週間

研修員全員に対し、物質研における研究活動に関する講義及び個別研修を行うにあたり必要とされる基礎講義を行う。

#### イ. 個別（専門）研修：32週間

物質研で行っている研究活動のうち、主に有機・無機・高分子材料科学、地球環境、エネルギー科学、標準・安全技術の研究分野から、21テーマを事前に用意し、研修員がその中からテーマを選択、研究室に配属され、指導研究官のもとで個別研修を行う。

#### ウ. 研修旅行

5日間程度の集団旅行を2回実施

### 2) 研修方法（英語率）

講義：3% (100%)                      実習：91% (100%)  
研修旅行・見学：5% (0%)              その他（討論・技術レポート発表）：1% (100%)

### 3) スケジュール

オリエンテーション                      : 7・5・16～7・5・20  
日本語研修                                 : 7・5・22～7・6・2  
集団研修（共通講義）                    : 7・6・5～7・6・9  
個別研修                                     : 7・6・12～8・3・8

## 7. 受入実績（当年度、積算）

当年度					当年度までの累積		
定員	割当国数	応募人数	応募国数	受入人数	設立年度	回数	受入人数
7	9	8	7	6	昭和56年	15	106

当年度割当国及び受入人数（ ）内：インドネシア(1)、大韓民国、フィリピン(1)、タイ(1)、エジプト、ブラジル(1)、メキシコ(1)、パラグアイ(1)、トリニダッド・トバゴ

## 8. 実施体制

主な受入先：通商産業省 工業技術院 物質工学工業技術研究所

直轄／委託：直轄

研修指導者：国際協力研究室長 中西 房枝

研修監理員：五味 昭

1. コース名 (和文) : 生命工学研究  
(英文) : Industrial Biotechnology  
コースコード : J9500285

2. 研 修 期 間 : 7. 5. 22~8. 3. 17  
当センター実施期間 : 7. 5. 22~8. 3. 17

3. 研修目的・背景

現在、先発的發展途上国では、二次産業としての製造業が重要な位置を占めているが、それを支える技術的基盤整備が未だ不十分な状態であるため、これら諸国の化学技術分野、中でも特に近年生命工学分野の研究者の資質の効果的な向上が熱望されている。本コースは、發展途上国の国立研究機関や教育機関の研究者を対象として各々専門に応じ、生命研の関係研究室で研究手法を学ぶ。さらに関連機関への見学等を通じて、研修員の持つ生命工学分野のレベル向上を図る。

4. 到達目標

- 1) 研修員が生命研で行われている基礎的、探索的研究(業務)に参加することにより研究の本質を知り、研究手法を習得する。
- 2) 研修員が本人の研究分野で自国の化学工業に貢献しうる基礎的研究のできる専門家となるために、必要な知識を習得する。

5. 研修対象者・資格要件

- 1) 大学の生命工学分野を卒業した者又は同等の資格を有する者
- 2) 当該分野の研究者として実務経験3年以上の者(行政官は不適格)
- 3) 25才以上35才以下の者
- 4) 十分な英語力を備えた者
- 5) 心身ともに健康であること(女性の場合は妊娠していないこと)
- 6) 軍籍を持たない者

## 6. プログラム概要

### 1) 研修項目

共通講義：生命研の各研究室で実施している研究についての概要説明

専門研修：11のテーマのなかから研修員が生命研と相談し、選択した特定の課題について研修指導官のもとで研究手法の研修を行う。

### 2) 研修方法（英語率）

講義：0%（0%）

実習：86%（100%）

研修旅行・見学：7%（0%）

その他：7%（100%）

### 3) スケジュール

オリエンテーション：7・5・23～7・5・27

日本語研修：7・5・29～7・6・9

専門研修：7・6・12～8・3・15

## 7. 受入実績（当年度、積算）

当年度					当年度までの累積		
定員	割当国数	応募人数	応募国数	受入人数	設立年度	回数	受入人数
5	7	7	5	5	昭和58年	13	101

当年度割当国及び受入人数（ ）内：ブラジル、タイ(1)、中国(1)、エジプト、フィリピン(2)、インドネシア(1)、トルコ

## 8. 実施体制

主な受入先：通商産業省 工業技術院 生命工学工業技術研究所

直轄／委託：(財)日本国際協力センター

研修指導者：生命工学工業技術研究所 国際研究協力官 田中 秀興

研修監理員：五味 昭



1. コース名 (和文) : 環境地図セミナー

(英文) : Global Mapping (Environment)

コースコード : J9503226

2. 研 修 期 間 : 7. 6. 19~7. 8. 27

当センター実施期間 : 7. 6. 19~7. 8. 27

3. 研修目的・背景

開発途上国では、環境の実態を正確に把握した地図の整備が遅れており、環境と調和した持続可能な開発を推進する上で大きな障害になっている。本セミナーは国家測量機関の代表者を集め、1994年に出雲市で開催された地球地図国際ワークショップでの決議を踏まえつつ、その国際協力に基づく環境地図整備の意義等についての理解を深めること、また測量行政施策技術を高めることを目的とする。

4. 到達目標

- 1) 環境地図整備について地球環境または各種行政施策推進上の意義を理解する。
- 2) 最新測量技術の動向、特に宇宙測地技術、人工衛星画像による地図作成技術、コンピューターマッピング等についての知識を深める。
- 3) これら新技術を自国に適用する能力を高める。
- 4) 測量事業計画および測量政策の立案能力を高める。
- 5) 国際協力による地図作成に関する調整能力を高める。

5. 研修対象者

- 1) 自国政府からの推薦を受けた者
- 2) 現在、国家測量機関または地図作成機関の課長級ポストに就いている者
- 3) 測量分野で、実務経験7年以上の者
- 4) 大学卒業または相当以上の学識がある者
- 5) 十分な英語力を備えた者
- 6) 心身ともに健康であること
- 7) 軍籍を持たない者

## 6. プログラム概要

### 1) 研修項目

講 義：地球地図概要、地球環境問題、地理情報処理技術、最新測量技術等

見 学：北海道方面、日本水準原点、経緯度原点、国立環境研究所、宇宙開発事業団等

そ の 他：カントリーレポート、テクニカルレポート発表会

### 2) 研修方法（英語率）

講 義 : 28% (89%)

実 習 : 41% (44%)

研修旅行・見学：19% (37%)

そ の 他 : 12% (92%)

### 3) スケジュール

オリエンテーション：7・7・20～7・7・23

集 団 研 修：7・7・26～7・8・25

## 7. 受入実績（当年度、積算）

当 年 度					当年度までの累積		
定 員	割当国数	応募人数	応募国数	受入人数	設立年度	回 数	受入人数
5	7	7	5	5	平成6年	2	12

当年度割当国及び受入人数（ ）内：中国(1)、大韓民国、インドネシア、マレーシア(1)、モロッコ(1)、ケニア(1)、コスタ・リカ(1)

## 8. 実施体制

主な受入先：建設省 国土地理院

直轄／委託：委託先：(財)日本地図センター

研修指導者：国土地理院 地理調査部 環境地理情報企画官 堀野 正勝

研修監理員：鈴木 恭子

1. コース名 (和文) : 法定計量

(英文) : Legal Metrology

コースコード : J9500513

2. 研修期間 : 7. 7. 17 ~ 7. 12. 17

当センター実施期間 : 7. 7. 17 ~ 7. 12. 17

3. 研修目的・背景

1992年に実施したコース見直しの結果、内容をニーズの高い法定計量の実務を中心とした新設コースとして実施されるものである。

本コースは発展途上国の法定計量の現場における検定実務の指導的立場にあるものを主たる対象として、日本における検定検査制度等の法定計量分野に関する講義・実習、見学等を通じて法定計量制度及びその運用方法を習得し、法定計量技術レベルの向上を目指すことを目的とする。

4. 到達目標

- 1) 法定計量制度の体系及び内容を習得する。
- 2) 日本における計量行政と計量技術に関する最新情報を習得する。

5. 研修対象者・資格要件

- 1) 自国政府から推薦を受けた者
- 2) 大卒あるいは同等の資格を有する者
- 3) 政府機関またはそれに準ずる機関で、現に法定計量に係わる業務に従事しており、3年以上の経験を有する者。ただし、研究者は除く
- 4) 25以上40才未満の者
- 5) 十分な英語力を備えた者
- 6) 心身ともに健康であること (女性の場合は妊娠していないこと)
- 7) 軍籍を持たない者

6. プログラム概要

1) 研修項目

技術研修                      16週間

①法令一般 (1週間)

②技術科目 (12週間)

③特定機関（3週間）

研修旅行 1週間

事業所視察研修 1週間

※法令等については講義

※検定・検査技術等については、実習・視察

2) 研修方法（英語率）

講義 : 26% (37%)

実習 : 50% (33%)

研修旅行・見学 : 5% (10%)

その他 : 19% (100%)

3) スケジュール

オリエンテーション：7・7・18～7・7・21

日本語研修：7・7・24～7・8・11

集団研修：7・8・14～7・12・15

7. 受入実績（当年度、積算）

当年度					当年度までの累積		
定員	割当国数	応募人数	応募国数	受入人数	設立年度	回数	受入人数
6	8	14	6	6	平成5年	3	17

当年度割当国及び受入人数（ ）内：ブラジル、タイ(1)、中国(1)、エジプト(1)、パキスタン(1)、  
サウディ・アラビア(1)、大韓民国、モーリシャス(1)

8. 実施体制

主な受入先：工業技術院 計量研究所 都道府県計量行政協議会

直轄／委託：委託先：(財)日本計量機器工業連合会

研修指導者：国際研究協力官 渡辺 紀之

研修監理員：深山 泰弘

1. コース名 (和文) : 測量技術Ⅱ  
(英文) : Surveying & Mapping Ⅱ  
コースコード : J9500048

2. 研 修 期 間 : 7. 7. 31~8. 7. 7  
当センター実施期間 : 7. 7. 31~8. 7. 7

### 3. 研修目的・背景

昭和33年に東京で開催された第2回国連アジア極東地図会議において発展途上国における測量・地図作成専門技術者養成の重要性が認識され、以降本コースが実施されている。前年まで「地図作成課程」と「測地測量課程」の2コースを隔年で実施していたが、今年度よりこの2コースを統合して、測量全般に精通することを目的とし、測地測量、写真測量、地図、編集印刷までを一元化させた。

### 4. 到達目標

- 1) 地図作成に不可欠な技術を習得する。
- 2) 地図作成の作業計画、精度管理、工程管理に必要な基礎的知識を習得する。
- 3) デジタルマッピング、GPS、VLBI、地理情報システムなどの新測量技術の知識を得る。
- 4) 自国で基本図作成の測量計画の立案ができるようにする。

### 5. 研修対象者・資格要件

- 1) 自国政府から推薦を受けた者
- 2) 現在測量または地形図作成に従事している測量技師で実務経験3年以上の者
- 3) 大学卒、もしくは大学卒相当以上の学識がある者
- 4) 十分な英語力（とくに会話力と書く能力）を備えた者
- 5) 25才以上で35才以下の者
- 6) 心身ともに健康であること（女性の場合は妊娠していないこと）
- 7) 軍籍を持たない者

### 6. プログラム概要

#### 1) 研修項目

講 義 基礎科目（法規、測地学概論、数学・最小二乗法、情報処理）測地測量（基準点測量、水準測量、地磁気測量、幾何測地学、地球物理学、重力測量）、地形測量（地形学、写真測量、リモートセンシング）、地図編集、応用測量（地籍測量、応用測量）、

地理調査、印刷、地図情報

実 習 測地測量（基準点測量、水準測量、地磁気測量、重力測量）、地形測量（写真測量、リモートセンシング）、地図編集（地図製図、アトラス）、地理調査、印刷、測地実習、地図情報、地球地図、測図実習、地理調査実習

見 学 観測所見学、測量会社、測量機器メーカー見学、測量原点見学、建設大学校他

## 2) 研修方法（英語率）

講 義 : 44% (53%)

実 習 : 21% (0%)

研修旅行・見学 : 14% (0%)

課題研究 : 18% (0%)

その他（討論・カントリーレポート発表）  
: 3% (0%)

## 3) スケジュール

オリエンテーション：7・8・1～7・8・5

日本語情報処理：7・8・7～7・8・25

集 団 研 修：8・8・28～8・7・5

## 7. 受入実績（当年度、積算）

当 年 度					当年度までの累積		
定 員	割当国数	応募人数	応募国数	受入人数	設立年度	回 数	受入人数
8	10	11	8	8	平成元年	7	63 (I-214)

当年度割当国及び受入人数（ ）内：バングラデシュ(1)、カンボディア(1)、マレーシア(1)、フィリピン(1)、スリ・ランカ(1)、モロッコ(1)、ガーナ(1)、ケニア(1)、ガイアナ、パナマ

## 8. 実施体制

主な受入先：建設省 国土地理院

直轄／委託：委託先：(財)日本地図センター

研修指導者：企画部国際協力官 福島 芳和

研修監理員：丸山かつ代、小川 成夫

1. コース名 (和文) : 森林研究 (森林)

(英文) : Forest Research Course (Forest)

コースコード : J9500501

2. 研 修 期 間 : 7. 8. 14 ~ 7. 11. 26

当センター実施期間 : 7. 8. 14 ~ 7. 11. 26

3. 研修目的・背景

日本における森林・林業・林産研究に関する広範な知識の習得を通して、開発途上国が抱える問題点に適切に対応できる研究者の育成及び研究水準の向上を図る。

4. 到達目標

母国が直面している諸問題における研究活動において、さらなる貢献ができるよう専門知識、研究手法の資質を向上させる。

5. 研修対象者・資格要件

- 1) 大学の卒業生又はこれと同等の資格を有し、林産研究の分野において5年以上の経験を有する者。
- 2) 現在、森林研究機関あるいは大学に勤務している者
- 3) 40才以下である者
- 4) 軍籍を持たない者

6. プログラム概要

1) 研修項目

一般講義 (集団研修) : 日本の林業、林産、森林環境総論、森林保護管理総論

専門講義 (集団研修) : 森林環境、森林生物分野 (植物生態、養分動態、立地環境、森林災害、治山、腐朽病害、土壤微生物、昆虫・鳥獣生態管理、遠隔探査、森林経営)

実 習 (専門別研修) : 研修員が選択したテーマ (種生態、養分動態、地理情報システム、森林昆虫、育林技術) について研究指導官のもとで研修を行う。

2) 研修方法 (英語率)

講 義 : 25.0% ( 61.5%)

実 習 : 31.9% (100 %)

研修旅行・見学 : 25.9% ( 31.8%)

そ の 他 : 17.2% (100 %)

(その他にはカントリーレポートの発表、テクニカルレポートの発表等を含む)

### 3) スケジュール

オリエンテーション：7・8・15～7・8・19

日本語研修：7・8・21～7・9・8

集団研修 一般講義：7・8・28～7・9・8

専門講義：7・9・11～7・10・12

専門別研修：7・10・13～7・11・24

### 7. 受入実績 (当年度、積算)

当 年 度					当年度までの累積		
定 員	割当国数	応募人数	応募国数	受入人数	設立年度	回 数	受入人数
5	7	6	5	5	平成5年	4	19

当年度割当国及び受入人数 ( ) 内：タイ、マレーシア、ブラジル(1)、ポリビア(1)、チリ(1)、  
バプア・ニューギニア(1)、ケニア(1)

### 8. 実施体制

主な受入先：森林総合研究所

直轄/委託：委託先：日本国際協力センター

研修指導者：海外研究情報調査科長 佐々 朋幸、他

研修監理員：松田 公代



1. コース名 (和文) : 河川及びダム工学Ⅱ  
(英文) : River and Dam Engineering Ⅱ  
コースコード : J9500169

2. 研 修 期 間 : 7. 8. 12～7. 12. 3  
当センター実施期間 : 7. 8. 12～7. 12. 3

3. 研修目的・背景

治水行政又は水資源開発に携わる研修員に講義、実習等を通じ、この分野の総合的知識と技術を習得させることを目的とする。

4. 到達目標

- 1) 最新の河川及びダム工学に関する包括的な知識を習得する。
- 2) 水文学的データ解析、流出モデル及びその応用技術を習知する。
- 3) (河川グループ) 河道特性、洪水防御計画、河川構造物の計画及び設計技術を習得する。  
(ダムグループ) 地質調査、基礎処理、フィルダム、コンクリートダムの計画及び設計技術を習得する。
- 4) 砂防、地滑り防止対策の計画及び設計技術を習得する。
- 5) 施行に関する概念を理解する。
- 6) 水に係る法体系の概念を理解する。

5. 研修対象者・資格要件

- 1) 自国政府からの推薦を受けた者
- 2) 本分野の技術者
- 3) 大学で土木工学を専攻し卒業した者で、河川及びダム工学分野で5年以上の経験を有する者、またはそれと同等の経験・知識を有する者
- 4) 35才以下の者
- 5) 英語の読み書き・会話が十分できること
- 6) 心身共に健康で、支障なく研修生活を送ることができること
- 7) 軍籍を持たない者

6. プログラム概要

1) 研修項目

本コースは、河川及びダムの2グループに分かれ、各々専門分野の研修を行う。

- 講 義 (共通講義) 日本の法律、水文、砂防、施工、洪水予警報等  
 (河 川) 河川モデル、洪水防御計画、河道計画、河川管理、砂防  
 (ダ ム) ダム計画、法令、地質調査、ダムの設計、ダムの安全管理
- 実 習 研修員が土木研究所と相談し選択した特定の課題について担当指導官の下で実習研修  
 を行いテクニカルレポートを作成する。
- 見 学 河川管理施設等の見学及び現地との意見交換等。

## 2) 研修方法 (英語率)

	〈河川コース〉	〈ダムコース〉
講 義	: 36.3% ( 80%)	33.4% ( 80%)
実 習	: 19.3% ( 89%)	22.2% ( 96%)
研修旅行・見学	: 29.6% ( 75%)	29.6% ( 75%)
そ の 他	: 14.8% (100%)	14.8% (100%)

## 3) スケジュール

オリエンテーション: 7・8・22～7・9・1  
 集 団 研 修: 7・9・4～7・11・14  
 専 門 研 修: 7・11・15～7・12・1

## 7. 受入実績 (当年度、積算)

当 年 度					当年度までの累積		
定 員	割当国数	応募人数	応募国数	受入人数	設立年度	回 数	受入人数
11	15	20	13	11	平成5年	3	26 (I-227)

当年度割当国及び受入人数 ( ) 内: 中国(1)、バングラデシュ、インドネシア(1)、マレーシア、  
 ネパール(1)、フィリピン(1)、スリ・ランカ(1)、イラン(1)、シリア(1)、  
 ボリヴィア(1)、ブラジル(1)、ホンデュラス(1)、ニカラグア、  
 スリナム、ヴェネズエラ(1)

## 8. 実施体制

主な受入先: 建設省河川局、建設省土木研究所  
 直轄/委託: 委託先: (財)国際建設技術協会  
 研修指導者: 中山 隆 (国際建設技術協会)  
 研修監理員: 堀江 克子、沓沢 清美

1. コース名 (和文) : 産業公害防止

(英文) : Industrial Pollution Control Research

コースコード : J9500363

2. 研 修 期 間 : 7. 8. 21 ~ 7. 12. 17

当センター実施期間 : 7. 8. 21 ~ 7. 12. 17

3. 研修目的・背景

水質汚濁、大気汚染、振動、騒音などの公害は今日ではオゾン層の破壊、酸性雨、熱帯雨林の減少、砂漠化、海洋汚染などの地球的規模の環境破壊の原因となっており、これらの問題は今や先進国のみ  
の問題ではなく、開発途上国の開発問題ともかかわる全人類共通の課題であると認識されている。

本コースは各国の産業公害防止に携わっている中堅科学者及び研究者に対してコンピュータ技術を含めて、講義、実習、及び専門別研修を通じて、公害防止技術研究手法に関する知識及び技術の向上を図ることを目的としている。

4. 到達目標

- 1) 日本における公害防止技術の現状を理解し把握する。
- 2) 現在の環境保全の分野におけるハイテク技術の傾向を把握する。
- 3) 研修員個々の専門分野における最新の研究手法を理解し習得する。
- 4) 産業公害防止分野技術に関する実験機器の操作を行う能力を習得する。

5. 研修対象者・資格要件

- 1) 自国政府からの推薦を受けた者
- 2) 公害防止技術に携わる科学者または技術者で3年以上の経験を有する者 (行政官は除く)
- 3) 大学の卒業者またはこれと同等の資格を有する者
- 4) シミュレーション用のFORTRANまたはBASIC言語のコンピュータプログラムの知識を有する者
- 5) 英語会話能力、記述能力を十分に備えた者
- 6) 40才以下である者
- 7) 心身ともに健康であること (女性の場合は妊娠していないこと)
- 8) 軍籍を持たない者

## 6. プログラム概要

### 1) 研修項目

共通講義：産業公害並びに公害防止技術に関する講義及び関連施設の見学

専門研修：各研修員の選定したテーマについて各研究室において講義・実習及び見学等により個別に研修を行う。その研修成果・結果をレポートとしてとりまとめ提出する。

研修旅行：わが国の自然的・社会的環境、公害発生及び防止体制の背景となる社会基盤の理解

### 2) 研修方法（英語率）

講義：12.3%（83%）

実習：71.0%（100%）

見学：3.6%（40%）

その他：13.1%（100%）

### 3) スケジュール

オリエンテーション：7・8・22～7・8・26

集団研修：7・8・28～7・9・11

専門研修：7・9・12～7・12・15

## 7. 受入実績（当年度、積算）

当年度					当年度までの累積		
定員	割当国数	応募人数	応募国数	受入人数	設立年度	回数	受入人数
6	7	17	8	6	昭和63年	8	43

当年度割当国及び受入人数（ ）内：インドネシア(2)、フィリピン(1)、タイ、アルゼンティン(1)、ブラジル(1)、メキシコ(1)、ペルー、ヴェネズエラ

## 8. 実施体制

主な受入先：通商産業省 工業技術院 資源環境技術総合研究所

直轄／委託：委託先：(財)産業環境管理協会

研修指導者：国際研究協力官 山下 安正 他

研修監理員：加藤 倫子

1. コース名（和文）：産業技術研究  
（英文）：Advanced Industrial Technology  
コースコード：J9500366

2. 研 修 期 間：7. 8. 28～8. 7. 28  
当センター実施期間：7. 8. 28～8. 7. 28

3. 研修目的・背景

社会・経済発展を推進するためには、産業技術の研究・開発を効果的かつ効率的に行っていく必要がある。近年、日本の先進技術は世界的に注目を集めており、世界各国から日本との共同研究や日本からの技術移転に対する要望が年々高まっている。

本コースは、発展途上国の産業技術の発展のために、発展途上国自らの手で研究開発能力の向上を図れるよう、次代を担う研究者を育成・強化することを目的としている。そのため、発展途上国の産業技術に係る有能な中堅研究者を対象に、工業技術院の各試験研究所において個人別の研究課題に基づき研究手法習得のための研修を実施するものである。

4. 到達目標

- 1) 日本の研究技術を習得する。
- 2) 自らの手により研究を立案、実行できる能力を養成する。

5. 研修対象者・資格要件

- 1) 自国政府から推薦を受けた者
- 2) 大学卒もしくは大学卒相当の学識があり、鉱工業分野での基礎研究を行う能力を持つ者
- 3) 現在鉱工業分野の研究に従事しており、同分野で3年以上の職務経験がある者  
（行政官はこの要件に合致しない）
- 4) 25才以上35才以下の者
- 5) 十分な英語力を備えた者
- 6) 心身ともに健康であること（女性の場合は妊娠していないこと。）
- 7) 軍籍を持たない者

## 6. プログラム概要

### 1) 研修項目

各自の選択した研究課題に基づき、担当する工業技術院の各試験研究所に分散して10か月の専門研修を行う。専門研修は、受入研究者の指導の下に、定められた研究課題についてマンツーマンの講義、実習を行い、わが国における研究成果や研究方法を直接学びとる方法により実施する。

### 2) 研修方法（英語率）

講義	:	92% (96%)
実習	:	
研修旅行・見学	:	7% (8%)
その他	:	1% (0%)

### 3) スケジュール

オリエンテーション：7・8・29～7・9・2  
日本語研修：7・9・4～7・10・2  
専門研修：7・10・3～8・7・26

## 7. 受入実績（当年度、積算）

当 年 度					当年度までの累積		
定 員	割当国数	応募人数	応募国数	受入人数	設立年度	回 数	受入人数
5	7	14	6	6	昭和63年	8	56

当年度割当国及び受入人数（ ）内：ブラジル、マレーシア、タイ(1)、中国(1)、フィリピン(1)、インドネシア(1)、トルコ(1)、他にルーマニアから個別1名が参加

## 8. 実施体制

主な受入先：通商産業省 工業技術院 各試験研究所

直轄／委託：委託先：(財)日本産業技術振興協会

研修指導者：通商産業省工業技術院国際研究協力課国際研究協力企画官室 三條 和博

研修監理員：中野真紀子

1. コース名 (和文) : 防災科学技術  
(英文) : Science and Technology for Disaster Prevention  
コースコード : J9500211

2. 研 修 期 間 : 7. 9. 4 ~ 7. 12. 3  
当センター実施期間 : 7. 9. 4 ~ 7. 12. 3

### 3. 研修目的・背景

わが国は地理的に各種自然災害を被りやすい立地条件にあり、例年、各種自然災害に見舞われていることから、防災科学技術の研究開発に大きな力を注ぎ、各国の防災科学技術に貢献できる確かな知識を有するに至っている。その中で本コースをより技術的かつ実践的なものとするため、平成5年度より「防災科学技術」にコース名を変更した。

本コースは、開発途上国における実際の防災計画立案等を担当している技術者に対し、講義を中心とした研修により最初の科学技術に基づく防災技術全般を紹介する。さらに、研修員相互のアイデアや情報を交換することにより自国の防災システムの改善に寄与することを目的とする。

### 4. 到達目標

- 1) 現代の防災科学技術全般について知識を深める。
- 2) 専門別研修の実習を通して実践的技術を習得する
- 3) 他国の災害防止技術のレベルと多様性を学び、自国で活かすための知識を習得するとともに国際協力の必要性について認識を深める。

### 5. 研修対象者・資格要件

- 1) 自国政府からの推薦を受けた者
- 2) 防災に関連する科学者または技術者であること
- 3) 防災に関連する科学技術分野の大学卒業生又は同等の資格を有する者
- 4) 防災に関する専門分野の研究または防災に関する技術的応用業務に7年以上従事した者
- 5) 40才以下の者
- 6) 十分な英語力を備えた者
- 7) 心身ともに健康であること (女性の場合は妊娠していないこと)
- 8) 軍籍を持たない者

## 6. プログラム概要

### 1) 研修項目

講 義 気象災害、地震防災、リモートセンシング、土砂災害関係

現 地 見 学 (講義項目に同じ)

専門別研修 地震防災、地震観測及び観測データ処理、洪水・津波・高潮、地すべり、リモートセンシング

そ の 他 各セッション終了時のレポート作成及び討論

### 2) 研修方法 (英語率)

講 義 : 59% ( 91%)

実 習 : 0% ( 0%)

研修旅行・見学 : 33% ( 35%)

そ の 他 : 8% (100%)

### 3) スケジュール

オリエンテーション：7・9・5～7・9・9

集 団 研 修：7・9・11～7・11・16

専 門 研 修：7・11・17～7・12・1

(特論)

## 7. 受入実績 (当年度、積算)

当 年 度					当年度までの累積		
定 員	割当国数	応募人数	応募国数	受入人数	設立年度	回 数	受入人数
9	11	20	11	11	昭和52年	19	183

当年度割当国及び受入人数 ( ) 内：インド(1)、ブラジル(1)、メキシコ(1)、コロンビア(1)、フィリピン(1)、インドネシア(1)、バングラデシュ(1)、サウディ・アラビア(1)、トルコ(1)、大韓民国(1)、アルジェリア(1)

## 8. 実施体制

主な受入先：科学技術庁防災科学技術研究所

直轄/委託：委託先：(財)資源協会

研修指導者：小林 光男 (国際研究協力官)

研修監理員：南日 育子



1. コース名 (和文) : 地震工学Ⅱ

(英文) : Seismology and Earthquake Engineering Ⅱ

コースコード : J9500012

2. 研 修 期 間 : 7. 9. 4 ~ 8. 7. 28

当センター実施期間 : 7. 9. 4 ~ 8. 7. 28

3. 研修目的・背景

地震予知、地震防災等に貢献できる人材を、講義、実習等を通じ育成することを目的とする。

4. 到達目標

- 1) 本分野の全過程について重要かつ最新の知識と技術を習得する。
- 2) 本分野についての計画策定能力を養成する。
- 3) 本分野についての指導能力を養成する。

5. 研修対象者・資格要件

- 1) 自国政府からの推薦を受けた者
- 2) 大学卒業者または地震工学、地震学分野で5年以上の経験を持つ者
- 3) 基礎数学(微分・積分等)を理解している者
- 4) 25才以上35才以下の者
- 5) 英語の読み書き・会話が十分できる者
- 6) 心身共に健康で、支障なく研修生活を送ることができること
- 7) 軍籍を持たない者

6. プログラム概要

1) 研修項目

講 義 : 地震構造論、構造解析、地震予知等

実 習 : 専門別研修

見 学 : 地震予知観測施設、建築施工現場等

個別研修 : 国立研究所、大学、企業等で各自の専門の研修を行う。

## 2) 研修方法 (英語率)

	〈地震学コース〉	〈地震工学コース〉
講義	: 64.3% (90.3%)	72.3% (100 %)
実習	: 12.0% (53.6%)	5.1% (100 %)
研修旅行・見学	: 21.2% (17.6%)	18.6% ( 68.6%)
その他	: 2.5% (50.0%)	4.0% (100 %)

## 3) スケジュール

オリエンテーション: 7・9・5～7・9・19

集団研修: 7・9・20～8・3・29

専門研修: 8・4・1～8・7・25

## 7. 受入実績 (当年度、積算)

当 年 度					当年度までの累積		
定 員	割当国数	応募人数	応募国数	受入人数	設立年度	回 数	受入人数
20	25	36	22	22	平成2年	6	117 (I-595)

当年度割当国及び受入人数 ( ) 内: 中国(1)、インド(1)、インドネシア(2)、ネパール(1)、パキスタン(1)、フィリピン(2)、ヴェトナム(1)、アルジェリア(1)、エジプト(1)、モロッコ、シリア(1)、トルコ(1)、イエメン(1)、エチオピア(1)、ギニア(1)、アルゼンティン(1)、チリ(1)、コロンビア(1)、コスタ・リカ(1)、キューバ(1)、エクアドル、メキシコ、ペルー(1)、ヴェネズエラ、パプア・ニューギニア

## 8. 実施体制

主な受入先: 建設省建築研究所

直轄/委託: 委託先: (財)建築研究振興協会

研修指導者: 国際地震工学部長 須藤 研

研修監理員: 伊藤 和子、新聞 潤子

1. コース名（和文）：石炭鉱山保安  
（英文）：Coal Mine Safety  
コースコード：J9500269

2. 研 修 期 間：7. 9. 11～7. 12. 10  
当センター実施期間：7. 9. 11～7. 12. 10

### 3. 研修目的・背景

わが国は昭和48年から韓国の鉱山保安に対する技術協力を続けてきたが、中国、インド、インドネシア、ペルー等からも同様の技術協力要請が相次ぎ、これを受けて本コースを開設することになった。

中堅クラスの技術者を対象に、わが国における石炭鉱山保安技術分野についての実践的知識を紹介し、これにより研修員の鉱山保安技術の向上に関する知識の向上を図ることを目的とする。

### 4. 到達目標

- 1) 日本における鉱山保安の現状及び保安法規の一般的理解をする。
- 2) 鉱山における通気システムの改善及び鉱山で使用する安全機器の検査・検定・整備ができるようになる。
- 3) 鉱山で発生する爆発及び爆破、ガス・炭塵爆発、鉱山火災、ガス突出等安全要件の確立と鉱山天盤制御技術等作業環境の改善と維持を理解する。

### 5. 研修対象者・資格要件

- 1) 自国政府からの推薦を受けた者
- 2) 大学卒業者又は同等の資格を有し鉱山保安の基礎知識を持つ実務経験3年以上の者
- 3) 年齢35才以下の者
- 4) 英語の読み書き・会話に十分通じている者
- 5) 心身共に健康で、支障なく研修生活を送ることができること
- 6) 軍籍を持たない者

## 6. プログラム概要

### 1) 研修項目

講 義 ①日本の鉱業の現状と保安行政 ②保安法規および検定法 ③保安の基礎  
④保安機器 ⑤保安教育

実 習 専門研修 (岩石力学、炭坑通気、保安機器、静電気・粉体爆発)

見 学 保安の基礎、保安機器、保安教育

そ の 他 工業技術院資源環境技術総合研究所の紹介等

### 2) 研修方法 (英語率)

講 義 : 31.7% ( 94.3%)

実 習 : 36.7% ( 87.5%)

研修旅行・見学 : 23.3% ( 28.6%)

そ の 他 : 8.3% (100 %)

### 3) スケジュール

オリエンテーション : 7・9・12～7・9・14

集 団 研 修 : 7・9・18～7・11・24

専 門 研 修 : 7・12・27～7・12・8

## 7. 受入実績 (当年度、積算)

当 年 度					当年度までの累積		
定 員	割当国数	応募人数	応募国数	受入人数	設立年度	回 数	受入人数
9	11	14	9	9	昭和56年	15	144

当年度割当国及び受入人数 ( ) 内 : 中国(1)、インド(1)、インドネシア(1)、マレーシア、フィリピン(1)、  
パキスタン(1)、イラン(1)、トルコ(1)、ブラジル(1)、チリ、  
コロンビア(1)

## 8. 実施体制

主な受入先 : 通商産業省 工業技術院 資源環境技術総合研究所

直轄/委託 : 委託先 : (財)石炭開発技術協力センター

研修指導者 : 安全工学部 化学防災研究室長 荷福 正治

研修監理員 : 湯原 敦

1. コース名（和文）：土木技術研究開発幹部セミナー

（英文）：Executive's Seminar on Public Works Research and Development

コースコード：J9503152

2. 研修期間：7. 9. 24～7. 10. 6

当センター実施期間：7. 9. 24～7. 10. 6

3. 研修目的・背景

開発途上国の急速な経済発展に伴い、各国の社会基盤整備事業の拡大と大規模化、多様化が著しく、それぞれの国情にあった適正技術の開発や導入、あるいは事業に関連した環境等総合調整を分担する高い水準の技術力と技術情報の交流が極めて重要な問題となっている。

また、わが国と開発途上国、及び途上国相互の技術・情報交流などの国際協力ネットワーク構築が不可欠になってきた。

そこで、わが国の社会基盤整備及びそれにかかわる研究開発の現況や課題を紹介するとともに、情報交換・討論等を通して、社会基盤整備の必要性並びにこれを推進するための土木技術研究・開発の重要性についての認識を深め、各国の社会基盤整備事業の安定に資する。

4. 到達目標

公共事業及び土木技術のための最新情報の紹介を通じ、研究・開発管理に関する知識の向上、また関係者との情報交換、討論等を通じ、研修員に上級幹部として、より高度な政策立案、管理ができる能力を習得する。

5. 研修対象者・資格要件

- 1) 自国政府から推薦を受けた者
- 2) 社会基盤整備関係の国立研究機関の所長又はその代理、あるいは中央官庁における土木技術研究・開発担当の責任者又はその代理となる者
- 3) 大学を卒業した者、または同等の資格を有する者（土木工学専攻が望ましい）
- 4) 英語の会話、読解、記述能力を十分に備えた者
- 5) 軍籍を持たない者

## 6. プログラム概要

### 1) 研修項目

国際シンポジウムに参加：アジア太平洋地域建設事業トップフォーラム（講演「阪神・淡路大震災の経験と復興」、「アジア・太平洋時代におけるインフラ整備」、分科会「大規模な自然災害軽減のための研究開発と国際研究協力」）

討 論：カンントリーレポートの発表、特定課題討論（大規模な自然災害軽減のための研究開発）、分野別課題討論

見 学：阪神・淡路大震災被災地、大阪市下水処理場、淀川左岸震災復興

### 2) 研修方法（英語率）

講義・討論 : 54.2% (100%)

実 習 : 0 % ( 0%)

研修旅行・見学: 41.7% ( 0%)

そ の 他 : 4.1% (100%)

### 3) スケジュール

オリエンテーション：7・9・25

集 団 研 修：7・9・26～7・10・4

## 7. 受入実績（当年度、積算）

当 年 度					当年度までの累積		
定 員	割当国数	応募人数	応募国数	受入人数	設立年度	回 数	受入人数
8	8	10	8	8	平成4年	4	30

当年度割当国及び受入人数（ ）内：バングラデシュ(1)、中国(1)、インド(1)、インドネシア(1)、大韓民国(1)、マレーシア(1)、フィリピン(1)、タイ(1)

## 8. 実施体制

主な受入先：建設省 土木研究所

直轄／委託：委託先：(財)土木研究センター

研修指導者：建設省土木研究所 企画部 国際研究協力官 大石龍太郎

研修監理員：伊藤摩利子、古谷野智江

1. コース名 (和文) : 湖沼環境保全セミナー

(英文) : Executive's Seminar on The Conservation and Management of Lakes

コースコード : J9503238

2. 研 修 期 間 : 7. 10. 16 ~ 7. 11. 5

当センター実施期間 : 7. 10. 16 ~ 7. 11. 5

### 3. 研修目的・背景

#### 1) コースの背景

現在、世界の湖沼は水位の低下や土砂の堆積、酸性化、富栄養化、有害物質による汚染など多くの問題に直面し、生態系の変化や固有生物種の絶滅も心配されている。

このような状況にあつて、1992年ブラジルで開催された「環境と開発に関する国連会議 — 地球サミット —」で採択された「アジェンダ21」において、淡水資源の確保と保護についても具体的な行動計画が示された。こうした中、平成7年に霞ヶ浦を中心に第6回世界湖沼会議が開催されることになった。開発途上国においても霞ヶ浦と同様に湖沼の富栄養化問題に悩まされている国は多い。このため、この世界湖沼会議の開催に合わせ、こうした国々の湖沼管理責任者を対象にセミナーを行い、同会議に参加させることで、今後の湖沼環境保全の方策や国際協力のあり方について協議すると同時に、わが国の湖沼環境保全対策の現状と実務を紹介する。

#### 2) コースの目的

湖沼の環境保全に係る研修の実施とともに、第6回世界湖沼会議における本コース参加者と世界各国の行政担当者・研究者との意見交換を通じて、本コース参加者が自国において湖沼環境管理を推進するにあたり中心的役割を果たす責任者となるよう養成する。

### 4. 到達目標

湖沼の環境保全・水質浄化のために、中心的な役割を果たす湖沼管理の責任者を養成する。また、湖沼環境を良好な状態で保全していく上で必要な措置や国際協力のあり方についての国際的合意形成に資する。

### 5. 研修対象者・資格要件

- 1) 中央もしくは地方の公的機関における湖沼管理の責任者
- 2) 当該分野における経験が10年以上
- 3) 大学卒もしくはそれと同等の学力を有すること
- 4) 軍籍を持たない者

## 6. プログラム概要

### 1) 研修項目

#### (1) 第6回世界湖沼会議に参加

論文発表、ワークショップ参加等を通じて、各国からの会議参加者と意見交換を行う。

##### ア. 論文発表

##### イ. ワークショップ

第7分科会「統合的な湖沼管理と国際機関の役割」

##### ウ. その他

霞ヶ浦セッション、国際湖沼環境政策フォーラム等の世界湖沼会議の議事への参加

#### (2) 講義

「霞ヶ浦の概要」、「世界湖沼会議統括」等9講義

#### (3) 討論

UNEP国際環境センター（滋賀県）にてUNEP、ILECおよび各講演者と討論を行う。

##### ア. 講演

「日本の公害」

「琵琶湖総合開発」

「滋賀県の実環境行政」

##### イ. 討論

各講演について討論を行う

#### (4) 視察・見学

##### ア. 霞ヶ浦湖上

##### イ. 日立土浦工場

##### ウ. インターエコテック in 霞ヶ浦（環境機器展）

##### エ. 滋賀県琵琶湖研究所

##### オ. 琵琶湖上

### 2) 研修方法（英語率）

講義・討論 : 56.3% (87.5%)

実 習 : 0% (0%)

研修旅行・見学 : 37.5% (75.0%)

その他 : 6.2% (90.0%)

### 3) スケジュール

オリエンテーション : 7. 10. 17

集 団 研 修 : 7. 10. 18～7. 11. 2



7. 受入実績（当年度、積算）

当 年 度					当年度までの累積		
定 員	割当国数	応募人数	応募国数	受入人数	設立年度	回 数	受入人数
15	20	27	19	18	平成7年	1	18

当年度割当国及び受入人数（ ）内：バングラデシュ(1)、カンボディア(1)、インド(1)、ラオス(1)、ネパール(1)、パキスタン(1)、スリ・ランカ 1(1)、ボツワナ(1)、エジプト、カメルーン(1)、ガーナ(1)、ケニア(1)、マラウイ(1)、セネガル(1)、タンザニア(2)、ウガンダ(1)、ザンビア、ジンバブエ(1)、グアテマラ、コロンビア(1)

8. 実施体制

主な受入先：茨城県

直轄／委託：委託先：(財)茨城県国際交流協会

研修指導者：なし

研修監理員：鈴木 恭子、黒鳥久美子

1. コース名 (和文) : グローバル地震観測  
(英文) : Global Seismological Observation  
コースコード : J9503276

2. 研 修 期 間 : 7. 11. 6 ~ 7. 12. 22  
当センター実施期間 : 7. 11. 6 ~ 7. 12. 22

### 3. 研修目的・背景

ジュネーブ軍縮会議は、昭和51年、核実験禁止についての地震学の手法を用いた検証実施を目的とした地震学専門家会合を設置し、全面的核実験禁止条約実現の側面支援を行うことを目指している。

本コースは当分野におけるわが国の国際協力の一環として、同専門家会合が決定した核実験探知ネットワークに参加すべき開発途上国を対象に、地震観測とその応用としての核実験探査技術の移転を目的として本年度実施することとなった。

### 4. 到達目標

グローバル地震観測分野での重要かつ最新の知識と技術を習得する。

### 5. 研修対象者・資格要件

- 1) 応募者在国政府からの推薦を受けた者
- 2) 大学卒または同等の資格を有する者で、地震学分野で10年以上の経験を有し、また現在地震観測・分析に携わっている者
- 3) 英語の読み書きに十分通じていること
- 4) 35才以下の者
- 5) 軍籍を持たない者
- 6) 心身ともに健康で、支障なく研修生活を送ることができること

### 6. プログラム概要

#### 1) 研修項目

講義及び実習 : (1)核探知問題と地震学 (6)遠地地震記録の解析  
(2)グローバル地震観測網 (7)アレイデータ解析  
(3)地震観測実習 (8)震源メカニズム  
(4)震源決定 (9)世界の地震活動  
(5)地震波データ処理 (10)核実験探知実習

見 学：東大地震研究所、気象庁松代観測所、阪神・淡路大震災被災地、広島

2) 研修方法 (英語率)

講義・討論 : 46% (100%)

実 習 : 6% (100%)

研修旅行・見学 : 25% (67%)

その他 : 23% (100%)

3) スケジュール

オリエンテーション：7. 11. 7～7. 11. 10

集 団 研 修：7. 11. 13～7. 12. 20

7. 受入実績 (当年度、積算)

当 年 度					当年度までの累積		
定 員	割当国数	応募人数	応募国数	受入人数	設立年度	回 数	受入人数
5	5	8	5	5	平成7年	—	5

当年度割当国及び受入人数 ( ) 内：インドネシア(1)、ケニア(1)、ザンビア(1)、ボリヴィア(1)、  
コロンビア(1)

8. 実施体制

主な受入先：建設省建築研究所

直轄/委託：(株)建築研究振興協会

研修指導者：なし

研修監理員：鈴木 恭子

1. コース名 (和文) : 放射線安全管理実務者  
(英文) : Radiological Protection for Radiation  
Safety Officers at Nuclear Facilities  
コースコード : J9500482

2. 研修期間 : 8. 1. 29～8. 3. 7  
当センター実施期間 : 8. 1. 29～8. 3. 7

3. 研修目的・背景

石油にかわる代替エネルギーとして、原子力の開発・利用を行う国が増えている現状で、原子力発電所等での事故が注目されるようになり、安全維持管理が最優先となっている。原子力先進国となったわが国は、原子力開発途上諸国に積極的に協力を行う国際的責任がある。その技術協力のひとつとして、放射線安全管理を担当する若い技術者を対象に原子力施設に従事する作業員の放射線管理及び同施設周辺の住民の放射線安全管理に関する研修を行い、放射線管理についての知識・技術の習得を目的とする。

4. 到達目標

- 1) 放射線防護に関する技術を習得する。
- 2) 個人被ばく管理に関する技術を習得する。
- 3) 環境安全技術を習得する。
- 4) 放射線計測技術を習得する。
- 5) 放射線測定機器の保守点検及び校正に関する技術を習得する。

5. 研修対象者・資格要件

- 1) 自国政府からの推薦を受けた者
- 2) 大卒 (原子力および放射線管理の知識がある者)
- 3) 原子力関係施設に1年以上5年未満従事経験のある放射線安全管理技術者であること
- 4) 23才以上35才以下の者
- 5) 十分な英語力を備えた者
- 6) 心身ともに健康であること (女性の場合は妊娠していないこと)
- 7) 軍籍を持たない者

## 6. プログラム概要

### 1) 研修項目

講 義 放射線防護、放射線測定、生物学的影響と線量限度、内部及び外部被ばく、環境評価、放射線測定機器の保守・校正

実 習 放射線計測、環境モニタリング・分析、放射線測定機器の保守・校正、個人被ばく、放射線管理

見 学 動燃事業団の原子力関連施設、日本原子力研究所等

### 2) 研修方法 (英語率)

講 義 : 20% (100%)

実 習 : 40% (64%)

研修旅行・見学 : 34% (75%)

その他 : 6% (100%)

### 3) スケジュール

オリエンテーション : 8. 1. 30 ~ 8. 2. 3

集 団 研 修 : 8. 2. 5 ~ 8. 3. 5

## 7. 受入実績 (当年度、積算)

当 年 度					当年度までの累積		
定 員	割当国数	応募人数	応募国数	受入人数	設立年度	回 数	受入人数
5	7	10	5	6	平成2年	6	33

当年度割当国及び受入人数 ( ) 内 : バングラデシュ(1)、インドネシア(2)、中国(1)、トルコ、マレーシア、フィリピン(1)、タイ(1)

## 8. 実施体制

主な受入先 : 動力炉・核燃料開発事業団

直轄/委託 : 直轄

研修指導者 : 核燃料サイクル工学研修室 橋爪 晃

研修監理員 : 堀江 克子

資料3 筑波インターナショナルセンター・ブリーフィング・オリエンテーション概要

実施日	時間		概 要	講 師 氏 名
1日目	9:45 ↓ 12:00	ブリーフィング 筑波インターナショナルセンターでの生活についての留意事項、登録、VISA確認、銀行通帳等説明、医療保険等手続き、allowanceの説明)		
	13:00 ↓ 17:00	所長あいさつ(日本のODAの紹介) ビデオによるJICA及びTBIC紹介 福利厚生説明		
2日目	9:45 ↓ 11:15	コースオリエンテーション 日本語		
	11:30 ↓ 16:00	つくば市内見学 インフォメーションセンター～常陽銀行～ ショッピングセンター～市役所(外人登録)		
3日目	9:45 ↓ 11:15	日本語	日本語の歴史、言葉の特徴を概説し、簡単な日常会話のレッスンをを行う。	
	11:30 ↓ 12:00	オリエンテーションの各講義概要説明		
	13:00 ↓ 15:00	講義「日本の経済」	「日本の経済」 今日の日本経済発展と基礎となった諸要因を政策、政治、教育、国際環境等の例をとり説明し、労使関係、及び日本経済の最近の動向にもスポットをあてる。 経済技術協力の現状と今後にも触れ、まとめとする。	筑波大学教授 久保雄志
	15:10 ↓ 17:10	講義「日本の歴史と文化」	「日本の歴史と文化」 日本の歴史を概観し、同時に海外からの文化移入と国風化の過程を追う。日本文化の特殊性を伝統文化と現代文化との対比等により紹介する。	筑波大学助教授 小野沢正喜 筑波大学講師 竹沢泰子
4日目	10:00 ↓ 12:00	講義「日本の政治及び行政機構」	「日本の政治及び行政機構」 江戸時代、近代、現代の流れを概観する。日本の中央と地方の行政関係、公務員の地位、日本独特の行政指導等の説明を通じて政治、行政の基本的理解をあたえる。	筑波大学助教授 辻中豊
	13:00 ↓ 15:00	講義「日本の社会と日本人」	「日本の社会と日本人」 日本の社会・風土の特徴を概観し、日本人のものの見方、行動パターンを分析し、考え方の基本を明らかにし、日本についての理解の基礎を提供する。	大正大学助教授 星川啓慈
	15:10 ↓ 17:10	講義「日本の教育」	「日本の教育」 日本の教育について、江戸時代まで遡って概説し、日本の経済発展に果たした役割とその今後の展望を明らかにする。	筑波大学教授 村田翼夫
5日目	9:30 TBIC発 17:00 TBIC着	東京都内見学 TBIC～浅草～秋葉原(昼食)～銀座～皇居前広場～霞ヶ関～新宿(都庁ビル)～TBIC		

## 2. 日本語研修

平成7年度日本語研修は、前年度に引続き、財団法人日本国際協力センターに委託して実施され、集中講習22クラス、一般講習43クラスで延べ596人の研修員が講習を受けた。原則として集中講習は研修計画の一環として昼間に1日5時間実施し、殆どが50時間の講習であった。一般講習は希望者を対象にし、原則として夜間に、1クラスについて2時間の授業を週2回実施した。また通常のクラス授業以外に特別クラスとして文化や文字の紹介、質疑応答、会話練習を行うサロン等を開講し、延べ706人の参加があった。

当センターが実施している研修コースでは英語による指導が行われているが、日本語を理解することを通して (1)研修先の日本人指導教官、受け入れ関係者とのコミュニケーションを円滑にし、研修効果を高める、(2)滞在中の日常生活をより円滑に、また有意義なものとする、(3)日本、日本文化を理解する手助けとすることを目的として実施している。

平成3年度から一般講習の充実を図るため、入門、Kクラス（集中からの継続）、初級、中級の大きな4段階クラスに分け、自らの語学力に応じて参加できるよう年間を通じてクラスを設定した。

### 1. 集中講習

	A 欄	B 欄	C 欄	合計
クラス数	1	20	1	22
人数	13	187	15	215
時間数	5.0	903.5	40.0	948.5

A欄は平成6年度から継続したクラス。  
B欄は平成7年度内に開始、終了したクラス。  
C欄は平成8年度へ継続したクラス。

### 2. 一般講習（通常クラス）

	A 欄	B 欄	C 欄	合計
クラス数	5	33	5	43
人数	47	287	47	381
時間数	96.0	826.0	36.0	958.0

A欄は平成6年度から継続したクラス。  
B欄は平成7年度内に開始、終了したクラス。  
C欄は平成8年度へ継続したクラス。

### 3. 一般講習（特別クラス）

	文化	文字	サロン	特別活動	補講	合計
実施回数	16	3	28	3	30	80
延べ人数	167	45	191	287	16	706
時間数	49.5	36.0	58.0	71.0	46.0	260.5

### 4. オリエンテーション

回数	19
時間数	28.5

総時間数：2195.5時間

$$= 948.5 \text{ h} + ( 958.0 \text{ h} + 260.5 \text{ h} ) + 28.5 \text{ h}$$

集中
一般通常クラス
一般特別クラス
オリエンテーション

### 3. コンピューター講座

当センターが実施している殆どの研修コースの中にコンピューターが導入されており、研修員もこれに関する基礎知識と簡単な操作能力が要求されるようになった事情から、本年度も昨年度に引き続き、希望する研修員に対し、夜間にパーソナルコンピューター講座を開講した。本講座は(財)日本国際協力センターに委託して実施した。

本年度はMS-WORKSコースを中心に実施した。開講に際しては、講座の目的及びコース内容についての資料を用意して事前に研修員への説明を行い、研修コース毎に日程を調整する方式とした。受講者数は、353名であった。実施概要は次のとおりである。

コース内容	MS-WORKS 特別講座(質疑応答)	ワープロ機能、計算機能 データベース機能等習得
実施回数	MS-WORKS	28回
	特別講座	22回
		合計 50回
受講研修員	MS-WORKS	217名
	特別講座	136名
		合計延 353名

#### 講師氏名

講師は、すべて工業技術院の研究官に依頼した。

小川康雄	主任研究官	理学博士
岸本清行	主任研究官	理学博士
鈴木祐一郎	主任研究官	理学博士
棚橋学	主任研究官	理学博士
佃栄吉	主任研究官	理学博士
当舍利行	研究員	理学博士
宮崎芳徳	主任研究官	理学博士
西村清和	主任研究官	理学博士
渡辺芳夫	主任研究官	理学博士
土田聡	研究員	理学博士
倉本真一	研究員	理学博士
佐柳敬三	研究員	理学博士

#### テキスト

講義には、Textbook for TBIC Personal Computer Course (Integrated Use of Computers by MS-WORKS) を使用した。



## 4. 帰国研修員巡回指導

帰国研修員に対するフォローアップ事業の一環として本年度は、筑波インターナショナルセンター扱い分として、自動車の安全・公害対策技術帰国研修員と防災科学技術帰国研修員に対する現地巡回指導を実施した。

### 4-1 「自動車の安全・公害対策技術」コース

(派遣目的)

集団研修「自動車の安全・公害対策技術」コースは、モータリゼーションに伴う安全、公害、エネルギー等の問題に対処する知識と技術等を紹介する目的で、1990年に「モータリゼーション」コースとして設立された。その後、1993年に研修内容をより明確に表すべくコース名を現在のものに変更され、現在に至る。

同コースにおいては、これまで23ヵ国1地域76名の研修員を受け入れており、そのうちコロンビアからは5名、アルゼンティンからは6名が参加している。

本フォローアップ調査団は研修員受入事業のアフターケアの一環として、主に以下の目的で派遣を行った。

- (1) 帰国研修員及びその所属先の技術的問題に対する助言
- (2) 研修効果の調査
- (3) 訪問国における当該分野の現状及び人材育成のための研修ニーズの調査

(団員構成)

	<u>担当業務</u>	<u>氏名</u>	<u>派遣時現職</u>
団長	総括	石垣秀生	財団法人日本自動車研究所 参事
団員	技術指導	加地浩成	財団法人日本自動車研究所 第一研究部 主席研究員
団員	業務調整	土屋友里恵	国際協力事業団 筑波インターナショナルセンター 研修課

(派遣期間)

平成7年10月16日～平成7年10月29日

#### 4-2 「防災科学技術」コース

##### (派遣目的)

集団研修「防災科学技術コース」は、発展途上国における防災技術担当者を対象として1977年に第1回集団研修を実施して以来、今年（1995年）で第19回目を迎える。この19年間に40カ国から184人の研修員を受け入れるに至っている。当事業団では帰国研修員のフォローアップ事業の一環として、現在、継続して実施されている集団研修コースの中から選別して、フォローアップチームの派遣を行っている。これは、わが国で実施した研修の効果を評価し、将来の研修に対するニーズを把握することにより、今後の研修員受け入れ事業並びにフォローアップ事業の向上と改善に資することを目的としている。「防災科学技術コース」に関するフォローアップ調査は1984年（フィリピン、インドネシア）、1990年（ペルー、ベネズエラ、コロンビア）について今回の調査が3回目となる。今回のフォローアップチームは、中南米諸国では比較的帰国研修員の人数の多いメキシコ（5名）、エル・サルヴァドル（5名）及びチリ（6名）を対象として、事前にアンケート調査を行うとともに当該コースの帰国研修員の所属機関及び派遣機関等の関係機関などを訪問し、帰国研修員ならびに関係機関の担当官との面談を行った。あわせて日本における防災技術、特に、「地震防災」、「土砂災害防災」、「風水害防災」についての技術セミナーを開催し、広く防災技術の普及を図った。また、1990年代が国際防災の10年（IDNDR）として国連で決議され、活動が開始された今、開発途上国の防災技術レベルの向上にどのような協力が必要とされているかについても、訪問国の防災関係機関担当官ならびに帰国研修員に対してアンケート調査を行った。

##### (団員構成)

<u>担当業務</u>	<u>氏名</u>	<u>派遣時現職</u>
団長・技術指導	森 脇 寛	科学技術庁防災科学技術研究所 防災総合研究部 気象防災研究室長
技術指導	中 根 和 郎	科学技術庁防災科学技術研究所 気圏・水圏地球科学技術研究部 水循環研究室長
業務調整	吉 田 ひとみ	国際協力事業団 筑波インターナショナルセンター 研修課

##### (派遣期間)

平成7年8月14日～平成7年9月2日

## 5. 研修実施機関関係者に対する英語研修

研修効果を十分上げるためには、研修指導者と研修員の間で円滑なコミュニケーションが保たれる必要がある。特に筑波においては、研究学園都市という土地柄、集団コースでも個別専門分野に分かれて研修するコースが多く、全ての研修員に対し研修監理員を配置することができない。このため十分に研修効果を上げるには、個々の研修指導者の語学力が不可欠となっている。このため研修員受入機関の研修指導者及び予定者に対し、英語による技術指導・技術移転を円滑に行う手法を実践的に講習することを目的として、英語の習熟度に対応した上級及び普通の2コース英語研修を実施した。なお平成7年度は第15回目となり、(財)日本国際協力センターに委託し実施した。

期 間	平成7年9月12日～12月12日	
時 間	毎週火・金曜日（18：30～20：30）	
場 所	T B I C セミナールーム	
受講者	資料5-2のとおり	
講 師	Dr. Paul, P. Brumby	麗澤大学助教授
	Mr. Paul, V. Axton	アメリカン・クリスチャン・カレッジ代表
	Ms. Julie, Vernon-Edo	(加) 筑波大学 外国人教員
	Mr. Martin, E. Pauly	筑波技術短期大学助教授

本年度の受講者は31名で、次の2コースに分けて23日間計46時間実施した。

普通コースは研修員が研修及び生活の場で経験が予想される各種場面に対応する英語力を養成するクラスとし、アドバンスコースにおいては研修員受入機関の指導者が英語による講義及び実習指導を行う際の効果的な説明手法について指導し、受講者の英語能力を高めるクラスとした。

使用テキストはAクラスがEnglish First Handを主教材とし、BクラスがEarth Science他を主教材として、さらに講師が独自に用意した教材も使用した。

英語を第二外国語として学んだ人が、英語でいかに効率よく生徒に説明し、理解させるかという実践的講習であるので、受講者から非常に有益だという評価を得た。

資料5-1 第15回英語講座参加機関及び人数（五十音順）

研 修 参 加 機 関	参加者人数（人）
科学技術庁 防災科学技術研究所	1
建設省 建築研究所	2
建設省 国土地理院	4
建設省 土木研究所	2
(財)日本自動車研究所	2
農林水産省 家畜衛生試験場	2
農林水産省 森林総合研究所	4
農林水産省 農業生物資源研究所	2
通商産業省 工業技術院 機械技術研究所	1
通商産業省 工業技術院 計量研究所	0
通商産業省 工業技術院 資源環境技術総合研究所	2
通商産業省 工業技術院 生命工学工業研究所	3
通商産業省 工業技術院 地質調査所	0
通商産業省 工業技術院 物質工学工業研究所	3
計	31

## 平成7年度研修員受入機関指導者語学(英語)講座受講生名簿

## クラス別 中級

No	所属研究機関	所属部署	氏名
01	生命工学工業技術研究所	微生物機能部・微生物資源研究室	東原孝規
02	農業生物資源研究所	遺伝資源第一部・微生物探索評価研究チーム	落合弘和
03	機械技術研究所	基礎技術部・バイオミメティクス研究室	岡崎義光
04	物質工学工業技術研究所	無機材料部・無機機能設計研究室	山口 巖
05	家畜衛生試験場	企画連絡室・衛生検査科	沢田 浩
06	森林総合研究所	森林環境部・土壌化学研究室	石塚成宏
07	土木研究所	材料施工部・化学研究室	佐々木 巖
08	国土地理院	測地部・測地第二課	岩田昭雄
09	国土地理院	測図部・写真測量技術開発室	阿久津 修
10	建築研究所	国際地震工学部・管理室	田崎敏弘
11	建築研究所	企画部・企画調査課	林 隆弘
12	資源環境技術総合研究所	環境影響予測部・海洋環境予測研究室	堀口文男
13	資源環境技術総合研究所	総務部・業務課	関 政博
14	(財)日本自動車研究所	第1研究部	土屋賢次
15	(財)日本自動車研究所	第2研究部	小池 博
16	防災科学技術研究所	気圏・水圏地球科学技術研究部・水循環研究室	葛葉泰久

平成7年度研修員受入機関指導者語学（英語）講座受講生名簿（最終結果）

クラス別 上級

No	所属研究機関	所属部署	氏名
01	生命工学工業技術研究所	微生物機能部・生態化学研究室	陶山哲志
02	生命工学工業技術研究所	分子生物部・遺伝子工学研究室	新聞陽一
03	農業生物資源研究所	分子育種部・酸素化学研究室	野津祐三
04	森林総合研究所	生産技術部・物質生産研究室	宇都木玄
05	森林総合研究所	林業経営部・資源解析研究室	斎藤和彦
06	森林総合研究所	木材化工部・複合化研究室	川元スミレ
07	物質工学工業技術研究所	化学システム部・反応工学研究室	依田智
08	物質工学工業技術研究所	複合材料部・複合材料設計研究室	安本勝哉
09	国土地理院	地理調査部・地理第一課	清水雅行
10	国土地理院	地殻調査部・観測課	鈴木平三
11	家畜衛生試験場	研究第一部・原虫第一研究室	河津信一郎
12	土木研究所	ダム部・水工水資源研究室	安達孝実
13	筑波インターナショナルセンター	研修課	土屋友里恵
14	筑波インターナショナルセンター	研修課	鈴木昭彦
15	筑波国際農業研修センター	研修室	日原一智

## 6. その他の活動記録

### 6-1 準高級研修員を含む外国人への便宜供与等

今年度は、次のとおり、準高級研修員を含む外国人に対し、当センターの活動及び筑波研究学園都市等の説明をした。

番号	年月日	氏名	事項名	国籍	現職	視察場所	備考
1	7.6.7	Mr.Loo Chong Woe 他21名	青年招聘事業のシンガポール教員来セ	シンガポール	教員他	筑波インターナショナルセンター他	
2	7.6.10	Ambassador. Manouchehr MOTTAKI 他2名	表敬訪問	イラン	在日イラン大使		在日イランより
3	7.6.16	Dr. Syamar Kumar SARKAR	国際協力事業紹介	インド	大蔵省経済総合部課長		準高級
4	7.7.27	Ms. Rina Elizabeth CASTELLANOS	国際協力事業紹介	エル・サルバドル	経済・社会開発企画調整課長	国立科学博物館筑波実験植物園	
5	7.8.28	Mr. Teklewoini Assesa Hagos	緑の推進プロジェクト	エチオピア	緑の推進プロジェクト (NGO) リーダー	所長表敬	
6	7.8.29	Mr. Aman Hassen		エチオピア	外務省第2次官	表敬、施設見学、概要説明	外務省より
7	7.9.28	Ms. Shi Huaqun 他8名	JICA現地職員本邦研修	中国他	JICA現地職員	表敬、施設見学、概要説明	
8	7.10.6	Mr. Marcos G. Namashula		モザンビーク	外務省アジアオセアニア局長	表敬、施設見学、概要説明	外務省より
9	7.11.14	Mr. Tieng Bun Nhassy 他3名	国際協力促進(日本語)	カンボジア	外務省国際協力省他		九州センターより
10	7.12.15	Mr. Jiang Xiaoping	国際協力促進	中国	国家科学技術委員会日本処科長	表敬、施設見学、概要説明	九州センターより
11	7.12.20	Mr. Saleh Idris Kekia		エリトリア	外務省次官	表敬、施設見学、概要説明	外務省より
12	8.1.19	Mr. David White-foot Steward		南アフリカ	ア・クラーク副大統領府局長	表敬、施設見学、概要説明	外務省より
13	8.2.6 ~8.2.7	Mr. Fahad S.A. Al-Rwis	国際協力促進	サウジアラビア	人事院研修・奨学局研修課長	表敬、施設見学、概要説明	準高級

## 6-2 その他広報等の活動記録

今年度は、下記のとおり、国際協力に関する広報活動及び地域との交流の一環として、事業団及び当センターの概要説明、その他便宜供与を行った。

番号	年月日	対象者	事項	場所	備考
1	7.4.5	茨城県警察官	国際社会における警察官のあり方	茨城県水戸市	森本所長の講演
2	7.4.7～7.4.8	新規採用職員44名	JICA新規採用職員研修	当センター	
3	7.4.10	筑波大学日本語学科学生	当センターにおける日本語教育	当センター	来訪
4	7.4.20	外務省技術協力課山城事務官	研修打ち合わせ及び施設見学	当センター	来訪
5	7.5.11	JICAインドネシア事務所長	研修打ち合わせ	当センター	来訪
6	7.6.8	つくば研究交流センター塚本所長	施設見学	当センター	来訪
7	7.6.16	当センター研修員	交通安全講話	当センター	県警交通安全課長講話
8	7.8.25	JICA亀若誠理事・田口俊郎前理事	研修打ち合わせ	当センター	来訪
9	7.8.30	茨城県庁各課関係者	国際協力施策研究会 (国際協力ワークショップ)	水戸市三の丸ホテル	所長及び総務課長他
10	7.8.31	JICA小山理事	施設見学	当センター	来訪
11	7.9.29	茨城県職員及び財団交流協会職員	国際協力講演会	水戸市	所長及び総務課長他
12	7.10.20	外務省堀江技術協力課長	施設見学	当センター・国土地理院・資源環境技術総合研究所	来訪
13	7.11.7	柏市高齢者	国際協力についての講演	柏市	総務課長
14	7.11.15	JICA小山総務部長	施設見学	当センター・国土地理院・宇宙開発センター	来訪
15	7.12.5	神林(株)カスミ社長・飯村茨城新聞取締役・森本所長	茨城新聞紙上鼎談	筑波第1ホテル	
16	7.12.15～12.17	JMTDR研修会参加者(北里大学病院医師他31名)	JMTDR研修会	当センター	
17	8.1.17～8.1.19	緊急援助隊業務調整員研修会参加者33名	緊急援助隊業務調整員研修会	筑波国際農業研修センター	
18	8.1.20～8.1.20	緊急援助隊員機材習熟訓練(警視庁第6機動員他43名)	緊急援助隊員機材習熟訓練	筑波国際農業研修センター	
19	8.3.10	守谷町国際交流フォーラム参加者	国際協力について	守谷町	森本所長の講演
20	8.3.23	財茨城県国際交流協会主催「国際交流・国際協力のつどい」	財茨城県国際交流協会主催「国際交流・国際協力のつどい」	水戸市	森本所長の講演



## 7. 研修員の福利・厚生

研修員受入事業は、研修員のための技術の習得並びに、その向上に主眼をおいて実施されるが、これを全うするために受入研修員の福利・厚生に留意することが極めて重要である。

当センターの平成7年度福利・厚生活動は、次の諸点を考慮し、実施した。

- (1) 原則として月1回の行事を実施する。
- (2) 茨城県をはじめ県内各種機関・団体との交流を深める。
- (3) 地域住民との交流の機会があるときは、積極的にこれに参加し、国際親善を図る。
- (4) ボランティアグループとの接触を図り、その行事に参加する。
- (5) 医療体制の充実を図る。

活動状況は次のとおりである。

### 7-1 レクリエーション

#### (1) 概要

センター独自の行事を計画、実施するとともに、国際的な視野、考え方から県、市町村、その他各種団体による招待行事に積極的に参加した。

各種行事への参加により、研修員は日本の文化の一端に触れることができ、また、地域住民との親善も図られ、帰国後も良い思い出になることと思われる。(参考資料9-7平成7年度研修員厚生活動実績表参照)

#### (2) ボランティア団体との会議

前年度より当センターの研修員の厚生活動行事等に協力的なボランティアグループとの懇親会を開催しているが、第2回目は、平成8年1月18日(木)に「ボランティア団体との新春懇談会」という行事名の下に会議を行い、14団体40名の参加を得た。

新しい企画として、JICA本部より岩元克理事(現エル・サルバドル大使)の「国際協力事業の現況と今後課題」についての講演と、10年以上にわたり当センターに対して、多大な協力のあった下記6団体に対し所長名による感謝状及び粗品を贈呈した。

(感謝状贈呈の団体名) (50音順)

- (1) コスモエコー
- (2) つくば学園ロータリークラブ
- (3) つくば青年会議所
- (4) 土浦ライオンズクラブ
- (5) 土浦ユネスコサンフラワーズ
- (6) 谷田部ライオンズクラブ

## 7-2 医療

### (1) 研修員の健康診断制度の導入

前年度から実施している6ヶ月以上の滞在の研修員に対する健康診断制度を導入し、平成7年11からは3ヶ月以上の研修員にも適用したので170名が受診した。本制度の拡大により、高血圧、糖尿病、肝炎等の疑いがあるという結果に基づくものと判断されるが、総合病院での再検査等の通院が著しく増加し、前年度比で約12%増となった。

### (2) 嘱託医制度

研修員の技術の習得を図るには、センターとして日頃の研修員の健康保持に配慮することも重要である。このため、研修員に対する厚生活動の一環として、医療体制の充実に留意し、平成7年度も3名の嘱託医の協力により、週2回の「Visiting Doctor制」による健康診断を実施した。

嘱託医制度導入の効果として、次の諸点を上げることができる。

- 1) 研修員の外部病院への通院が減少する。(但し、上記に説明した理由によりこの目的は果たせなかった。)
- 2) 嘱託医に身体上のことだけでなく、それ以外の悩みまで打ち明けられ、精神的な安定が図られる。
- 3) 嘱託医の紹介により、外部病院との連絡が極めて取りやすい。

センターの研修員医療に協力を得ている病院は、嘱託医の病院を含め、次のとおりである。

総合病院 筑波学園病院 (急患可)、牛久愛和総合病院 (急患可)、筑波大学附属病院、

東京医大霞ヶ浦病院、筑波メディカルセンター (急患可)

医療法人 社団成心会：循環器科、外科

東光台内科クリニック：胃腸科

結束耳鼻科医院

竹園眼科

竹園皮膚科

雨宮歯科

高橋整骨院

庄司産婦人科

平成7年度に研修員が嘱託医を利用した月別回数は、次のとおりである。

年 月	H 7									H 8			12ヶ月 合 計	月平均
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
利用回数	51	41	42	36	16	48	44	37	9	3	25	43	395	33

また、病院へ通院した研修員の月別人数は次のとおりである。

年 月	H 5									H 6			12ヶ月 合 計	月平均
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
病院通院 人数	87 ( 7)	111 ( 18)	137 ( 15)	167 ( 20)	158 ( 22)	141 ( 10)	149 ( 13)	57 (13)	67 (23)	34 ( 8)	33 ( 6)	58 (13)	1,199 ( 168)	100 ( 14)

※ ( ) 内は土曜、日曜日に通院した研修員数、また入院患者は下記の通り6人であった。

(入院患者)

氏 名	国 籍	研修科目	病 名	入院期間
1. Mr.Halyubi Bin Haji Maseruni	Malaysia	野菜生産	腎臓結石	15泊16日
2. Mr.Traore Boubakar	Burkina Faso	米生産	右膝関節鏡手術	6泊7日
3. Mr.Kakou Brou Georges	Cote D'ivoire	灌漑排水	左膝関節鏡手術	6泊7日
4. Mr.Simon Abaga Apio	Ghana	農業機械	陰囊水腫	6泊7日
5. Mr.Mohamed Hassan Hamed	Egypt	灌漑排水	尿道結石	6泊7日
6. Mr.Gilberto Varas Catoira	Bolivia	森林研究	尿道結石	4泊5日
7. Mr.Julius Cesar V.Sicat	Philippines	農業機械化	循環器系疾患	4泊5日
8. Mr.Rahmat Setiadi	Indonesia	グローバル地震観測	右足関節化膿性 ケイ炎・化膿性骨髓炎	18泊19日
9. Ms.Adriana M.Ortega Estupinan	Colombia	地震工学	深部静脈血栓の検査	2泊3日

入院病院名No 1 及びNo 5：東京医大霞ヶ浦病院（茨城県稲敷郡阿見町中央3-20-1）  
他はすべて 牛久愛和総合病院（茨城県牛久市猪子町896）

## 8. 施設の運営・管理

開所してから15年目を迎え、研修員受入数も増え、当年度もセンターの宿泊施設に全員の収容が不可能になり、地震工学Ⅱ、防災科学技術、湖沼環境保全セミナー等の研修員を隣接の筑波第一ホテル等に宿泊させた。

研修員の外部ホテル利用に当たっては、ホテル側の研修員へのサービスとセンター側の管理に支障を生じることのないよう十分に留意した。

### 8-1 宿泊実績

センターの宿泊施設（195室、200ベット）の利用状況は下表のとおりである。

平成7年度宿泊施設利用実績

	延利用入日（人日）	利用率（％）
研修員	55,107	77.2
一般	1,629	2.3
計	56,736	79.5

### 8-2 施設の管理・運営

センターの施設は、研修員の“研修の場”であり、また“生活の場”でもある。効率的な予算の執行を考慮しつつ、次の諸点に留意し管理・運営を実施した。

- (1) センター業務のうち、フロント、電気・機械設備等の維持・管理、清掃、食堂経営、守衛、プールの維持・管理、車両運転等の各種業務は業者に委託しているが、センターの職員とこれらの委託業務に従事する職員が一体となって、清潔な生活環境、よりよいサービス、安全を確保する。
- (2) センター内の施設、人命の安全確保を図るため、事故、火災発生等の未然防止に配慮し、職員と受託業務従事職員による施設内の巡回点検回数を増やす。

### 8-3 施設の整備

研修員によりよい生活環境と研修の場を提供すべく平成7年度は以下の整備を行った。

- (1) 管理棟他外壁補修
- (2) 体育館内壁塗装
- (3) 屋外バーベキュー炉新設
- (4) ガーデンテーブル・チェアセット新設
- (5) 中央監視装置の表示ポイント追加
- (6) ビリヤード設備の新設
- (7) 既設ビリヤード室内壁塗装
- (8) 自動ドア駆動装置交換
- (9) 上水ポンプの分解整備
- (10) パソコン講座用設備の更新
- (11) 研修員用自転車

## 9. 参考資料

9. 参考資料 .....	63
9-1 国別・年度別研修員受入れ実績表 .....	63
9-2 平成7年度（継続）集団コース受入研修員リスト .....	68
9-3 平成7年度（新規）集団コース受入研修員リスト .....	80
9-4 平成7年度（継続）個別研修員受入実績 .....	111
9-5 平成7年度（新規）個別研修コース受入研修員受入実績 .....	113
9-6 平成7年度日本語講習実施一覧表 .....	121
9-7 平成7年度研修員厚生活動にかかる実績表 .....	125



## 9. 参考資料

9-1 参考資料 国別・年度別研修員受入れ実績表

国 別	年度別	平成元	2	3	4	5	6	7	8	9	10	計
[ア ジ ア]												
バングラデシュ	63	6	8	7	7	9	8	12				120
ブータン	7	1			2			1				11
ブルネイ	6		2		1		1	1				11
ミャンマー	105		1	4	3	2	9	11				135
カンボディア			1	1	2	2	23	11				40
中 国	168	13	31	20	29	29	39	43				372
香 港	11	1	2		1	1	1	1				18
インド	51	7	3	8	6	6	9	11				101
インドネシア	283	27	20	20	16	13	30	35				444
大韓民国	102	15	4	14	9	18	14	10				186
ラオス	2			2		1	1	3				9
マレーシア	125	23	12	21	19	9	19	8				236
モルディブ	3			1								4
モンゴル	1		1		3		2	3				10
ネパール	72	5	8	7	2	6	12	14				126
パキスタン	63	8	4	8	7	7	19	18				134
フィリピン	230	34	20	14	19	29	46	46				438
シンガポール	6		1	1	3	3						14
スリ・ランカ	49	9	5	6	8	11	18	15				121
台 湾	2											2
タ イ	238	30	38	31	32	31	37	27				464
ヴェトナム	6				2	3	4	5				20
計	1593	179	161	165	171	180	292	275				3,016
%	54.5	50.8	48.3	46.6	47.5	50.7	53.0	50.5				52.25

～は昭和54年～63年までの受入数

国 別	年度別												計
	～	平成元	2	3	4	5	6	7	8	9	10		
[中 近 東]													
アルジェリア	7	1	2	2	2	1	2	2				19	
バハレーン	1			1		1						3	
エジプト	98	12	12	11	9	10	15	15				182	
イラン	36	9	7	5	5	5	6	8				81	
イラク	31	1	3									35	
ジョルダン	6	1	1	1	1	1	2					13	
モロッコ	3		1	1	2		2	3				12	
オマーン	1						1	1				3	
カタル	1											1	
サウディ・アラビア	10		2	1	1		3	2				19	
スーダン	29	3	1	2								35	
シリア	12	2	3	2	1	5	1	2				28	
チュニジア	5		3	3	1		1					13	
トルコ	52	5	6	10	4	6	13	10				106	
イエメン						1		4				5	
アラブ首長国連邦							2					2	
計	292	34	41	39	26	30	48	47				557	
%	10.0	9.7	12.3	11.0	7.2	8.5	8.7	8.6				9.65	

国 別	年度別												計
	～	平成元	2	3	4	5	6	7	8	9	10		
[アフリカ]													
ベナン	1				2							3	
ボツワナ	1											1	
ブルキナ・ファソ	1					1	1	1				4	
ブリンディ	1	1	1									3	
カメルーン	3		1		1		1	1				7	
中央アフリカ	2											2	
チャード	1	1										2	



国 別	年度別	～	平成 元	2	3	4	5	6	7	8	9	10	計
エチオピア		23	1	3	2	3	4	4	5				45
ガボン		6											6
ガンビア		1											1
ガーナ		17	2		4	2	3	3	7				38
ギニア		9	2	2	1	1	1	1	2				19
ギニア・ビサオ		2	1			1	1						5
象牙海岸		6	3	2	2	2	5	4	7				31
ケニア		42	8	6	7	14	10	17	19				123
リベリア		16	2										18
マダガスカル		10	3	1		1	2	2	1				20
マラウイ		4	1	1		2	2	2	2				14
マ リ		21	2		1		2						26
モーリシャス		2	1						1				4
ニジェール		3	1	1	1	2	2	4	2				16
ナイジェリア		14	3	3	2	3	1						26
ルワンダ		1	1										2
セネガル		2	1		2		4	1	4				14
セイシェル				1				1					2
シエラ・レオーネ		7	1		2			1	1				12
スワジランド		1	1					1	1				4
タンザニア		62	8	9	8	8	6	10	6				117
トーゴ		2					1						3
ザイール		7	3	1	1		1	1					14
ザンビア		7	2	1	1	3	4	3	4				25
ジンバブエ		4	1		1			2	1				9
モーリタニア					1								1
ウガンダ					1			1	1				3
南アフリカ共和国					4	8	7	13	18				50
赤道ギニア								1	1				2
レソト								1					1
計		279	50	33	41	53	57	75	85				673
%		9.5	14.2	9.9	11.6	14.7	16.0	13.6	15.6				11.66

国 別	年度別	平成	2	3	4	5	6	7	8	9	10	計
	～	元										
[中 南 米]												
アルゼンティン	52	4	8	10	6	6	8	12				105
ボリヴィア	36	2	4	4	2		4	7				59
ブラジル	155	22	13	18	15	15	17	19				274
チ リ	36	3	7	8	7	6	15	18				99
コロンビア	25	5	7	5	7	6	8	6				69
コスタ・リカ	11	1	2	2		1	1	2				20
キューバ	7	2			1	2	2	3				17
ドミニカ共和国	22	2	3	3	1	2	8	5				46
エクアドル	19	3	2		2		2					28
エル・サルヴァドル	10	1		2		2	1	2				18
グレナダ			1									1
グアテマラ	11	1		2	2							16
ガイアナ	1											1
ホンデュラス	7		1	3	2	3	3	5				24
ジャマイカ	4											4
メキシコ	86	2	7	13	9	12	13	15				157
ニカラグア	5	2	2	3	3	1	1					17
パナマ	10	2	2	1		1	4					20
パラグアイ	48	5	3	3	12	13	21	12				117
ペルー	109	11	13	15	20	12	12	8				200
St.V. グレナディーン			1			1	1	1				4
トリニダード・トバゴ	1	2	1	1								5
ウルグアイ	11	5	5	2	3		1	8				35
ヴェネズエラ	20	3	2	2	3	2	4	1				37
アンティグア				1								1
ドミニカ						1						1
スリナム							1	1				2
計	686	78	84	98	95	84	127	125				1,377
%	23.5	22.2	25.2	27.7	26.4	23.7	23.0	22.9				23.86

国 別	年度別	平成 元	2	3	4	5	6	7	8	9	10	計
	～											
[オセアニア]												
フィジー	23	5	4	2	1	1						36
ミクロネシア	1	1			1		1	1				5
バブア・ニューギニア	21	3	4	3	7	2	2	4				46
ソロモン諸島	1				1		1					3
西サモア	3	1	1	1								6
パラオ							1					1
計	49	10	9	6	10	3	5	5				97
%	1.7	2.8	2.7	1.7	2.8	0.8	1.0	0.9				1.68
[ヨーロッパ]												
アルバニア			1	2	2			1				6
ギリシャ	8	1		1	2		1					13
ポーランド			1	1				2				4
ユーゴ・スラヴィア	15		3									18
マルタ				1								1
ルーマニア					1		1	2				4
ブルガリア						1	2	1				4
ハンガリー								1				1
計	23	1	5	5	5	1	4	7				51
%	0.8	0.3	1.5	1.4	1.4	0.3	0.7	1.3				0.88
[N I S諸国]												
カザフスタン								1				1
計								1				1
%								0.2				0.2
合 計	2,922	352	333	354	360	355	551	545				5,772

9-2 平成7年度(継続)集団コース受入研修員リスト

PARTICIPANTS OF GROUP TRAINING COURSE IN SURVEYING AND MAPPING II 1994-1995

平成6年度測量技術Ⅱコース研修員名簿

研修期間：1994年8月1日～1995年7月1日  
受入機関：建設省国土地理院

No.	COUNTRY 国名	NAME 氏名	PRESENT POST 現職・所属先	OFFICIAL ADDRESS 勤務先住所
1	Bangladesh バングラデシュ	Mr. Mohammad Rezaul Karim カリム	Charge Officer Directorate of Land Records and Surveys, Ministry of Land 測量主任	Tejgaon, Dhaka-1208 Bangladesh
2	Kenya ケニア	Mr. Damiano Milimu Likalamu リカラム	District Surveyor Land Surveyor I Department of Lands and Settlement 地域測量士 1級土地測量士	District Survey Office P.O.Box 56, Siaya Kenya
3	Malaysia マレーシア	Mr. Zakaria bin Saat ザカリヤ	Assistant Director of Topography Dept. of Survey & Mapping 地形課長補佐	Tingkat 3, Blok B, Komplek KWSP, 88000 Kota Kinabalu, Malaysia
4	Nepal ネパール	Mr. Hari Man Tumbahangfe ハリ	Survey Officer Topographical Survey Branch, Survey Dept., HMG, Nepal 測量技師	Min Bhawan, Katmandu, Nepal P.O.Box No.4225
5	Palau パラオ	Mr. Frank Mario Pedro フランク	Surveying Technician Bureau of Lands and Survey 測量士	P.O.Box 100 Koror, Palau 96940
6	Philippines フィリピン	Mr. Eliseo D.Mabasa エリー	Engineer III Dept. of Environment & Natural Resources, Land Management Service 3級技師	Tuguegarao, Cagayan, Philippines
7	Tanzania タンザニア	Mr. Alawy Bakar Hamad El-Baalawy ハマッド	Senior Land Surveyor Commission for Lands and Environment 上級測量士	P.O.Box 811, Zanzibar, Tanzania

PARTICIPANTS OF GROUP TRAINING COURSE IN ADVANCED INDUSTRIAL TECHNOLOGY 1994-1995

平成6年度産業技術研究コース研修員名簿

研修期間：1994年8月29日～1995年7月27日  
受入機関：通産省工業技術院

No.	COUNTRY 国名	NAME 氏名	PRESENT POST 現職・所属先	OFFICIAL ADDRESS 勤務先住所
1	Brazil ブラジル	Mr. Francisco Alberto de Souza フランシスコ ※1995.01 早期帰国	Student. M. Sc. in Sanitary and Environmental Eng. Federal University of Minas Gerais ミナス・ジユライス連邦大学 環境衛生工学 修士課程取得中	Av Do Contorno, 842-7 Andar, Belo Horizonte, M. G. -CEP 30110-060 Brazil
2	China 中国	Mr. Bi, Shu-sheng ビー	Lecturer, Robotics research Institute, Beijing University of Aeronautics and Astronautics 北京航空航天大学 ロボット工学研究所 講師	37, Xue Yuan Road, Beijing, 100083 China
3	Colombia コロンビア	Mr. Gerardo Zuloaga ヘラルド	Professor, Industrial Automation, Engineering School, National University of Colombia コロンビア国立大学 工学部 教授 (工業自動化)	Ciudad Universitaria, Bogota Colombia
4	Philippines フィリピン	Ms. Buenaventurada P. Calabia ブエナ	Science Research Specialist II, Microbiology and Genetics Div., Industrial Technology Development Institute 工業技術開発研究所 微生物遺伝部 研究専門官	Gen, Santos Avenue, Bicutan, Taguig, Metro Manila, Philippines
5	Thailand タイ	Mr. Wanchai Chinchusak ワンチャイ	Scientist 4, Div. of Physics and Engineering, Dept. of Science Service (DSS) 科学省 物理・工学部 科学者	Rama 9 Rd., Ratchathewi, Bangkok 10400, Thailand
6	Turkey トルコ	Mr. Huseyin Levent Cetiner フセイン	Geologist, Aegean Regional Branch, General Directorate of Mineral Research and Exploration 鉱物資源調査総局 エーゲ支所 地質学者	M. T. A. Ege Bolge Mudurlugu P.K.1 Bornova IZMIR Turkey

PARTICIPANTS OF GROUP TRAINING COURSE IN SEISMOLOGY AND EARTHQUAKE ENGINEERING II 1994-1995

平成6年度地震工学Ⅱコース（地震学）研修員名簿

研修期間：1994年9月5日～1995年7月29日  
 受入機関：建設省建築研究所

No.	COUNTRY 国名	NAME 氏名	PRESENT POST 現職・所属先	OFFICIAL ADDRESS 勤務先住所
1	Algeria アルジェリア	Mr. Rabet MOHAMED モハメド	Assistant Researcher, Seismic Hazard Dept., Paraseismic Engineering Applied Research Centre 地震工学応用研究センター 地震防災部 研究助手	1 rue kaddour Rahim-Hussein-Dey, Alger, Algeria
2	Colombia コロンビア	Mr. Mauricio ALVARAN ECHEVERRI マウリシオ	Coordinator Seismology Dept. Seismic Regional Network of the Coffee Growner Region コーヒー栽培地域地震ネットワーク コーディネーター	Avenida 12 de octubre No. 15-47 Manizales, Colombia
3	Egypt エジプト	Mr. Magdy Mahfouz MOHAMED マグダイ	Seismologist, Seismology Dept., National Research Institute of Astronomy and Geophysics 国立天文学・地球物理学研究所 地震学者	Helwan, Cairo, Egypt
4	Greece ギリシャ	Mr. Panagiotis STYLIANOS パーノシユ	Research Assistant, Earthquake Planning and Protection Organization (E.P.P.O) 地震防災計画機構 研究助手	226 Nessogion Avenue, 15561 Hologos, Athens, Greece
5	Iran イラン	Mr. Morteza TALEBIAN タレビアン	Seismotectonician, Geological Survey of Iran イラン地質調査所 地震テクトニクス専門家	Azadi sq. Meraj str., P.O.Box 13185-1494, Tehran, Iran
6	Kenya ケニヤ	Mr. Patrick Chege KARIUKI カリウキ	Research Officer II, Dept. of Resource Surveys and Remote Sensing Ministry of Planning and National Development 企画開発省 資源調査モータセンシング部 研究官	Box 47146, Nairobi, Kenya

No.	COUNTRY 国名	NAME 氏名	PRESENT POST 現職・所属先	OFFICIAL ADDRESS 勤務先住所
7	Nepal ネパール	Ms. Subhadra MASKEY スバ	Senior Laboratory Assistant, Dept. of Mines and Geology, National Seismological Centre 国立地震センター 鉱山地質部 主任研究助手	Lainchour, kathmandu, Nepal
8	Pakistan パキスタン	Mr. Yawer Saeed ANSARI アンサリ	Senior Geophysicist, National Engineering Services Pakistan Ltd. パキスタンエンジニアリングサービスク 主任地球物理学者	1-C, Block N Model Town Extension P.O.Box 1351, Lahore, Pakistan
9	Turkey トルコ	Mr. Ramazan DEMIRTAS デミルタシュ	Researcher, Earthquake Research Dept., General Directorate of Disaster Affairs, Ministry of Public Works and Settlements 公共事業省 災害事業総局 地震研究部 研究員	P.O.Box 763, Kizilay-Ankara, Turkey
10	Zaire ザイール	Mr. Mangongolo AZANGI アザンギ	Assistant Researcher, Dept. of Geophysics, Sec. of Seismology and Geodesy, National Science Research Institute 国立科学研究所 地球物理部 地震学科 研究助手	IWIRO, D. S. Bukavu (Sud-Kivu), Zaire

PARTICIPANTS OF GROUP TRAINING COURSE IN SEISMOLOGY AND EARTHQUAKE ENGINEERING 1994-1995

平成6年度地震工学Ⅱコース(地震工学)研修員名簿

研修期間：1994年9月5日～1995年7月29日  
 受入機関：建設省建築研究所

No.	COUNTRY 国名	NAME 氏名	PRESENT POST 現職・所属先	OFFICIAL ADDRESS 勤務先住所
1	Bulgaria ブルガリア	Mr. Jordan Ivanov MILEV ミレフ	Assistant Professor, Dept. of Reinforced Concrete Structure, Faculty of Structural Engineering Univ. of Architecture Civil Engineering and Geodesy ブルガリア土木建設大学 構造工学部 講師	1 Christo Smirnenski blvd, Sofia 1421, Bulgaria
2	Chile チリ	Mr. Raul Alejandro ALVAREZ MEDEL ラウル	Structural Engineer, ARZE RECINE Y ASOCIADOS INGENIEROS CONSULTORES S.A. 民間会社構造エンジニア	Avda. Jose Pedro Alessandri 1495 Ñuñoa, Santiago, Chile
3	Colombia コロンビア	Ms. Aura Dilia FERNANDEZ PULIDO デイリ	Engineer, Dillingham Construction International Inc., ディリングガム建設インターナショナル(株) エンジニア	Diagonal 22B between Carreras 45 and 50 Santafe de Bogota, Colombia
4	Costa Rica コスタ・リカ	Mr. Bayardo Jose SELVA MORA バジャルド	Civil Engineer, Level 4, Construction Dept., Costa Rican Institute of Electricity (ICE) コスタ・リカ電力研究所 建設部 エンジニア	North Sabana, San Jose, Costa Rica
5	Ecuador エクアドル	Mr. Jose Marcelo ZARATE ENCALADA マルセロ	Supervisor, Structural Dept. JUNTA NACIONAL DELA VIVIENDA 住宅国家審議会 構造部 技術審査官	Bloque #1, Las Brisas, Machala, Ecuador
6	Nicaragua ニカラグア	Mr. Humberto POMARES CALERO ウンベルト	Chief, Structure Dept., Engineering National University 国立工科大学 構造工学部 主任講師	UNI-RUPAP, South side of Villa Progreso, Managua, Nicaragua



No.	COUNTRY 国名	NAME 氏名	PRESENT POST 現職・所属先	OFFICIAL ADDRESS 勤務先住所
7	Papua New Guinea パプア・ニューギニア	Mr. Albert PETER ピーター ※1995.01 早期帰国	Project Engineer, Dept., of Works, 建設プロジェクトエンジニア	P.O.Box 1108, Boroko, Papua New Guinea
8	Peru ペルー	Mr. Mario Alfonso VELEZ CANCHANYA マリオ	Researcher, CISMID (Japan-Peru Center for Earthquake Engineering Research and Disaster Mitigation 日本・ペルー地震防災センター 研究員	Av. Tupac Amaru S/N, Puerta No.7, Lima 31, Peru
9	Philippines フィリピン	Mr. Jorlando E. TIGAS ジョルランド	Engineer II, Dept. of Public Works and Highways, Bataan Engineering District バターン地方土木局 土木高速道路部 エンジニア	Capitol Site, Balanga, Bataan, Philippines
10	Venezuela ヴェネズエラ	Ms. Rosaiba GONZALEZ NACAD ロサイバ	Research Engineer, Dept. of Civil Engineering, INTEVEP (Research and Development Center of Venezuelan Oil Industry PDVSA) ヴェネズエラ石油産業研究開発支援センターエンジニア	TEIG/22, Apto. 76343 Caracas 1070A, Venezuela

PARTICIPANTS OF GROUP TRAINING COURSE IN CHEMICAL TECHNOLOGY 1994-1995

平成6年度化学技術研究コース研修員名簿

研修期間：1994年8月29日～1995年8月27日  
 受入機関：工業技術院物質工学工業技術研究所

No.	COUNTRY 国名	NAME 氏名	PRESENT POST 現職・所属先	OFFICIAL ADDRESS 勤務先住所
1	China 中国	Mr. Zhou, Shu ゾウ	Lecturer and Researcher, Nanchang University ナンチャン大学講師および研究者	Nanjing East Road 17, Nanchang 330047, Jiangxi, P. R. China
2	Egypt エジプト	Mr. Karam Yousef Abdou El-Shemy カラム	Abu Zaabal Company for Specially Chemicals アブザバル特殊化学会社	Abu Zaabal Elakanka Kaluobia Egypt
3	Mexico メキシコ	Ms. Maria Guadalupe Mosqueira Mondragon マリア	Scientific in food Research, Universidad Autonoma Metropolitana, Unidad Iztapalapa オートノマトロポリタロン大学食物研究化学者	Av. Michoacan Y La Purisima 09340, Mexico D. F.
4	Paraguay パラグアイ	Ms. Emilee Magdalena Mornigo de Cantero エミルセ	Research Officer at Pesticides Lab., National Agronomic Institute, Ministry of Agricultural and Livestock 農業家畜省 国立耕種研究所殺虫剤研究者	Ruta 2-km. 48.5-Caacupe, Paraguay
5	Philippines フィリピン	Mr. Angero S. Baleta アンジェロ	Science Research Specialist II Industrial Technology Development Institute 工業技術開発研究所 化学研究スペシャリストII	DOST Compound Gen. Santos Ave. Bicutan, Taguig, M. M. Philippines P.O.Box 774
6	Thailand タイ	Ms. Wandee Luesaiwong ワンディ	Chemist, Chemistry Division, Department of Science Service 化学サービス部 化学課 化学者	Rama VI Road, Bangkok 10400, Thailand

9-3 平成7年度(新規)集団コース受入研修員リスト

LIST OF PARTICIPANTS IN "AUTOMOBILE SAFETY AND POLLUTION CONTROL TECHNOLOGY"

平成7年度自動車の安全・公害対策技術コース研修員名簿

研修期間：1995年5月15日～1995年7月9日  
受入機関：財団法人 日本自動車研究所

No.	COUNTRY 国名	NAME 氏名	PRESENT POST 現職・所属先	OFFICIAL ADDRESS 勤務先住所
1	Argentina アルゼンチン	Ms. Adriana Cristina Mangione アドリアーナ	Senior Testing Engineer, National Commission of Automotive Transport, Ministry of Economy and Public Services	Paraguay 1239, 5th floor-(1057) Capital Federal, Argentina
2	Bangladesh バングラデシュ	Mr. Sitangshu Shekhar Biswas シトウ	Assistant Director (Engineering), Bangladesh Road Transport Authority	Collectorate Building, Patna, People's Republic of Bangladesh
3	Brazil ブラジル	Ms. Cristina Mayer Mautoni Seta クリスチーナ	Technical Regulation Engineer, Scania do Brasil Ltda.	Av. Jose Odorizzi 151, Vila Euro, Sao Bernardo Campo, Sao Paulo, Brazil
4	Brazil ブラジル	Mr. Rogerio Freitas Goncalves ロジェイロ	Equipment Engineer, Vehicle Test Laboratory, Research & Development Center, Brazilian Petroleum Company	Ilha do Fundao, Quadra 7, Cidade Universitaria 21949-900, Rio de Janeiro, Brazil
5	China 中国	Mr. Dong Yong ドン	Division Chief, Division of Science & Technology, Department of Automotive Industry, Ministry of Machinery Industry	46, Sanlhe Road, Beijing 100823, People's Republic of China
6	Egypt エジプト	Mr. Samy Nashat Soliman Hanin セミー	Engineering Specialist, Productivity and Vocational Training Department	3, Esmail Abo El Fetooh St. Dokki, Giza, Egypt

No.	COUNTRY 国名	NAME 氏名	PRESENT POST 現職・所屬先	OFFICIAL ADDRESS 勤務先住所
7	Iran イラン	Ms. Sholeh Nabahi ショレー	Head, Industrial Supporting Dept., General Office of Vehicle, The Ministry of Industries	No. 56, Sepahbod Charani, Ave. Ferdossi SQ, Tehran, Iran
8	Mexico メキシコ	Mr. Jaime Avalos Rangel ハイメ	Safety Engineer, Mexican Petroleum Institute	Eje Central Lazaro Cardenas, No. 152, C. P. 07730, Mexico
9	Mexico メキシコ	Ms. Hilda Argelia Enriquez Morales イルダ	Coordinator of the Testing Centers, The Quality Air Gestion Direction	Comonfort No. 83, Col. Peralvillo 06220, Mexico, D. F.
10	Thailand タイ	Mr. Panya Warapetcharayut トー	Environmental Officer, Pollution Control Department	Gypsum Metropolitan Tower, Fl, 17, 539/2, Sri-Ayudhya Rd., Rajdhavee, Bangkok, 10400Thailand
11	Turkey トルコ	Mr. Salih Ugur Gulleroglu サリー	Expert Engineer, Automotive Industry Department, General Directorate of Industry, Ministry of Industry and Trade	Sanayi ve Ticaret Bakanligi, Sanayi Genel Mudurlugu A Blok 713, Tandogan, Ankara, Turkey

LIST OF PARTICIPANTS IN " ADVANCED TECHNOLOGY FOR VETERINARY DIAGNOSIS "

平成7年度獣医バイオ診断技術コース研修員名簿

研修期間：1995年5月15日～1995年11月26日  
 受入機関：農林水産省家畜衛生試験場

No.	COUNTRY 国名	NAME 氏名	PRESENT POST 現職・所属先	OFFICIAL ADDRESS 勤務先住所
1	Argentina アルゼンチン	Ms. Cristina SEKI DE BUELA セキ	Associate Researcher, Monoclonal Antibodies and Immunology Laboratory, Animal Virology Center (CEVAN), National Council for Scientific and Technical Research (CONICET) 科学技術研究会議動物ウイルス学センター モノクローナル抗体免疫研究所研究員	Monoclonal Antibodies and Immunology Laboratory Serrano 665, PC1414 Buenos Aires, Argentina
2	China 中国	Mr. ZHAO Yu-Min ユーミン	Director, Assistant Research Professor, Office of S&T Management, Branch of Animal Science, Jilin Academy of Agricultural Science 吉林省農業科学院畜牧科学分院科技管理室助教授	Branch of Animal Science, Jilin Academy of Agricultural Science, 186 East Xinghua Street, Gongzhuling, Jilin, China 136100
3	Ethiopia エチオピア	Mr. Melaku Tefera G. YESUS メラク	Assistant Professor, Head of Department of Clinical Studies, Faculty of Veterinary Medicine, Addis Ababa University アジスアベバ大学獣医学部臨床学科主任、助教授	Faculty of Veterinary Medicine, Addis Ababa University P. O. Box 34, Debre Zeit, Ethiopia
4	Kenya ケニア	Mr. Geoffrey K. MUTTAI ムッタイ	Senior Veterinary Officer, Veterinary Department, Ministry of Agriculture, Livestock Development, and Marketing 農業畜産開発省上級獣医官	Ministry of Agriculture, Livestock Development and Marketing P. O. Box 114, Nakuru, Kenya
5	Philippines フィリピン	Mr. Reynaldo Lizardo BONITA ボニータ	Veterinarian II, Veterinary Services Division, Office of the Provincial Agriculturist, Provincial Government of Rizal リサル州農務局II種獣医官	Office of Provincial Agriculturist Capitol Compound, Pasig City, Philippines
6	Zambia ザンビア	Mr. Gift MUNTALI ギフト	Veterinary Research Officer, Central Veterinary Research Institute, Department of Animal Production and Health, Ministry of Agriculture, Food and Fisheries 農業食糧水産省畜産衛生部中央研究所獣医研究官	Department of Animal Production and Health, P. O. Box 910034, Mongu, Zambia

LIST OF PARTICIPANTS IN "POLYMER AND CHEMICAL TECHNOLOGY"

平成7年度物質工学研究コース研修員名簿

研修期間：1995年5月15日～1996年3月10日  
 受入機関：通産省工業技術院物質工学工業技術研究所

No.	COUNTRY 国名	NAME 氏名	PRESENT POST 現職・所属先	OFFICIAL ADDRESS 勤務先住所
1	Brazil ブラジル	Ms. Diana Thome FACHIN ジアナ	Teacher-Assistant I Departamento Quimica Pontificia Universidade Catolica do Parana カソリック法王大学講師	Rua Imaculada Conceical, 1155 Curitiba Parana-CEP 80215-901 BRAZIL
2	Indonesia インドネシア	Ms. Wiwik PUDJIASTUTI ウイウイック	Research Officer on Flexible Packaging Packaging Division, Institute for Research and Development of Chemical Industry 化学工業研究開発研究所研究員	Pekayon Basar Rebo PO BOX 6916 JATPK Jakarta INDONESIA
3	Mexico メキシコ	Ms. Norma GONZALEZ Rojano ノルマ	Metrologist A Polymer Division, Centro Nacional de Metrologia 国立度量衡センター開発研究所研究員	KM 4.5 Carretera A Los Cues, El Marques Queretaro, Qro., C. P. 76900 MEXICO
4	Paraguay パラグアイ	Ms. Lira Rossana GIMENEZ G. リーラ	Industrial Chemistry Teacher Assistant Facultad De Quimica Asuncion Universidad Nacional アスンシオン国立大学化学部助手	Ciudad Universitaria KM. 10 San Lorenzo PARAGUAY
5	Philippines フィリピン	Ms. Elinor L. BEDIA エリノール	Senior Science Research Specialist Materials Science Division Industrial Technology Development Institute 工業技術開発研究所物質科学部主任研究員	DOST Complex, Bicutan, Taguig, Metro-Manila PHILIPPINES
6	Thailand タイ	Ms. Nuanjan MATCHARIYAKUL ヌアンジャン	Scientist V Physics and Engineering Division, Department of Science Service, Ministry of Science, Technology and Environment 科学技術環境省科学部研究員	Rama IV Rd., Rajthevee, Bangkok THAILAND

LIST OF PARTICIPANTS IN " INDUSTRIAL BIOTECHNOLOGY "

平成7年度生命工学研究コース研修員名簿

研修期間：1995年5月22日～1996年3月17日  
 受入機関：通産省工業技術院生命工学工業技術研究所

No.	COUNTRY 国名	NAME 氏名	PRESENT POST 現職・所属先	OFFICIAL ADDRESS 勤務先住所
1	China 中国	Mr. LI, Jun リー	Assistant Department of Biochemistry Shandong Medical University 山東医科大学生化学部助手	44 Wenhuaixilu, Jinan 250012 CHINA
2	Indonesia インドネシア	Ms. SRI Murhandini スリー	Staff National Quality Control Laboratory of Drug and Food 国立医薬品食品品質管理研究所毒物学研究室研究員	Jl. Percetakan Negara No. 23, Jakarta 10560 INDONESIA
3	Philippines フィリピン	Mr. James Oscar G. SANCHEZ ジェームス	Science Research Specialist II Microbiology and Genetics Div. Industrial Technology Development Institute, Department of Science and Technology 科学技術省工業技術開発研究所微生物遺伝学部研究員II	Department of Science and Technology Compound Bicutan, Taguig, Metro Manila PHILIPPINES
4	Philippines フィリピン	Ms. Joy M. SORROSA ジョイ	Instructor I Davao Oriental State College of Science and Technology 国立ダヴァオ、オリエンタル科学技術大学講師I	Davao Oriental State College of Science and Technology, Mati 8200, Davao Oriental PHILIPPINES
5	Thailand タイ	Ms. Kanlaya PENSUWAN カラヤ	Scientist Department of Biology, Faculty of Science Khon Kaen University コーンカエーン大学理学部生物学科研究員	Department of Biology, Faculty of Science Khon Kaen University, 40002 THAILAND

LIST OF PARTICIPANTS IN "ADVANCED SEMINAR ON GLOBAL MAPPING (ENVIRONMENT)"

平成7年度環境地図セミナーコース研修員名簿

研修期間：1995年6月19日～1995年8月27日  
 受入機関：建設省国土地理院

No.	COUNTRY 国名	NAME 氏名	PRESENT POST 現職・所属先	OFFICIAL ADDRESS 勤務先住所
1	China 中国	Mr. Zhou Hong チャウ	Environmental Monitoring Technician China National Environmental Monitoring Centre 国家環境保護局環境保護技術者	Anwai Beiyuan, Beijing, 100012 P. R. China
2	Costa Rica コスタリカ	Mr. Marcelo Antonio Monge Monge マルセロ	Chief Photogrammetry Dept., National Geographic Institute 地理院写真測量部長	Instituto Geografico Nacional, MOPT, Plaza Gonzalez Viquez, San Jose, Costa Rica
3	Kenya ケニア	Mr. James Oguna Sogoh ソゴ	Asst. Director of Survey Survey of Kenya, Ministry of Lands and Settlement 測量局 測量部長補佐	P. O. Box 30046 Nairobi, Kenya
4	Malaysia マレーシア	Mr. Mohammad Zaki Bin Mohd Ghazali ザキ	Fast Mapping System Surveyor CAMS Section, Dept. of Survey and Mapping 測量・地図局 高速地図作成システム測量士	Jalan Semarak, 50578 Kuala Lumpur, Malaysia
5	Morocco モロッコ	Ms. Miri Bouchra ミリ	Chief The Bureau of Computer assisted Mapping and GIS, Division de la Cartographie 地図局 コンピューター地図作成室長	31, Avenue My Al Hassan, Rabat-Chellah, Morocco



LIST OF PARTICIPANTS IN "LEGAL METROLOGY"

平成7年度法定計量コース研修員名簿

研修期間：1995年7月17日～1995年12月17日  
 受入機関：工業技術院計量研究所・都道府県計量行政協議会

No.	COUNTRY 国名	NAME 氏名	PRESENT POST 現職・所属先	OFFICIAL ADDRESS 勤務先住所
1	China 中国	Ms. CHEN-Hong チェン	Principal Officer, Division of Measurement System Dep. of Metrology, State Bureau of Technical Supervision (SBTS) 工業技術指導局計量部システム課指導主任	4, Zhi Chun Lu, Hai Dian District, Beijing, China
2	Egypt エジプト	Ms. Bataa Moawed ALI バタ	Head of Mass and Weights Measurements Section, Egyptian Organization for Standardization and Quality Control 産業省エジプト標準品質管理機構体積・重量計測係長	2-Latin America St., Garden City, Cairo, Egypt
3	Mauritius モーリシウス	Mr. Chitrasen BHICAJEE ティトラ	Legal Metrologist, Legal Metrology Division, Ministry of Trade and Shipping 貿易海運省法定計量部法定計量官	4th Floor, Government House, Port Louis, Mauritius
4	Pakistan パキスタン	Mr. Mohammad Shabbir HASAN ハッサン	Deputy Assistant Director (Mechanical), Director, Pakistan Standards Institution パキスタン標準協会役員室機械担当副理事代理	39-Garden Road, Saddar, Karachi-744000, Pakistan
5	Saudi Arabia サウディ・アラビア	Mr. Bader H.AL-SAEDE バディル	Technician in Dimensional Metrology Section, SASO National Measurement and Calibration Laboratory サウディ・アラビア標準機構(SASO) 国立測定・比較検査研究室(NMCL)面積計測担当技師	P. O. BOX 3437, Riyadh 11471, Saudi Arabia
6	Thailand タイ	Ms. Lugkana DHANPANISH ラッカナ	Researcher Grade 4, Thailand Institute of Scientific and Technological Research(TISTR) タイ科学技術研究所研究員グレード[4]	196 Phahonyothin Road, Chatuchak, Bangkok, 10900, Thailand

LIST OF PARTICIPANTS IN " SURVEYING AND MAPPING II "

平成7年度測量技術Ⅱ研修員名簿

研修期間：1995年7月31日～1996年7月7日  
 受入機関：建設省国土地理院

No.	COUNTRY 国名	NAME 氏名	PRESENT POST 現職・所属先	OFFICIAL ADDRESS 勤務先住所
1	Bangladesh バングラデシュ	Mr. Pervez Ahmed Khan バルヴェス	Assistant Surveyor General, Topographic Department, Survey of Bangladesh バングラデシュ測量局 地形部次長	Tejgaon H/A Dhaka-1208, Bangladesh
2	Cambodia カンボディア	Mr. Khum Ponnaban ポナン	Map Surveyor, Geographic Department, Office of the Council of Ministers 閣僚会議 地図測量士	Offices of the Council of Ministers (Geographic), Khan Daun, Phnom Penh, Cambodia
3	Ghana ガーナ	Mr. Poku-Gyamfi Yaw ボク	Survey Engineer, Structures Design and Planning (Survey Section), Building & Road Research Inst. 建設道路研究所 測量技師	Council for Scientific & Industrial Research, P. O. Box 40 University of Science & Tech., Kumasi, Ghana
4	Kenya ケニア	Mr. Wilson Ndirangu Kamau カマウ	Lecturer, Kenya Institute of Surveying and Mapping, Survey of Kenya ケニア測量局 講師	P. O. Box 30046, Nairobi, Kenya
5	Malaysia マレーシア	Mr. Sohaime bin Rasidi ソハイミ	District Surveyor, Cadastral Division, Survey and Mapping Department of Malaysia マレーシア測量地図局 測量士	Survey Building, Jalan Semarak, 50578 Kuala Lumpur, West Malaysia, Malaysia
6	Morocco モロッコ	Mr. Sabbahi Hassan ハッサン	Cadastre Mohammadia, Cadastre, Administration de la Conservation Fonciere du Cadastre et la Cartographie 土地保全地籍地図局 地籍士	Voulvard Moulay Youssef, Rabat, Morocco

No.	COUNTRY 国名	NAME 氏名	PRESENT POST 現職・所属先	OFFICIAL ADDRESS 勤務先住所
7	Philippines フィリピン	Mr. Dennis Arsenio B. Bringas デニス	Geophysicist III, Geodetic & Geophysics Div., Coast & Geodetic Survey Dept., National Mapping & Resource Information Authority 国立地図資源情報局 地球物理技師	421 Barraca St., Binondo, Manila, Philippines
8	Sri Lanka スリランカ	Mr. Atapattu Mudiyanseelage Ruwana Bandula Kumara Atapattu バンドウラ	Assistant Superintendent of Surveys, Survey Department, Sri Lanka スリ・ランカ測量局 測量助監督	No. 121, Balagolla, Kengalla, Sri Lanka

LIST OF PARTICIPANTS IN "FOREST RESEARCH"

平成7年度森林研究コース研修員名簿

研修期間：1995年8月14日～1995年11月26日  
 受入機関：農林水産省森林総合研究所

No.	COUNTRY 国名	NAME 氏名	PRESENT POST 現職・所属先	OFFICIAL ADDRESS 勤務先住所
1	Bolivia ボリビア	Mr. Gilberto Varas Catoira ヒルベルト	Professor Universidad Autonoma Juan Misael Saracho Carrera Ing. Forestal ファン・ミサエル・サラチャヨ大学教授	Av. Las Americas Casilh, SI, Bolivia
2	Brazil ブラジル	Ms. Rosana Clara Victoria Higa ロザナ	Researcher EMBRAPA (Empresa Brasileira de Pesquisa Agropecuaria) CNPFLORRESTAS (Centro Nacional de Pesquisa de Florestas) 国立森林研究センター研究員	Estrada da Ribeira, km 111 Caixa Postal, 319 CEP 83405-970 Colombo, PR, Brazil
3	Chile チリ	Mr. Marcos Segundo Cohen Iturra マルコス	Forest Researcher Instituto Forestal (INFOR) 森林研究所研究員	Huerfano 554 Santiago, Chile
4	Kenya ケニア	Mr. Michael Gitaka Njenga ンジェンガ	Research Officer Coast Forestry Research Station-GEDE Kenya Forestry Research Institute (KEFRI) ケニア森林研究所研究員	P. O. Box 201 Malindi, Kenya
5	Papua New Guinea パプア・ニューギニア	Mr. Michael Yagro ヤグロ	Silviculture Officer Papua New Guinea Forest Authority PNG森林局林務官	P. O. Box 5055 Boroko, National Capital District Papua New Guinea

LIST OF PARTICIPANTS IN " RIVER AND DAM ENGINEERING II "  
平成7年度河川及びダム工学コースⅡ (河川) 研修員名簿

研修期間：1995年8月21日～1995年12月3日  
受入機関：建設省河川局及び土木研究所

No.	COUNTRY 国名	NAME 氏名	PRESENT POST 現職・所属先	OFFICIAL ADDRESS 勤務先住所
1	Bolivia ボリビア	Mr. Javier Arturo Marza Torrez マルサ	Head of Department Mayorship, La Paz, Bolivia, Direction of Control and Management of Basins ラパス市流域主任管理官	Town Hall, La, Paz, Bolivia, Mercado Street BOLIVIA
2	Honduras ホンデュラス	Mr. Woeleam Jesus Pon Escobar ボン	Assistant Engineer Departamento de Obras Hidraulicas, Secretaria de Comunicaciones, Obras Publicas Transporte 通信公共事業運輸省公共事業局水工部技師	Barrio La Bolsa Comayagueta M. D. C. HONDURAS C. A.
3	Iran イラン	Mr. Jabbar Vantanfada バタンフアダ	Head of River Department Water Research Center 河川部主任技師	Damavand Ave. Hakimieh Street P. O. Box 16765/313 Tehran IRAN
4	Nepal ネパール	Mr. Narayan Prasad Paudyal ポードワル	Engineer Water Induced Disaster Prevention Technical Centre (DPTC) 洪水防災技術センター技師	Pulchok, Lalitpur NEPAL
5	Philippines フィリピン	Mr. Ferdinand Concepcion Rosete ロゼッテ	Engineer II Flood Control and Drainage Division, Bureau of Construction, Dept. of Public Works and Highways 公共事業・道路省治水排水部土木技師	Bonifacio Drive, Port Area, Manila PHILIPPINES
6	Venezuela ヴェネズエラ	Mr. Vilorio Lopez Rafael Enrique ラフアエロ	Civil Engineer Ministry of Environment and Renewable Natural Resources, Division of Hydraulics Projects 環境天然資源局水工部土木技師	Torre Sur Centro Simon Bolivar El Silencio Caracas VENEZUELA

LIST OF PARTICIPANTS IN " RIVER AND DAM ENGINEERING II "  
 平成7年度河川及びダム工学コースⅡ (ダム) 研修員名簿

研修期間：1995年8月21日～1995年12月4日  
 受入機関：建設省河川局及び土木研究所

No.	COUNTRY 国名	NAME 氏名	PRESENT POST 現職・所属先	OFFICIAL ADDRESS 勤務先住所
1	Brazil ブラジル	Mr. Aloisio Celert セレリ	Senior Engineer CESP-Companhia Energetica de Sao Paulo サン・パウロ電力会社土木主任技師	Laboratorio Central de Engenharia Civil 15385-000 Ilha Solteira SP BRAZIL
2	China 中国	Mr. Li Debin リー	Engineer Yellow River Irrigation Administration Bureau of Dongying City, Shandong, China ドンジン市黄河灌溉管理技師	20 Jiaozhou Road, Dongying City, Shandong CHINA
3	Indonesia インドネシア	Mr. Zaenal Arifin, ME ザエナル	Junior Dam Engineer Dam Safety Unit, Ministry of Public Works 公共事業省ダム安全部ユニアードダム技師	Jl. DI Panjaitan Kav 12-13 Jakarta 13340 INDONESIA
4	Sri Lanka スリ・ランカ	Ms. Wickramasingha Arachchige Dona Renuka Wickramasinghe レスカ	Civil Engineer Mahaweli Economic Agency of the Mahaweli Authority of Sri Lanka 灌漑土木技師	No. 500, T. B. Jayah Mawatha, Colombo 10, SRILANKA
5	Syria シリア	Mr. Gourg Anwar Al-Awad アワード	Chief of Department General Organization of the Euphrates Dam ユーフラテスダム主任土木技師	Al-Thawra City SYRIA

LIST OF PARTICIPANTS IN " INDUSTRIAL POLLUTION CONTROL RESEARCH "

平成7年度産業公害防止研修員名簿

研修期間：1995年8月21日～1995年12月17日  
 受入機関：資源環境技術総合研究所

No.	COUNTRY 国名	NAME 氏名	PRESENT POST 現職・所属先	OFFICIAL ADDRESS 勤務先住所
1	Argentina アルゼンティン	Ms. Graciela Prieto グラシエラ	Adjunct Professor of Chemical Engineering, National University of Tucuman Faculty of Exact Sciences and Technology 国立トゥクマン大学工学部助教授	Av. Independencia 1800 (4000) San Miguel de Tucuman REPUBLICA ARGENTINA
2	Brazil ブラジル	Ms. Glaucia Aparecida Prates グラウシア	Senior Researcher, Federal University of Santa Catarina Production and System Engineering 国立サンタカタリナ大学 生産・システム工学部主任研究員	Caampus Universitario, Florianopolis Santa Catarina BRAZIL
3	Indonesia インドネシア	Ms. Ida Narulita イダ	Researcher, Indonesian Institute of Sciences Research & Development Center for Geotechnology インドネシア科学研究所 地質工学研究工学開発センター研究員	JL. Cisitru 21/154 D Bandung 40135 INDONESIA
4	Indonesia インドネシア	Ms. Cynthia Heenny シンシア	Researcher, Indonesian Institute of Sciences (LIPI) Research & Development Center for Limnology インドネシア科学研究所 陸水工学研究工学開発センター研究員	JL. Raya Bogor KM 46 Cibinong INDONESIA
5	Mexico メキシコ	Ms. Alma Delia Munoz Capetillo アルマ	Engineering Specialist, Secretaria de Medio Ambiente Recursos Naturales Pesca 環境局水産・天然資源工学専門員	Rio Elba No. 20 1st Floor Col Cuauhtemoc MEXICO. D. F. 06500
6	Philippines フィリピン	Mr. Mario Josefino V. Capule マリオ	Science Research Specialist II, Industrial Technology Development Institute 産業技術開発研究所科学研究専門員	P. O. Box 774 Manila PHILIPPINES

LIST OF PARTICIPANTS IN "ADVANCED INDUSTRIAL TECHNOLOGY"

平成7年度産業技術研究コース研修員名簿

研修期間：1995年8月28日～1996年7月28日  
 受入機関：通産省工業技術院

No.	COUNTRY 国名	NAME 氏名	PRESENT POST 現職・所属先	OFFICIAL ADDRESS 勤務先住所
1	China 中国	Mr. Qi Hong-wei チー	Engineer, Institute of Environmental Protection, Ministry of Chemical Industry 化学工業省 環境保護研究所 エンジニア	Institute of Environmental Protection, P. O. Box 1442 Beijing, 100013 Beijing, P. R. C.
2	Indonesia インドネシア	Ms. Rahyani Ermawati エルマ	Researcher Staff, Institute for Research and Development of Chemical Industry(IRDCI) 化学工業研究開発研究所 研究員	Pekayon Pasar Rebo, P. O. Box 6916 JATPK, Jakarta 13069, Indonesia
3	Philippines フィリピン	Ms. Jocelyn Paz Reyes ジョイ	Science Research Specialist II, Industrial Technology Development Institute 工業技術開発研究所 研究専門官	DOST Complex Bicutan, Taguig, Metro Manila, Philippines
4	Romania ルーマニア	Ms. Claudia Rodica Taraibuta クラウディア	Researcher, Research and Engineering Institute for Environment 環境工学研究所 研究員	Spl. Independentei 294, Sector 6, 77703 Bucharest, Romania
5	Thailand タイ	Ms. Kanjana Padermpol カンジャナ	Scientist, Textile Industry Division (TID) Dept. of Industrial Promotion, Ministry of Industry 工業省 工業振興部 織物工業科 科学者	Soi Trimitr, Rama IV Rd., Klong Teoy, Bangkok 10110, Thailand
6	Turkye トルコ	Ms. Ertan Guner エルタン	Lecturer, Faculty of Engineering and Architecture, Gazi University ガジ大学 建築工学部 講師	06570 Maltepe, Ankara, Turkey



LIST OF PARTICIPANTS IN "SCIENCE AND TECHNOLOGY FOR DISASTER PREVENTION"

平成7年度防災科学技術コース研修員名簿

研修期間：1995年9月4日～1995年12月3日  
 受入機関：科学技術庁防災科学技術研究所

No.	COUNTRY 国名	NAME 氏名	PRESENT POST 現職・所属先	OFFICIAL ADDRESS 勤務先住所
1	Algeria アルジェリア	Mr. Bouhadad Youcef ユセフ	Researcher, Seismic Hazard Department, National Center of Applied Research in Earthquake Engineering 国立応用地震工学研究所 研究員	1, Rue Kaddour Rahim Prolongee, BP 252 Hussein-Dey, Algeria
2	Bangladesh バングラデシュ	Mr. Mustafa Kamal カマル	Senior Assistant Secretary, Ministry of Disaster Management and Relief 災害対策・救援省 次長	Ministry of Disaster Management and Relief, Bangladesh Secretariat, Dhaka, Bangladesh
3	Brazil ブラジル	Mr. Eduardo Soares de Macedo エドゥアルド	Researcher, Institute for Technological Research of Sao Paulo State サン・パウロ州技術研究所 研究員	Av. Prof. Almeida Prado, 532, Cidade Universitaria, Sao Paulo, SP, Brazil
4	Colombia コロンビア	Ms. Adriana Lucia Duque Velasco アドリアナ	Specialized Professional, Corporacion Autonoma Regional de Quindio クインジオ州地方自治省 専門員	Carrera 17, Calle 18 Esquina, Fiso 4, Armenia, Colombia
5	India インド	Mr. Sharad Kumar Gupta グプタ	Field Officer, Building Materials and Technology Promotion Council, Ministry of Urban Affairs and Employment 都市問題・雇用省 研究員	G-Wing Nirman Bhawan, New Delhi, 110011, India
6	Indonesia インドネシア	Mr. Aprianto アプリア	Lecturer, Tanjung Pura University, Pontianak タンジュンプララ大学 講師	Jl. A. Yam Pontianak 78124, Kalimantan-Barat, Indonesia

No.	COUNTRY 国名	NAME 氏名	PRESENT POST 現職・所属先	OFFICIAL ADDRESS 勤務先住所
7	Korea 韓国	Mr. Ki Sung Bang バング	Assistant Director, Disaster Restoration Division, Ministry of Home Affairs  内務部防災局災害復旧課 課長補佐	Suite 1315, Unified Gov't BLD., 1-ga, 77, Sejong St., Seoul, Korea
8	Mexico メキシコ	Mr. Javier Rubio Velazquez ハビエル	Counsellor, Silao Water Works Utilities シラオン上下水道公社 顧問 Student, Faculty of Civil Engineering, University of Guanajuato グアナフアト大学大学院 学生	University of Guanajuato, Av. Juarez 77, Guanajuato, Gto.36000., Mexico
9	Philippines フィリピン	Mr. Renato A. Arante レナト	Science Research Specialist, Philippine Institute of Volcanology and Seismology  フィリピン火山地震研究所 科学研究専門員	5th Floor Hizon Bldg., 29 Quezon Avenue, Quezon City, Philippines
10	Saudi Arabia サウディ・アラビア	Mr. Hatem Aseer Nafel Al-Moteiri モテイリ	Environmental Specialist, Meteorological and Environmental Protection Administration  気象・環境保護局 環境専門員	P. O. Box 1358, Jeddah 21431, Saudi Arabia
11	Turkey トルコ	Mr. Kadircan Aktas カディルジャン	Senior Researcher, Earthquake Research Department, General Directorate of Disaster Affairs, Ministry of Public Works and Settlement  公共事業・居住省 災害問題総局 上級研究員	P. O. Box 763, Kizilay, Ankara, Turkey

LIST OF PARTICIPANTS IN " SEISMOLOGY AND EARTHQUAKE ENGINEERING II "

平成7年度地震工学Ⅱコース（地震学）研修員名簿

研修期間：1995年9月4日～1996年7月28日  
 受入機関：建設省建築研究所

No.	COUNTRY 国名	NAME 氏名	PRESENT POST 現職・所属先	OFFICIAL ADDRESS 勤務先住所
1	Argentina アルゼンティン	Ms. Claudia Susana Staff クラウディア スタフ	Geophysics Researcher Instituto Sismologico Fernando S. Volponi サン・ファン国立大学 F. S. V. 地震学研究所 地球物理学研究員	Av. I. de la Roza y Meglioli C. P. 5400 San Juan, ARGENTINA
2	China 中国	Mr. Xu, yang ズー	Seismological Engineer Seismological Bureau of Shanxi Province 山西省地震局 地震学技官	Taiyuan, Shanxi 030002 P. R. CHINA
3	Colombia コロンビア	Ms. Adriana Micaela Ortega Estupinan アドリアーナ	Operative Technical Institute of Research and Investigation in Geosciences, Minerals and Chemicals 地球科学・鉱物・化学研究所 操作技官	Carrera 31 No. 18-07 Pasto Narino, COLOMBIA
4	Egypt エジプト	Mr. Mohmoud Mohamed Saliem Salh サリーム	Assistant Researcher National Research Institute of Astronomy and Geophysics 国立天文・地球物理学研究所 研究助手	P. O. Box 138 Helwan, Cairo EGYPT
5	Guinea ギニア	Mr. Barry Saikou Yaya バリ	Field Geologist National Office of Mining and Geological Research 国立鉱山学・地学研究所 野外探査地質学者	P. O. Box 295 Conakry, GUINEA
6	Indonesia インドネシア	Mr. Subardjo スバルジョ	Assistant Researcher in Geophysics Meteorological and Geophysical Agency 気象・地球物理学庁 地球物理学研究助手	Jl. Angkasa I/2 Jakarta 10720 INDONESIA

No.	COUNTRY 国名	NAME 氏名	PRESENT POST 現職・所属先	OFFICIAL ADDRESS 勤務先住所
7	Pakistan パキスタン	Mr. Nadeem-Ul-Haq ナディーム	Junior Seismologist Water and Power Development Authority Pakistan パキスタン水資源電力開発局 地震学研究官	P. M. O. Tarbela Dam Project PAKISTAN
8	Philippines フィリピン	Mr. Erlinton Antonio B. Olavere エトン	Science Research Specialist I Philippine Institute of Volcanology and Seismology フィリピン火山・地震学研究所 科学研究専門官 I	5th Floor, Hizon Building 29 Quezon Ave., Quezon City PHILIPPINES
9	Syria シリア	Mr. Abdul Majid Al Hariri ハリリ	Engineer General Establishment for Geology and Mineral Resources 地質学・鉱物資源機構 技師	P. O. Box 7645 Damascus, SYRIA
10	Vietnam ヴェトナム	Mr. Nguyen Xuan Binh ビン	Engineer-Researcher Institute of Geophysics, Vietnam National Center for Natural Science and Technology ヴェトナム国立自然科学工学センター 地球物理学研究所研究技官	Box 411 Buudien Boho Hanoi, VIETNAM
11	Yemen イエメン	Mr. Abdul-Hakim A. A. Ahmed ハキム	Geophysicist Seismological Observatory Center 地震学観測センター 地球物理学者	P. O. Box 87175 Dhahran, YEMEN

LIST OF PARTICIPANTS IN "SEISMOLOGY AND EARTHQUAKE ENGINEERING II"  
平成7年度地震工学Ⅱコース（地震工学）研修員名簿

研修期間：1995年9月4日～1996年7月28日  
受入機関：建設省建築研究所

No.	COUNTRY 国名	NAME 氏名	PRESENT POST 現職・所属先	OFFICIAL ADDRESS 勤務先住所
1	Algeria アルジェリア	Mr. Makhlouf Baziz マクルーフ	Chief of Research Bureau Institute of Buildings Ministry of Housing and Construction 住宅・建設省建築研究所 研究局主任	135 Rue Didouche Mourad Algiers, ALGERIA
2	Chile チリ	Mr. Carlos Abel Rodriguez Pozo カルロス	Civil Engineer of Social House Ministerio de la Vivienda y Urbanismo 住宅・都市計画省公共住宅部 土木技師	Ayda. Bernardo O'Higgins 924 Santiago, CHILE
3	Costa Rica コスタ・リカ	Mr. Jorge Alberto Martinez Mesen ホルヘ	Professional 2 in Civil Engineering Ministry of Public Works and Transport 公共事業運輸省 土木専門官2	Plaza Gonzalez Viquez San Jose, COSTA RICA
4	Cuba キューバ	Ms. Belmis Avich Duran ベルミス	Research Fellow of the Department National Center for Seismological Research 国立地震学研究センター 部付特別研究員	Calle 17 No. 61 e/4 y 6 Vista Alegre, CP90400 Santiago de Cuba, CUBA
5	Ethiopia エチオピア	Ms. Aynalem Demissie Aredo アイナレム	Structural Engineer Building Design Enterprise 建築設計企画局 構造技師	P. O. Box 40036 Addis Ababa, ETHIOPIA
6	India インド	Mr. Singh, Ranjit ランジット	Executive Engineer Yanuna Bridge Project Div. II Central Public Works Department 中央公共事業省ヤムナ橋プロジェクト 主任技師	Nirman Bhavan New Delhi-110001 INDIA

No.	COUNTRY 国名	NAME 氏名	PRESENT POST 現職・所属先	OFFICIAL ADDRESS 勤務先住所
7	Indonesia インドネシア	Mr. Cecep Barkheri Bachroni チェチエフ	Staff of Structure and Tall Building Division Institute of Human Settlements 人間居住研究所構造・高層建築部門 研究員	Jalan Panyawungan Cileunyi Wetan Kab. Bandung, Jawa Barat INDONESIA
8	Nepal ネパール	Mr. Binay Charan Shrestha ビナイ	Assistant Engineer District Building Office Department of Buildings Ministry of Housing and Physical Planning 住宅自然計画省建設部地方建設局 技師	Anamnagar, Kathmandu NEPAL
9	Peru ペルー	Mr. Ruben Guzman Colque ルーベン	Assistant Professor Faculty of Civil Engineering National University of Civil Engineering 国立土木工科大学土木工学部 助教授	Av. Tupac Amaru Km. 4. 5s/n Lima, PERU
10	Philippines フィリピン	Mr. Nonato M. Paylado ノニー	Engineer II, Regional Office No.7 Department of Public Works and Highways 公共事業道路省第7地方事務所 技官II	Salinas Drive, Lahug Cebu City, Cebu PHILIPPINES
11	Turkey トルコ	Mr. Ali Hurata アリ	Civil Engineer Earthquake Research Department General Directorate of Disaster Affairs Ministry of Public Works and Settlement 公共事業居住省災害部地震研究部門 土木技官	Eskisehir Yolu 10. Km. Lodumlu Ankara, TURKEY

LIST OF PARTICIPANTS IN " COAL MINE SAFETY "

平成7年度石炭鉱山保安コース研修員名簿

研修期間：1995年9月11日～1995年12月10日  
 受入機関：石炭開発技術協力センター

No.	COUNTRY 国名	NAME 氏名	PRESENT POST 現職・所属先	OFFICIAL ADDRESS 勤務先住所
1	Brazil ブラジル	Mr. Sergio Augusto Letizia GARCIA	Teacher Liberal Salzano Vieira de Cunha Technical School 教師 クンハ リベラル サルザノ フィエイレ工業専門学校	Inconfidentes St. 395 Novo Hamburgo-Rs CEP 9340, 140 BRAZIL
2	China 中国	Ms. ZHANG Kehui	Mining Ventilation & Safety Control Huaneng Coal Corporation 通気保安担当技師 華能石炭公社	Huaneng Building, A23 Fuxinglu Beijing 100036 P. R. CHINA
3	Colombia コロンビア	Mr. Jose Ricardo PEREZ LEMUS	Manager Investigaciones Geologicas Con Satelite-GEOS LTDA. プロジェクトマネジャー・コーディネータ ジオサット会社 (石炭鉱山保安、環境問題技術コンサルタント業)	CALLE 53B #27-24 of. 403 Galerias-Bogota, Colombia
4	India インド	Mr. Krishna Prasad NAGABHAIRAVA	Deputy Director of Mines Safety N. S. R. KRISHNA PRASAD 副部長 労働省、鉱山保安総局	Office of the D. G. M. S., No. 4 Seminary Hills, Nagpur-440006, INDIA
5	Indonesia インドネシア	Mr. Syairullah Mirza PRABU	Supervisor of Mine Planning National Bukit Asam Coal Mining Co. 企画設計担当技師 国有アキット・アサム石炭会社 タンジエン・エニム鉱業所	PT. TAMBANG BATUBARA BUKIT ASAM Jl. PARIGI No. 1 TANJUNG ENIM 31716 South Sumatra INDONESIA
6	Iran イラン	Mr. Bagherzadeh Veshki Eshagh	Galanderud coal project National Iranian Steel Co. (NISCO) 探査開発グループ長	No. 685 VALLI-A SR SQ-TEHRAN-IRAN

No.	COUNTRY 国名	NAME 氏名	PRESENT POST 現職・所属先	OFFICIAL ADDRESS 勤務先住所
7	Pakistan パキスタン	Mr. Ghulam Murtaza ZAFAR	Assistant Mining Engineer (AME) Punjab Mineral Development Corp. パドハラ鉄プロジェクトUnit II 坑長 パンジヤブ鉱物開発公社	2nd. Floor Alfiah Building, Lahore PAKISTAN
8	Philippines フィリピン	Mr. Manuel Asuncion BANAAG	Engineer (Mining) II Mines and Geosciences Bureau 鉱山技師 II 環境・天然資源省鉱山・地球科学局	Mines and Geosciences Bureau North Avenue, Diliman, Quezon City
9	Turkey トルコ	Mr. Huseyin CANPOLAT	Mining Engineer & Section Head Turkish Coal Enterprises 鉱山技師、科長 (坑内掘坑、上席技師) トルコ石炭公社 Middle Anatolia 褐炭鉱山	OAL MUESESESI CAYIRHAN ANKARA 06922 TURKEY



LIST OF PARTICIPANTS IN "EXECUTIVES' SEMINAR ON PUBLIC WORKS RESEARCH AND DEVELOPMENT"

平成7年度土木技術研究開発幹部セミナー研修員名簿

研修期間：1995年9月25日～1995年10月6日  
 受入機関：建設省土木研究所

No.	COUNTRY 国名	NAME 氏名	PRESENT POST 現職・所属先	OFFICIAL ADDRESS 勤務先住所
1	Bangladesh バングラデシュ	Mr. Md. Abdul Majid KHAN	Director General, River Research Institute 水資源省河川研究所所長	Harukandi, Faridpur, BANGLADESH  TEL (063)3032
2	China 中国	Dr. Yang Guo-Wei	Senior Engineer, Changjian Water Resources Commission 水利部長江水理委員会副局長	1155 Liberation Ave. Wuhan 430010, CHINA  TEL (027)2828603,2828607 FAX (027)2416125
3	India インド	Dr. D. V. SINGH	Director, Central Road Research Institute, Ministry of Science & Technology 中央道路研究所所長	Delhi-Mathura Road, P. O. CRRRI, New Delhi 110020, INDIA  TEL +91 11 684 8917 FAX +91 11 684 5943
4	Indonesia インドネシア	Dr. PATANA Rantetoding	Director, Institute of Road Engineering, Ministry of Public Works 公共事業省研究開発庁道路研究所所長	Jl. Raya Timur No. 264 Bandung, INDONESIA 40294  TEL (022) 7802052 FAX (022) 7802726
5	Korea 韓国	Dr. KIM Sung	Director, Planning & Coordination Division, Korea Institute of Construction Technology 建設技術研究所企画調整部長	Umyon-Dong 142 Socho-Gu Seoul, KOREA  TEL 82-2-570-8704 FAX 82-2-570-8874
6	Malaysia マレーシア	Mr. Omar bin Ibrahim	Deputy Director-General 1, Public Works Department of Malaysia 公共事業省公共事業局次長	Jalan Sultan Salahuddin 50582 Kuala Lumpur, MAKAYSIA  TEL 03-2985687 FAX 03-2921202

No.	COUNTRY 国名	NAME 氏名	PRESENT POST 現職・所屬先	OFFICIAL ADDRESS 勤務先住所
7	Philippines フィリピン	Mr. Antonio A. STA. Elena	Regional Director, Department of Public Works and Highways Region IX 公共事業道路省第9 地方建設局局長	Tumaga, Zamboanga City, PHILIPPINES  TEL 991-0626/991-0582 FAX 991-0626
8	Thailand タイ	Mr. Surapol PONGTHAIPATANA	Deputy Director, Technical Training Institute, Public Works Department, Ministry of Interior 公共事業局下水事業技術研究センター長	Rama VI Payatai Bangkok, THAILAND  TEL 273-0460-70 ext.156

LIST OF PARTICIPANTS IN "EXECUTIVE SEMINAR ON THE CONSERVATION AND MANAGEMENT OF LAKES"

平成7年度湖沼環境保全セミナーコース研修員名簿

研修期間：1995年10月16日～1995年11月5日  
受入機関：茨城県

No.	COUNTRY 国名	NAME 氏名	PRESENT POST 現職・所属先	OFFICIAL ADDRESS 勤務先住所
1	Bangladesh バングラデシュ	Mr. Sharif Rafiqul Islam シャリアフ	Executive Engineer, Dhaka Operation and Maintenance Division- I, Bangladesh Water Development Board(BWDB) 水開発行政技師	54, Motijheel C/A, (5th floor)Motijheel C/A, Dhaka, Bangladesh
2	Botswana ボツワナ	Mr. Kalaote Karl Kalaote カラオテ	Water Resources Engineer, Department of Water Affairs 鉱物水資源省水資源局水資源エンジニア	P/Bag 0029, Caborone, Botswana
3	Cambodia カンボジア	Mr. Long Rithirak ロング	Technical Assistant to the Director General, Ministry of Environment 環境省技術補佐官	#48, Samdech Preah Sihanouk, Tonle Bassac, Chamkamon, Phnom Penh, Cambodia
4	Cameroon カメルーン	Mr. Ebot Raphael Agbor アグバー	Divisional Delegate, Ministry of Environment and Forestry 環境森林省局長	Divisional Delegation of Environment and Forestry, Mamfe, Manyu Division, Cameroon
5	Colombia コロンビア	Mr. Andres Claudio Eraso Keller アンドレス	Head of Department of Hidrobiology, Corporation Autonoma Regional de Cundinamarca- CAR, 水生生物所長	Cra. 10 No. 16-82, Colombia
6	Ghana ガーナ	Mr. Joseph Addo Ampofo アンポフォ	Research Officer, Institute of Aquatic Biology 水生生物研究所研究官	Council for Scientific and Industrial Research, Box 38, Achimota, Ghana

No.	COUNTRY 国名	NAME 氏名	PRESENT POST 現職・所属先	OFFICIAL ADDRESS 勤務先住所
7	India インド	Mr. Rama Kant Prashar バラシヤ	Chief Engineer, Central Water Commission Ministry of Water Resources 水資源省中央水委員会主任エンジニア	No. 10, Rama Krishina, Nagar, Coimbatore, 641005 India
8	Kenya ケニア	Mr. Maurice Omondi Akech アケッチ	Ecologist, Lake Basin Development Authority (LBDA) 湖域開発機関生態学研究室	P. O. Box 1516, Kisumu, Kenya
9	Laos ラオス	Mr. Phithayaphone Saleumsy サラムシー	Deputy Director, Center of Protected Areas and Watershed Management Office 農林省森林局保護区流通管理センター所長代理	Department of Forestry, Vientiane, Laos PDR
10	Malawi マラウイ	Mr. Stephen Benjamin Alimoso アリモン	Senior Fisheries Research Officer, Fisheries Research Unit 漁業研究所漁業首席研究官	P. O. Box 27, Monkey Bay, Malawi
11	Nepal ネパール	Mr. Pokhrel Adarsha Prasad ボクレル	Deputy Director-General, Department of Hydrology and Meteorology, Ministry of Water Resources 水資源省水文・気象局副局長	G. P. O. Box 406, Babar Mahal, Kathmandu, Nepal
12	Pakistan パキスタン	Mr. Sheikh Zazar Aslam アスラム	Deputy Engineering Adviser (Civil), Ministry of Water and Power, Government of Pakistan 水力省副技術顧問	16-D (East) Blue Area, Islamabad, Pakistan
13	Senegal セネガル	Mr. Seni Coly コリー	Chief, Water Resources Management Bureau, Ministry of Hydraulics 水資源省水資源管理局長	BP 4021, Ministere de L "hydraulique/SGPRE-Dakar--Senegal

No.	COUNTRY 国名	NAME 氏名	PRESENT POST 現職・所属先	OFFICIAL ADDRESS 勤務先住所
14	Sri Lanka スリ・ランカ	Dr. Dandeniya Padmini de Alwis パドミン	Director, National Aquatic Resources Agency (NARA) 国立水産資源事務所長	Crow Island, Colombo 15, Sri Lanka
15	Tanzania タンザニア	Mr. Godfrey Lweyemamu Kamukala カムカラ	Director General, National Environment Management Council 国立環境管理評議会長	P. O. Box 63154, DAR ES SALAAM, Tanzania
16	Tanzania タンザニア	Mr. Thomas Wanyika Maembe マエンベ	Director of Fisheries, Ministry of Tourism, Natural Resources and Environment 観光・資源・環境省水産部長	Fisheries Division, P. O. Box 2462, DAR ES SALAAM
17	Uganda ウガンダ	Mr. Justin Ecaat エチャット	Senior Environment Officer, Department of Environment Protection 環境保護部環境主席官	P. O. Box 9629, Kampala, Uganda
18	Zimbabwe ジンバブエ	Mr. Wilson Mhlanga マランガ	Senior Ecologist, Lake Kariba Fisheries Research Institute カリバ湖漁業研究機関主席生態学研究官	P. O. Box 75, Kariba, Zimbabwe

LIST OF PARTICIPANTS IN "GLOBAL SEISMOLOGICAL OBSERVATION"

平成7年度グローバル地震観測コース研修員名簿

研修期間：1995年11月6日～1995年12月22日  
 受入機関：建設省建築研究所

No.	COUNTRY 国名	NAME 氏名	PRESENT POST 現職・所属先	OFFICIAL ADDRESS 勤務先住所
1	Bolivia ボリヴィア	Mr. Rene Alcalá Calvo レネ	Electronics Engineer, Observation San Calixto サン・カリクスト観測所(民間) 電気技師	Calle Indaburu 944 Street, La Paz, Bolivia
2	Colombia コロンビア	Mr. Garavito Barrera Fabio Enrique ファビオ	Specialized Professional, Instituto de Ciencias Nucleares Y Energías Alternativas, INEA 原子力科学・代替エネルギー院 研究官	A. A. 8595, Bogota, Colombia
3	Indonesia インドネシア	Mr. Rahmat Setiad ラフマット	Researcher, Seismology Study in NPP Siting, National Atomic Energy Agency (BATAN) Center for Nuclear Energy Studies 国立原子力機構 原子力研究センター 研究員	Jl. Kuningan Barat, Mampang Prapatan, Jakarta 12710, Indonesia
4	Kenya ケニア	Mr. Kataka Milton Obote カタカ	Research Assistant, University of Nairobi ナイロビ大学 研究助手	Department of Geology P. O. Box 30197, Nairobi, Kenya
5	Zambia ザンビア	Mr. Mubu Singute Mubu ムブ	Geophysicist, Geological Survey Department 鉱山・資源開発省 地質調査部 地球物理学担当官	P. O. Box 50135, Lusaka, Zambia

LIST OF PARTICIPANTS IN "RADIOLOGICAL PROTECTION FOR RADIATION SAFETY OFFICERS AT NUCLEAR FACILITIES"

平成7年度放射線安全管理実務者コース研修員名簿

研修期間：1996年1月29日～1996年3月7日  
受入機関：動力炉・核燃料開発事業団

No.	COUNTRY 国名	NAME 氏名	PRESENT POST 現職・所属先	OFFICIAL ADDRESS 勤務先住所
1	Bangladesh バングラデシュ	Mr. SK. Golam MOSTOFA モストファー	Assistant Professor of Radiotherapy Radiotherapy Department Dhaka Medical College & Hospital ダッカ医科大学・病院 放射線治療部講師	Radiotherapy Department Dhaka Medical College & Hospital Dhaka-1000 BANGLADESH
2	China 中国	Mr. WEI, Dao-Yan ウェイ	Engineer Department of Technical Services Anhui Nuclear Society 安徽省科学技术委員会 サービス部技師	Department of Technical Services Anhui Nuclear Society Hefei 230032, P. R. CHINA
3	Indonesia インドネシア	Ms. Usmiyanti DEWI デウイ	Supervisor on Radiological Protection Yogyakarta Nuclear Research Centre インドネシア原子力庁ジョクジャカルタ研究所 放射線防護監督者	Yogyakarta Nuclear Research Centre Jl. Babarsari PO Box 1008 Yogyakarta INDONESIA
4	Indonesia インドネシア	Mr. Agus NURROHIM アグス	Engineer Agency for the Assessment and Application of Technology 技術評価応用庁 研究員	Agency for Assessment and Application of Technology Jl. M. H. Thamrin 8, Jakarta 10340 INDONESIA
5	Philippines フィリピン	Ms. Ma. Teresa Gaminde MADRID マドリ	Health Physicist I Radiation Health Service Department of Health 厚生省放射線保健部 保健物理研究員	Radiation Health Service San Lazaro Cpd., Rizal Avenue, Sta. Cruz Manila PHILIPPINES
6	Thailand タイ	Ms. Wanpen RANGSAWAI ワンペン	Nuclear Scientist Office of Atomic Energy for Peace タイ原子力庁アイソトープ製造部原子力科学員	Office of Atomic Energy for Peace Vibhavadee-Rangsit Rd., Chatuchak, Bangkok 10900 THAILAND

9-4 平成7年度(継続)個別研修員受入実績

NO.	国名	研修科目	研修員氏名	全体受入期間	主な受入機関
1	ブルガリア	地震工学Ⅱ	Mr. Joudan Ivanov Milev	940905～950729	建築研究所
2	トルコ	(B)地震情報処理及び解析	Mr. Engin Coruh	941127～950425	建築研究所
3	トルコ	(B)地震情報処理及び解析	Mr. Fikri Ozturk	941127～950425	建築研究所
4	タイ	獣医ウイルス学	Ms. Aree Sapcharoen	950110～950531	家畜衛生試験場
5	タイ	毒物学	Ms. Panun Tanacharoenwatch	950110～950622	家畜衛生試験場
6	タイ	(C)家畜繁殖・衛生	Ms. Panpilai Sekasiddhi	950116～950522	家畜衛生試験場
7	スリ・ランカ	昆虫学	Ms. Indra Shiamamahe Weerasinghe	950119～951221	筑波大学農林工学系
8	フィリピン	腐食研究	Ms. Barbara Dar Juan Tio	950130～950729	金属材料技術研究所
9	タイ	高速道路の維持管理	Mr. Chet Dilokrojinkul	950131～950510	日本道路公社
10	タイ	高速道路点検・維持管理	Mr. Pibulsak Aungsuthara	950131～950510	日本道路公社
11	タイ	(B)食品化学分析	Ms. Varatip Somboonyarithi	950207～950415	マルハ研究所
12	ペルー	地震力学および土質試験	Mr. Luis Antonio Chang Chang	950213～950713	建築研究所
13	ペルー	組積構造および強化コンクリート	Mr. Augusto Gamarra Estrella	950213～950713	建築研究所
14	パキスタン	エックスアールエフ(上級)	Mr. Abdul Aziz	950220～950502	地質調査所
15	ケニア	林業訓練	Mr. Dickson Lubanga Makanji	950222～950414	林業講習所
16	ミャンマー	森林管理	Mr. Hla Win Maung	950222～950414	林業講習所
17	タイ	訓練	Mr. Thera Kowprasit	950222～950414	林業講習所
18	タイ	訓練	Mr. Somdet Champee	950222～950414	林業講習所
19	タイ	訓練	Mr. Suwannee Jaroenkolkit	950222～950414	林業講習所
20	大韓民国	水質管理	Mr. Kim, Sang-Dong	950227～960217	国立環境研究所
21	大韓民国	水質管理	Mr. Yang, Hyung-Jae	950227～960217	国立環境研究所
22	マレーシア	炭化技術	Mr. Hoi Why Kong	950312～950418	森林総合研究所
23	マレーシア	材質特性	Mr. Lim Seng Choon	950312～950521	森林総合研究所
24	ケニア	林業研究	Mr. Daniel Nyamai	950313～950415	森林総合研究所
25	タイ	腐食試験に関する分極測定技術	Mr. Pakdi Thongcharoen	950313～950610	金属材料技術研究所
26	パラグアイ	家畜衛生	Mr. Carlos Ramon Chirfe Cardozo	950313～950630	沖縄県家畜衛生試験場
27	中国	廃棄物焼却技術	Mr. Guiqing Liu	950313～950701	資源環境技術総合研究所
28	ニジェール	地形図作成	Ms. Yacouba Abarta Baidou Magagi	950314～950411	国際航業株式会社
29	中国	草地改良	Mr. Yang, Lian-He	950320～950920	家畜改良センター岩手牧場
30	インドネシア	造林、森林保護	Mr. Dharmawan Pathi	950321～950425	森林総合研究所



NO.	国名	研修科目	研修員氏名	全体受入期間	主な受入機関
31	中国	固体廃棄物検査測定技術	Mr. Jieshan Cao	950321～950722	埼玉県公害センター
32	ザンビア	(b) 電子機器修理	Mr. Grayson Himunzowa	950321～950723	家畜衛生試験場
33	中国	リモートセンシング	Mr. Li, Jian-Jun	950321～950930	森林総合研究所
34	中国	リモートセンシング	Mr. Wu, Bin	950321～950930	森林総合研究所
35	メキシコ	(b) ロボット工学	Mr. Omar Sanchez Mendina	950325～951127	機械技術研究所
36	メキシコ	(b) ロボット工学	Ms. Ordorica Alvarez Barbara Araceli	950325～951127	機械技術研究所
37	オマーン	化学分析	Ms. Jalila Habib Abdulla Al-Quraishy	950327～950413	物質工学工業技術研究所
38	タンザニア	地下水開発	Mr. Emmanuel John Damball	950328～950422	株式会社三祐コンサルタンツ
39	ブラジル	侵食機構	Mr. Arthur Francisco Marques	950328～950527	森林総合研究所
40	オマーン	(b) 水産加工	Ms. Sabra Juma Al-Mugheiry	950328～950711	マルハ研究所
41	パラグアイ	養蜂生産分析	Mr. Mario Ricardo Quinonez Mendoza	950330～950503	畜産試験場

## 9-5 平成7年度(新規)個別研修員受入実績

No.	国名	研修科目	研修員氏名	全体受入期間	主な受入機関
1	ミャンマー	(B)社会林業	Mr. Win, Maw	950511~950816	森林総合研究所
2	フィリピン	土質安定処理	Mr. Isabelo Alanano Abellon	950515~950614	土木研究所
3	大韓民国	膨張率測定	Mr. Choi, Byung Il	950515~951214	計量研究所
4	アルゼンティン	プラズマ生成制御処理	Mr. Adolfo Benito Rodrigo	950518~950616	筑波大学その他学系
5	フィリピン	交通計画/工学/管理	Mr. Esteban Q. Cases, Jr.	950522~950721	都市局
6	ウルグアイ	林木種子の検査技術	Mr. Rucaldo Jose Methol Petit	950601~950731	林木育種センター
7	ウルグアイ	育種材料のクローン化技術	Mr. Oscar Daniel Dalera Costa	950601~950731	林木育種センター
8	インドネシア	地震工学	Mr. Sjafei Amri	950604~950803	建築研究所
9	チリ	地震防災	Mr. Juan Carlos De La Llera	950605~950627	建築研究所
10	フィリピン	産業廃水処理技術	Ms. Josie L. Pondevida	950606~950830	資源環境技術総合研究所
11	フィリピン	土木研究所の運営	Mr. Raul C. Asis	950618~950701	土木研究所
12	フィリピン	中等学校数学	Ms. Soledad A. Ulep	950619~950817	筑波大学教育学系
13	ケニア	地図複製(地図印刷実習)	Mr. Sammy Franklyn Mugadi	950619~951216	国土地理院
14	ケニア	地図作成(地図編集実習)	Mr. Charles Mukonyo Kimari Mwangi	950619~951216	国土地理院
15	中国	プロジェクト管理	Mr. Yang, Zong-Wu	950621~950711	林木育種センター
16	中国	森林生態	Mr. Xiao, Xiang-Xi	950621~951024	森林総合研究所
17	マレーシア	木材の集成加工技術	Mr. Ting King Boh	950702~950928	森林総合研究所
18	マレーシア	塗装技術	Mr. Mat Yaacob Bin Che Wan	950703~950912	森林総合研究所
19	タイ	ウイルス学	Ms. Sudarat Damrongwatanapokin	950705~951222	家畜衛生試験場
20	タイ	血清学	Mr. Pomchai Sombatchaisak	950705~951222	埼玉県家畜保健衛生所
21	ブラジル	森林生態	Ms. Giselda Durigan De Souza Dias	950709~950809	森林総合研究所
22	ブラジル	森林生態	Mr. Geraldo Antonio Daher Correa	950709~950809	森林総合研究所
23	ポリヴィア	道路計画	Mr. Abel Cascos Guerra	950711~950812	セントラルコンサルタント株式会社
24	大韓民国	表面分析	Mr. Kim, Hyun-Kyong	950717~951014	金属材料技術研究所
25	ケニア	土地測量(測地・写真測量実習)	Mr. Gilbert Okech Ayoo	950717~951216	国土地理院
26	ブラジル	クリープ試験	Mr. Jose Eduardo Goncalves Lamas	950731~950930	金属材料技術研究所
27	中国	石炭燃焼技術	Mr. Gao, Jin-He	950731~960130	資源環境技術総合研究所
28	ウルグアイ	リグニンと炭水化物よりのポリウレタン合	Ms. Gabriela Natsu Imazu Alba	950731~960630	物質工学工業技術研究所
29	スリ・ランカ	道路・橋梁維持管理	Mr. Paranagamage Gunapala	950801~950831	日本工管株式会社
30	中国	画像・図形処理	Ms. Wang, Li-Ping	950814~960209	国立環境研究所

No.	国名	研修科目	研修員氏名	全体受入期間	主な受入機関
31	中国	森林経営	Ms. Lian, Xin-Li	950816～951215	森林総合研究所
32	インドネシア	砂防事業運営管理	Mr. Mohamad Hardjono Dip. He	950820～950831	建設省河川局
33	マレーシア	木質パネル製品 (MDF)	Mr. Mohamed Nor Bin Mohd Yusoff	950821～950930	森林総合研究所
34	アルゼンティン	(B)機械設計・製造技術	Mr. Jose Jorge Enrique Alvarez	950821～951127	機械技術研究所
35	インドネシア	プロジェクト運営管理	Mr. Mulyanto bin Darmosuwito	950823～950922	建設省河川局
36	インドネシア	地域開発と砂防	Mr. Darma Sakti	950823～951122	建設省河川局
37	インドネシア	貯水池堆砂対策	Mr. Sutikno Hardjosuwarno	950823～951122	建設省河川局
38	ネパール	防災対策	Mr. Ram Kumar Shrestha	950827～950923	建設省河川局
39	ブラジル	透明アルミナ製造工程技術	Mr. Antonio Carlos de Camargo	950828～951107	無機材質研究所
40	タイ	排水処理	Mr. Piya Sansanayuth	950828～951125	国立環境研究所
41	中国	生物測定技術	Ms. Zhao, Yin-Hui	950828～960203	滋賀県衛生環境センター
42	中国	自動車排気ガス汚染防止	Ms. Yuan, Ying	950828～960227	機械技術研究所
43	ルーマニア	産業技術研究	Ms. Taraibuta Claudia Rodica	950828～960728	物質工学工業技術研究所
44	チリ	鉱山保安	Mr. Julio Femando Morales Barreda	950903～951003	資源環境技術総合研究所
45	チリ	鉱山公害防止	Mr. Andres Patricio Gomez-Lobo	950903～951003	資源環境技術総合研究所
46	チリ	公害防止	Mr. Hugo Eduardo Aguirre Codocedo	950903～951003	資源環境技術総合研究所
47	マレーシア	木材の強度特性	Mr. Alik Duju	950903～951126	森林総合研究所
48	アルゼンティン	微生物学	Ms. Florencia Laura Pantozzi	950903～960225	家畜衛生試験場
49	インドネシア	住宅対策 (研修運営)	Ms. Lingkan Wene Wewengkang	950904～950928	建築研究所
50	大韓民国	水質改善技術	Ms. Kim, Jung-Hwa	950904～951003	国立環境研究所
51	インド	高速道路維持管理	Mr. Aditya Prakash Bahadur	950904～951004	日本道路公団
52	中国	害虫の生理	Ms. Lang, Xing-Ru	950904～951203	森林総合研究所
53	中国	化学生態的防除法	Mr. Li, De-Jia	950904～951203	森林総合研究所
54	中国	害虫の生態	Mr. Zhang, Bo	950904～951203	森林総合研究所
55	インドネシア	森林生態	Mr. Sadeli Ilyas	950904～951209	東京農工大学
56	タイ	病理学	Ms. Chira Kongkrong	950904～960223	家畜衛生試験場
57	ネパール	河川環境技術	Mr. Narayan Prasad Bhattarai	950905～951123	建設省河川局
58	パキスタン	鉱物学・鉱床学	Mr. Muhammed Rehanul Haq Siddiqui	950918～951202	地質調査所
59	パキスタン	岩石学・EPMA	Mr. Ibrar-UI-Hasan Khan	950918～951202	地質調査所
60	ネパール	材料試験	Mr. Kishor Kumar Bhattarai	950918～951215	建設省河川局

No.	国名	研修科目	研修員氏名	全体受入期間	主な受入機関
61	ネパール	地滑り調査	Mr. Rajeev Regmi	950918～951215	建設省河川局
62	ネパール	砂防調査	Mr. Chandra Shekhar Gautam	950918～951215	建設省河川局
63	エル・サルヴァドル	橋梁土木	Mr. Nelson Ramon Avila Castillo	950919～951021	セントラルコンサルタント株式会社
64	ニカラグア	橋梁建設計画、運営	Mr. Carlos Alberto Perez Padilla	950919～951021	セントラルコンサルタント株式会社
65	ニカラグア	橋梁土木	Ms. Nelda Rosa Hernandez De Vallecillo	950919～951021	セントラルコンサルタント株式会社
66	ラオス	森林管理・経営	Mr. Khambay Khamsana	950925～951025	森林総合研究所
67	インドネシア	住宅行政	Ms. Sutikni Utoro	950927～951003	建築研究所
68	インドネシア	住宅行政	Mr. Hari Sidharta, IR.	950928～951003	建築研究所
69	中国	材木育種	Mr. Xiao, Hua-Fang	951001～951014	森林総合研究所
70	タイ	天然林施業	Mr. Ana Keetakom	951003～951130	森林総合研究所
71	インドネシア	造林	Mr. Oman Suherman	951004～951229	新潟大学
72	フィリピン	交通計画/工学/管理	Mr. Manuel T. Apuan	951015～951213	土木研究所
73	ポーランド	国土情報システム	Ms. Grazyna Twardowska	951016～951110	国土地理院
74	ポーランド	国土情報システム	Ms. Ewa Katarzyna Malanowicz	951016～951110	国土地理院
75	モロッコ	地図作成	Ms. Salik Karima	951016～951215	国土地理院
76	ケニア	測量訓練 (測量教育・行政視察)	Mr. Haggai Nyapola	951016～951216	国土地理院
77	ボリヴィア	森林開発計画	Mr. Mamerto Cortez Ortega	951019～951121	森林総合研究所
78	ブラジル	森林管理	Mr. Antonio Donato Nobre	951022～951127	森林総合研究所
79	ブラジル	荒廃地復旧	Mr. Antenor Pereira Barbosa	951022～951127	森林総合研究所
80	メキシコ	触媒技術	Mr. Isaac Schifter Secora	951026～951109	コスモ石油株式会社
81	モンゴル	地質学 (機器分析)	Ms. Sereenengiin Jargalan	951030～951224	地質調査所
82	メキシコ	コンピュータオンライン実験法	Mr. Alonso Echavarria Luna	951101～951215	建築研究所
83	チリ	橋梁補修計画及び維持管理	Mr. Mario Patricio Isamitt Diaz	951105～951119	土木研究所
84	スリ・ランカ	建設施工	Mr. A. S. J. M. W. Jayasekera	951106～951205	土木研究所
85	パキスタン	橋梁建設 (設計・施工管理)	Mr. Mohammad Shahab Khattak	951106～951205	土木研究所
86	ヴェトナム	道路計画	Mr. Pham Tien Dung	951106～951205	日本道路公団
87	バングラデシュ	洪水対策 (地域別対策)	Mr. Mir Shahidul Islam	951106～951210	筑波大学社会工学系
88	カンボディア王国	道路・橋梁計画	Mr. Ouk Vanh	951106～951213	土木研究所
89	インドネシア	高速道路の交通運営管理	Mr. Unggul Cariawan	951106～951226	日本道路公団
90	インドネシア	森林計画	Mr. I Gusti Made Tantra	951107～951125	森林総合研究所

No.	国名	研修科目	研修員氏名	全体受入期間	主な受入機関
91	インドネシア	造林	Mr. Agus Kurnia	951108～951215	森林総合研究所
92	マレーシア	道路計画	Mr. Mohd Fozi Bin Matori	951109～951205	土木研究所
93	スリ・ランカ	高速道路・橋梁計画	Mr. Geustinna L. A. J. De Silva	951109～951212	土木研究所
94	チリ	地震防災	Mr. Jorge Heman Troncoso Troncoso	951111～951215	筑波大学その他学系
95	インドネシア	林木育種計画	Mr. Hendi Suhaendi	951112～951121	森林総合研究所
96	マレーシア	橋梁設計	Ms. Normala Hassan	951120～951228	日本道路公団
97	ブルネイ	林業研究	Mr. Mohamad Yussof Bin Haji	951123～951208	森林総合研究所
98	インドネシア	環境保護	Mr. Susilo Widodo	951126～951223	電子技術総合研究所
99	エジプト	地震学	Mr. Arabi El-Sayed Ibrahim	951210～960131	建築研究所
100	エジプト	地震学	Mr. F. E. A. Fakhr-Din Hassan	951210～960131	建築研究所
101	アルゼンティン	プラズマ処理(ミニプロ)	Mr. Carlos Alberto Lasorsa	951217～960412	筑波大学その他学系
102	メキシコ	防災技術普及手法	Mr. Guillermo Rendon Hidalgo	960115～960315	財団法人建築技術教育普及センター
103	チリ	大気拡散シュミレーション	Mr. Alejo Ivan Gallegos Ruedemann	960115～960330	資源環境技術総合研究所
104	大韓民国	微細構造解析	Mr. Hwang, Nong-Moon	960115～960427	金属材料技術研究所
105	中国	分析化学	Ms. Hong, Rong	960116～960514	森林総合研究所
106	カザフスタン	道路計画	Mr. Larichev Serger	960117～960131	土木研究所
107	モンゴル	地質学(機器分析)	Mr. Baljinnyamyn Delgertsogt	960117～960319	地質調査所
108	タイ	軟弱地盤対策のための試験と工法	Mr. Satitpong Apimeteetamrong	960121～960319	土木研究所
109	トルコ	道路構造物の維持管理	Mr. Mehmet Ertan Sayit	960128～960224	日本道路公団
110	ペルー	地域防災計画	Mr. Lazares la Rosa Luis Fernando	960129～960306	建築研究所
111	ブルガリア	地形図作成技術	Ms. Sara Beniamin Koen	960205～960305	国土地理院
112	大韓民国	水質改善システム	Ms. Lee, Jea-An	960205～970201	国立環境研究所
113	大韓民国	水質改善システム	Mr. Kang, Taegu	960205～970201	国立環境研究所
114	メキシコ	触媒技術(キャラクタリゼーション)	Ms. Lopez Cisneros Carla Rossana	960214～960228	コスモ石油株式会社
115	バングラデシュ	洪水対策視察	Mr. M Mozzammel Hoque	960215～960224	筑波大学構造工学系
116	バングラデシュ	洪水対策	Mr. Muhammad Shahjahan	960215～960224	筑波大学構造工学系
117	中国	害虫の生態	Mr. Sun, Pu	960218～960604	森林総合研究所
118	トルコ	鉱山地質	Mr. Yavuz Uluturk	960220～960323	地質調査所
119	トルコ	(B)耐震工学	Ms. Pinar Ozdemir	960227～960630	建築研究所
120	トルコ	(B)耐震工学	Mr. Alper Ilki	960227～960827	建築研究所

No.	国名	研修科目	研修員氏名	全体受入期間	主な受入機関
121	アルゼンティン	工業技術開発行政	Mr. Oreste Daniel Lupi	960303～960323	電子技術総合研究所
122	ブラジル	精铸技術	Mr. Mario Boccalini Jr.	960303～960413	金属材料技術研究所
123	インドネシア	プロジェクト運営管理	Mr. Waloejo Oetomo	960304～960319	土木研究所
124	チリ	鉱山技術	Mr. Roberto Segundo Orellaka	960304～960327	同和工業株式会社
125	イエメン	地形調査および鉱山調査	Mr. Ahmed Saeed Tahr Al-Hitary	960304～960414	三井金属資源開発株式会社
126	イエメン	ドリリング技術	Mr. Mohamed Abdul Hamd Mohamed	960304～960428	株式会社利根
127	イエメン	地質工学	Mr. Ashraf Sayed Ahmed Al-Jailani	960305～960416	土木研究所
128	大韓民国	X線解析	Mr. Kim, Chang-Soo	960311～960608	金属材料技術研究所
129	スリ・ランカ	橋梁改修	Mr. P. Bertram Leander Cooray	960317～960330	日本道路公団
130	バブア・ニューギニア	森林管理	Mr. Tommy Kupe Kosi	960321～960503	森林総合研究所
131	バブア・ニューギニア	森林植物資源の保全	Mr. Robert Kiapranis	960321～960503	森林総合研究所
132	インドネシア	集合住宅	Ms. Wahyu Wuryanti	960326～960601	建築研究所
133	パキスタン	化学分析	Mr. Mohammad Zafar	960326～960622	地質調査所
134	中国	木質複合材料	Mr. Piao, Cheng	960326～960702	森林総合研究所
135	中国	接着剤	Mr. Zhang, Changwn	960326～960702	森林総合研究所
136	メキシコ	(B) ロボット工学	Mr. Carbonell Hernandez Miguel Angel	960327～961125	機械技術研究所
137	メキシコ	(B) ロボット工学	Mr. Davila Moragado Anselmo	960327～961125	機械技術研究所
138	チリ	気象研究	Mr. Munuel Tomas Merino Thayer	960328～960427	気象研究所

9-6 平成7年度 日本語講習実施一覧表

集中講習

No.	クラス名	国名	受講者数	講習期間	時間数	担当指導員
以下、1クラスは平成6年度第4四半期開講、7年度第1四半期開講。(回数、時間数は7年度分のみ)						
1	野菜生産	香港他10国	13	H7.3.9-4.4	5.0	光原、石川
小計 A			13		5.0	
以下、20クラスは平成7年度内、開閉講。						
2	植物遺伝資源	モンゴル他5国	6	H7.5.15-6.2	50.0	内田、前田、宮本
3	水管理	ケニア他10国	11	H7.5.18-6.2	25.0	村、山崎
4	物質工学研究	韓国他6国	7	H7.5.22-6.2	50.0	光原、中川、宮本
5	獣医バイオ診断技術	アルゼンティン他5国	6	H7.5.22-5.26	25.0	関根、長能
6	生命工学研究	フィリピン他3国	5	H7.5.29-6.9	50.0	塩地、荒井、宮本
7	法定計量	エジプト他4国	5	H7.7.24-8.11	75.0	村、今給黎、長能
8	測量技術	ガーナ他8国	9	H7.8.7-8.18	50.0	光原、山崎
9	森林研究	ウルグアイ他3国	5	H7.8.21-9.8	50.0	中川、荒井、内田
10	河川及びダム工学	ボリビア他10国	11	H7.8.28-9.1	25.0	石川、内田
11	地震学	シリア他10国	11	H7.9.11-9.19	18.0	吉田、中川
12	地震工学	アルジェリア他11国	12	H7.9.11-9.19	18.0	服部、吉田
13	産業技術研究	タイ他5国	6	H7.9.4-10.2	100.0	宮本、関根、金久保
14	野菜採種	イラン他10国	11	H8.2.13-3.8	50.0	宮本、今給黎
15	農業機械設計	パキスタン他10国	11	H8.2.23-3.4	25.0	宮本、光原
16	稲作技術	エジプト他7国	8	H8.2.23-3.22	50.0	山崎、石川
17	灌漑排水	タンザニア他14国	17	H8.2.23-3.22	50.0	関根、村、光原
18	米生産(仏語)		6	H8.3.6-3.29	50.0	長能、光原
19	米生産(米語)	ラオス他10国	11	H8.3.7-3.28	50.0	宮本、吉田
20	農業機械評価試験	ブラジル他10国	11	H8.3.11-3.29	67.5	服部、荒井、中川
21	農業機械化	カメルーン他17国	18	H8.3.12-3.21	25.0	吉田、中川
小計 B			187		903.5	
以下、1クラスは平成7年度第4四半期開講、8年度第1四半期開講。(回数、時間数は7年度分のみ)						
22	野菜生産	フィリピン他13国	15	H8.3.7-4.4	40.0	前田、村
小計 C			15		40.0	
合計			215		948.5	

\*テキストは全てのクラスで「技術研修のための日本語1改訂試用版」を使用。

一般講習（通常クラス）

No.	クラス名	参加者数	講習期間	目標到達レベル		回数	時間数	担当指導員	備考・その他
				JICA	TBIC				
以下、5クラスは平成6年度開講、7年度第1四半期開講。（回数、時間数は7年度分のみ）									
1	K1 稲作技術	6	H7.2.13-3.2	2	2A	10	20.0	服部、山崎	H6+H7=16回
2	K2 農業機械設計	6	H7.3.6-4.24	2	2A	4	8.0	十島、宮本	H6+H7=9回
3	K3 野菜採種	11	H7.3.20-5.15	2	2A	10	20.0	金久保、荒井	H6+H7=14回
4	K4 農業機械化	9	H7.3.22-5.15	2	2A	12	24.0	吉田、長能	H6+H7=15回
5	K5 灌漑排水	15	H7.3.27-5.15	2	2A	12	24.0	関根、内田	H6+H7=14回
小計 A		47				48	96.0		
以下、33クラスは平成7年度内、開講。									
6	K6 米生産	11	H7.4.3-5.15	2	2A	13	26.0	前田、今給黎	
7	K7 野菜生産	10	H7.4.5-5.15	2	2A	13	26.0	宮本、関根、光原	
8	入門1	5	H7.4.11-5.16	1	1A	8	16.0	十島	
9	初級1	8	H7.4.13-6.29	3		20	40.0	関根、荒井	
10	入門2 自動車の安全公害対策技術	10	H7.5.22-6.19	1	1A	8	16.0	前田、荒井	
11	初級2	13	H7.5.24-7.12	2	2B	15	30.0	光原、服部	
12	初級3	19	H7.5.24-7.17	2	2B	15	30.0	内田、金久保	
13	初級4	13	H7.5.24-7.17	2	2B	15	30.0	関根、塩地	
14	K8 水管理 獣医バイオ診断	10	H7.5.29-9.4	2	2A	22	44.0	長能、山崎	
15	K9 物質工学研究 生命工学研究 植物遺伝資源	14	H7.6.14-9.6	2	2B	25	50.0	宮本、塩地、光原	
16	入門3	8	H7.7.3-8.8	1	1A	8	16.0	中川、金久保	
17	中級1	8	H7.7.26-9.20	3		14	28.0	中川、金久保	
18	中級2	12	H7.7.26-9.25	3		14	28.0	関根、内田	
19	K10 法定計量	5	H7.8.14-8.23	2	2B	4	8.0	今給黎、長能	
20	中級3	4	H7.8.1-10.9	4		10	20.0	服部	
21	K11 測量技術	8	H7.8.23-11.9	2	2B	14	28.0	山崎、光原	
22	入門4-a 入門4-b 入門4	17	H7.8.30-9.6 H7.9.7-9.13 H7.9.18-11.1	1	1A	3 3 13	6.0 6.0 26.0	十島、内田	3回目まで4-a、4-bと分けて実施し、以降は合同。
23	K12 河川及びダム工学	6	H7.9.6-10.16	1	1B	10	20.0	内田、石川	



No.	クラス名	参加者数	講習期間	目標到達レベル		回数	時間数	担当指導員	備考・その他
				JICA	TBIC				
24	入門5 石炭鉱山保安	10	H7.9.11-10.4	1	1 A	9	18.0	今給黎、長能	
25	K13 森林研究	2	H7.9.13-10.12	2	2 A	7	14.0	荒井、中川	
26	K14 地震学	11	H7.9.25-12.18	1	1 B	14	28.0	吉田、中川	
27	K15 地震工学	10	H7.9.25-12.18	1	1 B	9	18.0	服部、吉田	
実際は14回、28hの授業を行なったが内5回はK14と合同としたため8回、16.0hと記入									
28	初級5	10	H7.9.27-12	3		20	40.0	宮本、光原、関根	
29	入門6 南ア野菜栽培	7	H7.10.9-11.21	1	1 A	10	20.0	長能、前田	
30	中級4	1	H7.10.11-11.29	4		6	12.0	荒井	
31	K16 産業技術研究	5	H7.10.11-12.20	3		14	28.0	宮本、光原	
実際は合計19回、38.0hだが19回中5回は初級5と合同としたため14回、28.0hと記入									
32	入門7 南ア農村開発	19	H7.11.13-12.4	1	1 A	8	16.0	前田、山崎	
33	中級4	11	H8.1.8-3.27	4		20	40.0	宮本、関根	
34	初級6	10	H8.1.8-3.27	3		16	32.0	吉田、中川	
35	入門8 (放射線安全管理実務者集団)	6	H8.1.30-2.25	1	1 A	5	10.0	服部	
36	入門9	1	H8.1.30-2.19	1	1 A	3	6.0	光原	
実際は6回、12hの授業を行なったが内3回は入門8と合同としたため3回、6.0hと記入									
37	中級5	2	H8.1.31-3.25	6		9	18.0	宮本	
38	初級7	1	H8.2.21-3.1	4		8	32.0	荒井、吉田	
小計 B		287				405	826.0		
以下、5クラスは第4四半期開講、8年度第1四半期開講。(回数、時間数は第4四半期分のみ)									
39	K1 (農業機械設計)	9	H8.3.7-4.22	2	2 A	6	12.0	宮本、光原	H7+H8=12回
40	K2 (野菜採種)	7	H8.3.13-4.17	2	2 A	4	8.0	宮本、服部	H7+H8=10回
41	K3 (農業機械化)	12	H8.3.21-4.22	2	2 A	4	8.0	服部、中川	H7+H8=10回
42	K4 (稲作技術)	6	H8.3.26-4.18	2	2 A	2	4.0	山崎、石川	H7+H8=9回
43	K5 (灌漑排水)	13	H8.3.25-4.18	2	2 A	2	4.0	関根、光原	H7+H8=8回
小計 C		47				18	36.0		
合計		381				423	958.0		

一般講習（特別クラス）

No.	クラス名	参加者数	開講日	回数	時間数	担当指導員	備考・その他
1	文化（日本映画）	17	4.14	1	4.0	金久保、荒井	映画：シコふんじゃった
2	文化（書道教室）	9	5.26、6.2、9	3	6.0	十島	
3	文化（七夕）	15	7.6	1	4.0	吉田、宮本	
4	文化（お盆）	11	8.11	1	2.0	山崎	
5	文化（歌）	32	9.5、7、8、12	4	7.5	十島、長能、内田	
6	文化（日本映画）	22	12.1	1	4.0	宮本、荒井	映画：となりのトトロ
7	文化（お正月）	3	12.15	1	4.0	光原、内田	
8	文化（書道）	10	2.2/9/16	3	8.0	十島、服部	
9	文化（雛祭り）	48	3.1	1	10.0	長能 他4名	
小計		167			49.5		
10	文字 1	6	4.25-5.2	4	8.0	山崎、服部	漢字の基本
11	文字 2	12	2.19-3.11	7	14.0	山崎、長能	平仮名
12	文字 3	27	3.6-3.27	7	14.0	服部、前田	平仮名
小計		45			36.0		
13	サロン（第1四半期）	32	4.13、6.29	2	4.0	荒井、中川	参加者数は延べ人数 である。
14	サロン（第2四半期）	56	7.12-9.28	8	16.0	中川 他4名	
15	サロン（第3四半期）	52	10.5-12.21	11	24.0	宮本 他9名	
16	サロン（第4四半期）	51	2.15-3.28	7	14.0	荒井、中川	
小計		191		28	58.0		
17	特別活動 日本語の歌コンテスト	出場者 60 観客(研修員) 149	9.14	1	26.0	宮本 他12名	
18	特別活動 年賀状作り	23 13	11.17 11.18	2	33.0	宮本 他9名	
19	特別活動 餅搗き大会	42	1.6	1	12.0	村 他5名	
小計		287		4	71.0		
20	補講（第1四半期）	5	5.18他	7	13.0	塩地 他	
21	補講（第2四半期）	5	8.10他	7	9.5	石川 他	
22	補講（第3四半期）	3	11.1他	5	11.0	内田、光原 他	
23	補講（第4四半期）	3	1.17他	4	12.5	宮本、中川、荒井	
小計		16		30	46.0		
合計					260.5		

9-7 平成7年度研修員厚生活動にかかる実績表

(4月)

招待 行事	番号	月日(曜)	行 事 名	実 施 場 所	参加研 修員数	行 事 内 容
	1	4月7日(金) 8日(土)	JICA新入職員(42名)と研修 員との交歓会及びスポーツ大会	第6セミナー教室及び 体育館等	24	新入職員(42名)の研修の一環 としてつくばに来訪した際、両 日にわたり、研修員との交流の 機会を設けたもの。
○	2	4月9日(日)	牛久市主催「春の交流会」	牛久保健センター	57	パーティの後、ラテン・アメリ カ、アフリカ、フィリピンの研 修員が歌と踊りを披露、牛久市 交流会会員の合唱も行われた。
	3	4月10日(月)	筑波大学日本語・日本文化学類 新入生(100名)の研修員との 交流会	当センター体育館等	65	所長挨拶、JICA事業概要説明、 施設案内、当センターの日本語 教育の概要説明の後、研修員と の交流が行われた。
	4	4月15日(土)	(研修員厚生活動行事) 東京ディズニーランド・ツアー		5	26名の入場券購入者があった が、オウム真理教の予言等不穏 な噂が流れ、5名が参加したに 止まった。
○	5	4月15日(土)	ボランティア団体アースバル企 画主催国際交流会	さくら民家園 (市内吾妻2丁目 中央公園内)	6	(1) 折紙教室(花、風船、鶴等 の実習) (2) 茶室にて、お点前に参加。 茶道の歴史、作法について 説明を受けた。
○	6	4月16日(日)	土浦ユネスコサンフラワーズ主催 ホーム・パーティ	同ボランティア・グル ープ清藤恵子副会長宅	10	会員の手作りにより、歌と踊り や会話を楽しむ親睦交流会。
	7	4月25日(火)	国際ソロブチミストつくばによ る研修員の環境問題に関する意 識調査 (アンケート調査)に対する協力			第6回世界湖沼会議に係る Progra Makingの為の、在館 142名の研修員に対する意識調 査。

(○印は、招待行事)

(5月)

招待行事	番号	月日(曜)	行事名	実施場所	参加研修員数	行事内容
	1	5月6日(土)	(研修員厚生活動行事) 東京ディズニーランド・ツアー		5	雨天の為参加者が少なかった。
	2	5月12日(金)	(研修員厚生活動行事) 華道・茶道教室	和室及び第6セミナー ルーム	34	コスモエコーの協力による実施。材料の関係から、華道参加者は34名であるが茶道には更に多くの研修員が参加した。
○	3	5月14日(日)	(財)茨城県国際交流会主催 「つくばフェスティバル'95」	つくばEXPOセンター 前広場	67	フィリッピン、アフリカ及び中南米グループ研修員が歌と民族舞踏によりステージ主演をして、拍手喝采された。
	4	5月20日(土)	(研修員厚生活動行事) ウォークラリー及び バーベキュー	茨城県立中央青年の家	118	ボランティアグループ土浦ユネスコサンフラワーズより6名の支援を受ける。
○	5	5月21日(日)	つくば学園ロータリークラブ主催 「スポーツフェスティバル」	つくば市洞峰公園グラ ウンド及び研究支援セ ンター(懇親会)	33	筑波大学留学生も参加した、日本の伝統的な運動会。殆どの研修員が初めての体験で、大いにハッスルした。
	6	5月27日(土)	(研修員厚生活動行事) テニス教室(第1日)	当センター テニスコート	22	筑波大学体育科学系 山田幸雄(講師)及び同大学大学院生(5人)に指導依頼初級、中級に分けて指導を受けた。
	7	5月28日(日)	ユネスコ・サンフラワーズ土浦主催 「琴・尺八演奏会等」及びケー キとお茶等による懇親会	当センター 第6セミナー教室及び 3階ロビー	82	琴(2人)、尺八(1人)の演奏会。奏者が海外演奏活動もされた体験のある方々で、英語での解説。(ビートルズからクラシックまでの演奏に研修員は感動)

(○印は、招待行事)

## (6月)

招待行事	番号	月日(曜)	行事名	実施場所	参加研修員数	行事内容
	1	6月3日(土) 4日(日)	(研修員厚生活動行事) テニス教室(第2、3日)	当センター テニスコート	13 18	筑波大学体育科学系 山田幸雄(講師)及び同大学大学院生(5人)に指導依頼初級、中級に分けて指導を受けた。
	2	6月3日(土) 17日(土)	(研修員厚生活動行事) 東京ディズニーランド・ツアー		9 22	
○	3	6月3日(土)	(財)つくば都市振興財団招待 「ショーロ・コンサート」	つくばノバホール	69	ブラジル伝統音楽の演奏会 バンドリンの鬼才DEO RIANの 来日公演
○	4	6月10日(土)	青年海外協力隊二本松訓練所主催 第1次隊員候補生との語学交流会	二本松訓練所	22	
○	5	6月10日(土)	青年海外協力隊主催 第1次隊員候補生との語学交流会	広尾訓練所	12	
○	7	6月10日(土)	WORLD PEACE PRAYER IN TSUKUBA '95 by World Peace Prayer Society(WPPS/UN-NGO)	つくばインフォメー ションセンター 大会議室	22	第1部:世界平和の祈り 第2部:フルートコンサート (東海林くみ子、音符の玉手箱)
○	8	6月10日(土)	ユネスコ・サンフラワーズ土浦 主催 「ホームステイ」	同クラブ会員11家族に よる研修員16名の招待	16	招待された16名は翌日の土浦ユ ネスコ協会主催の「バレーボ ール、市民との交流大会」研修員 18名に合流した。
○	9	6月11日(日)	土浦ユネスコ協会主催 「バレーボール、市民との交流 大会」	土浦市立神立小学校	19	大人も子供も参加できる易しい ルールで行われて、楽しい交流 会となった。その後、軽食によ るパーティも行われた。
○	10	6月11日(日)	つくば青年会議所主催 第5回つくば国際交流スポーツ 大会(バレーボール)	河峰公園体育館	32	2チーム22名がJICAチームと してB及びCリーグに参加、他 の10名は日本人チームに個々に 参加した。
	11	6月23日(金)	つくば中央警察署 高野 哲交通課長の講演 演題「交通安全等について」	当センター 第6セミナールーム	在館者 全員を 対象	実例等を交えた内容であったの で、研修員は大変熱心に聴講、 講演後、質問も多出した。
○	12	6月24日(土)	国際ソロプチミストつくば主催 「浴衣の着付け及び盆踊り練習」	当センター第3、第 4、第6セミナール ーム及び体育館	在館者 全員を 対象	(浴衣着付)女性:25名 男性:15名 催し終了後の軽食パーティを当 センターが共催した
○	13	6月24日(土) 25日(日)	ヒッポ・ファミリークラブ主催 「ホーム・ステイ」	同クラブ会員8家族 による8人の研修員 の招待	8	

(○印は、招待行事)

(7月)

招待 行事	番号	月日(曜)	行 事 名	実 施 場 所	参加研 修員数	行 事 内 容
	1	7月1日(土) 15日(日)	(研修員厚生活動行事) 東京ディズニーランド・ツアー		21 12	
○	2	7月2日(日)	コスモエコー主催 「国際親睦の集い」	土浦三中地区公民館	15	七夕祭の為に短冊作り、折り紙 等を習いその後、交流パーティ が行われた。
	3	7月7日(金)	(研修員厚生活動行事) 七夕ディスコ・パーティ	当センター食堂 (2F)	190	研修員が自筆した短冊を飾った 笹竹2本が会場に立てられ、デ ィスコが盛り上がりと共に、ラッ キー・ドロー等も行った。
	4	7月14日(金)	(研修員厚生活動行事) 地域研究会 「アジア・オセアニアの夕べ」	体育館	200	在館研修員による自国事情紹介 民族芸能(歌と踊り等)の披露 もあつて楽しい夕べであった。
○	5	7月15日(土)	(研修員厚生活動行事) 筑波大学留学生との サッカー試合	筑波大学グラウンド (SCORE) - JICA 5-4 筑波大学	18	4月よりチームを編成。三洋電 機・筑波研究所グラウンドにお いて毎土曜又は日曜に練習を行 い、初めての対外試合。
○	6	7月29日(土)	千葉県立成田国際高校主催夏季 セミナー(同校国際教育科123 名及び普通科127名の学生との 交流)	同校文化ホール他	23	学生6~8名に、1人の研修員 が入り、討論・交流後昼食会。 (JICA国際理解教育支援行事)
○	7	7月29日(土) 30日(日)	守谷街国際交流協会主催 「ホームステイ」	同協会会員9家族宅	9	北相馬郡守谷町国際交流センタ ーにおいて対面、昼食、アサヒ ビール工場及び八坂神社大祭見 学の後、各家庭へ分散。
○	8	7月29日(土)	高野台夏祭り	高野台公園	随意参加	当センター所在地自治会の盆踊り
○	9	7月29日(土)	牛久カッパ祭り	牛久市内特設会場	随意参加	カッパ踊りパレードに参加
○	10	7月29日(土)	稲敷郡河内村婦人会主催 「外国の料理講習会」	同村中央公民館	3	アルゼンチン(女性2名)料理名 "EMPADAS" メキシコ(女性1名)料理名 "MOLE" 日本側も2、3の料理を披露、 後、交流パーティ
○	11	7月30日(日)	つくば市古来地区主催 「夏祭り」	同地区広場及び 藤沢順一県議員宅	36	同地区の祭は、古式豊かな夏祭 りて、研修員は、日本の伝統文 化を堪能した後、バーベキュー 大会に招待された。

(○印は、招待行事)

(8月)

招待 行事	番号	月日(曜)	行 事 名	実 施 場 所	参加研 修員数	行 事 内 容
	1	8月4日(金)	サマーパーティ (共催) 筑波インターナショナルセンター 筑波国際農業研修センター	筑波国際農業研修セン ター北側駐車場	178 招待約 300名	屋外パーティ。例年のように、 下横場自治会等の協力を得て、 盆踊り大会を実施。西瓜り、花 火、錦飴店等周辺の住民に喜ば れる行事を行った。
○	2	8月5日(土)	土浦市主催 「土浦キララ祭り、'95、七夕祭 り踊り」	土浦市内の流し踊り	30	下記NGOの踊り指導、浴衣貸 与等の協力を得て、研修員は流 し踊りの楽しさを満喫。(協力 団体：コスモエコー、ユネス コ・サンフラワーズ)
○	3	8月5日(土)	つくば青年会議所主催 「国際交流・COOKING & TASTING PARTY」	筑波公民館	5	同会議所約40家族が参加。アル センチン、メキシコ、パラグア イ研の研修員が、各国料理を指 導。日本の料理と合わせて楽し いパーティとなる。
	4	8月10日(木)	群馬県前橋、新田、大泉ユネ スコ協会青少年130名の当セン ター見学 (この後、筑波宇宙センターを見学)	当センター全施設	農 七 研修員 79名と の交流	カレーライスにより交流。参加 の中・高校生がプレゼントを用 意。懸命に英会話を試みてい た。
○	5	8月22日(火)	谷田部ライオンズクラブ主催 「納涼家族例会」	ホテル・スワ	21	中南米の研修員が中南米の歌と 踊りを披露した。同クラブには 英語を話す人が多く、交流が盛 り上がった。
○	6	8月26日(土)	コスモエコー会員、田口計子宅 へのホーム・ヴィジット	同会員宅 (新治郡玉里村)	3	エジプト、シェラレオーネ、モ ロッコ研修員が招待を受ける。

(○印は、招待行事)

(9月)

招待 行事	番号	月日(曜)	行 事 名	実 施 場 所	参加研 修員数	行 事 内 容
	1	9月2日(土)	(研修員の厚生活動行事) 地域研究会「中南米の夕べ」	体育館	191	中南米諸国の研修員が、自国事情の説明及び歌や踊りなど伝統芸能を紹介した。1週間かけての舞台装置が素晴らしく、JICA NEWSに採用された。外部からの見学者多数
	2	9月3日(土)	(研修員の厚生活動行事) サッカー対外試合 敗戦 (JICA:3-5:家畜衛生試験場)	家畜衛生試験場グラウンド	22	本年唯一の敗戦試合であった。
	3	9月9日(金)	(研修員の厚生活動行事) 日本語の歌 コンテスト	体育館	(参加者) 1.個人 10名 2.グループ 6チーム	本コンテストは日本語教育の一環として行われており、JICAの日本語教師の指導によるものである。
○	4	9月16日(土)	(研修員の厚生活動行事) 東京ディズニーランド・ツアー		29	
○	5	9月16日(土)	茗溪学園中学校主催 「クロス・カルチュラル・トーク」	同中学校	17	座談会形式により、同校中学三年生との交流が行われた。同校には帰国子女が多く、英語による交流には支障がない。
○	6	9月29日(金)	茨城県・当センターとの共催 「第2回ワークショップ」 (講演会)	水戸三の丸ホテル	80	国際協力施策研究会メンバー(県職員)との交流。研修員の参加費相当分を当センターが負担。
	7	9月30日(土)	(研修員の厚生活動行事) 日光バスツアー	1. 華厳ノ滝 2. 日光東照宮	157	

(○印は、招待行事)



(10月)

招待行事	番号	月日(曜)	行事名	実施場所	参加研修員数	行事内容
	1	10月1日(日)	(研修員の厚生活動行事) サッカー対外試合 JICA3-2 筑波大学留学生チーム	筑波大学グラウンド	20	殆どのサッカー部員が、10月、11月に帰国するため、試合後簡単な交流パーティを持った。
○	2	10月3日(火)	つくば市主催 「全国ひらかな市町村サミット」 歓迎レセプションへの研修員の協力	第一ホテル (つくば市)	4	つくば青年会議所より、ホテル料理の他に、外国の料理をという相談があり、タイ、フィリピンの女性研修員が協力・出席した。
	3	10月7日(土) 21日(土)	(研修員の厚生活動行事) 東京ディズニーランド・ツアー		12 9	
	4	10月8日(日)	(研修員の厚生活動行事) JICA・CUP サッカー大会	国立西が丘競技場 サブ・グラウンド	38	(予選リーグ) TBIC 6 VS 0 JICA I (決勝戦) TBIC 2 VS 0 八王子センター 4年連続優勝
	5	10月13日(金)	コスモ・エコー主催 (当センター協賛) 「華道・茶道教室」	第6セミナールーム及 び同室前ロビー	68	同グループより、講師各1名及びアシスタント各4名が実技指導に当たった。
○	6	10月14日(土)	石岡レクリエーション協会等主催 「石岡国際ウォークラリー大会」	石岡ステーション・ パーク	8	参加総数約500名の大会で、参加外国人の半数は当センター研修員。大会を盛り上げた。日本人チームに一人ずつ参加。
○	7	10月21日(土)	コスモ・エコー主催 「ホーム・ヴィジット」	同クラブ会員2家族	6	湖沼環境保全セミナー参加研修員の中、希望6名がホームヴィジットに参加。
○	8	10月21日(土)	石岡市・市毛道子氏宅訪問	同市南台3-28-12	2	石岡ウォークラリー大会で知りあった研修員2名が招待され、大洗海岸、水族館、魚市場にも案内された。
○	9	10月22日(日)	(財)茨城県国際交流協会主催 「県民フェスティバル」	土浦市霞ヶ浦総合運動 公園特設会場	38	第6回世界湖沼会議の行事の一環として開催されたお祭り広場に、フィリピン及び中南米の研修員が歌と民族舞踊を披露した。
○	10	10月28日(土)	笠間市及び笠間国際交流協会主催 「菊まつり国際交流事業」	笠間稲荷神社境内他	53	日動美術館、菊祭りに招待され、特に初めて見る菊人形や大輪の菊に、研修員は目を見張った。

(○印は、招待行事)

(11月)

招待行事	番号	月日(曜)	行事名	実施場所	参加研修員数	行事内容
	1	11月2日(木)	研修員自主主催 「ハロウィン祭り」	体育館	在館者 全員	クリスチャンの研修員が開催。 同祭りに関心のある全研修員を 招待した。当センターは会場設 営費等を支援した。
○	2	11月4日(土)	平成5年度青年海外協力隊 第2次隊・隊員との語学交流会	青年海外協力隊 二本松訓練所	17	1. 協力隊事業説明 2. 協力隊派遣国別談話会 3. 全体懇談会 (立食パーティ)
	3	11月4日(土) 18日(土)	(研修員の厚生活動行事) 東京ディズニーランド・ツアー		19 28	
	4	11月10日(金)	国際親善パーティ	体育館	216	タイ・フィリッピン、中南米の 研修員がアトラクションに出 演。民族舞踊を披露した。
○	5	11月23日(木) (祝祭日)	守谷町国際交流協会主催 「ホーム・ヴィジット」	同協会会員宅12家族	12	同町国際交流センターにおいて 対面式、昼食の後、芸能祭りを 見学。以後、各家庭訪問。
○	6	11月25日(土) 26日(日)	ヒッポ・ファミリークラブ主催 「ホーム・ステイ」	同クラブ9会員宅	9	
	7	11月25日(土)	(研修員の厚生活動行事) 筑波山登山及び バーベキュー大会	筑波山及び茨城県立 中央青年の家	69	筑波山登山の後、茨城県立中央 青年の家においてバーベキュー 大会を行った。ユネスコ・サン フラワーズ会員5名の参加協力 を得た。

(○印は、招待行事)

(12月)

(○印は、招待行事)

招待行事	番号	月日(曜)	行事名	実施場所	参加研修員数	行事内容
	1	12月6日(金)	年末パーティ	当センター2F食堂	121	研修員の芸能披露の後、クイズ等のゲーム、最後はディスコ・ダンスで盛り上がった。2会場(第6セミナールーム)を設け、午後11時まで余韻を楽しんだ。
○	2	12月16日(土)	つくば市主催 「クリスマス・パーティ」	二ノ宮公民館	2	料理1品持ち寄りのパーティ。タイ女性研修員2名が約10人分のタイ料理を作って参加。当センターは材料費を負担した。好評であったとの報告があった。
○	3	12月21日(木)	土浦ライオンズクラブ主催 「クリスマス家族例会」	土浦京成ホテル	12	
	4	12月23日(土)	マラウイ派遣中の涌井孝幸青年 海外協力隊員(歯科)夫人主催 「クリスマス」の集い	岡夫人宅 (牛久市森の里57-16)	5	岡夫人与英会話教室グループの仲間及び子供達(30名)のクリスマスの催しに招待されたもの。

(1月)

招待行事	番号	月日(曜)	行事名	実施場所	参加研修員数	行事内容
	1	1月7日(土)	(研修員厚生活動行事) 餅つきと正月の遊び	体育館及び中庭	72	1. 餅つきの実演、研修員のTrial(5日)及び試食会 2. 正月の子供の遊び(独楽、福笑い、羽根つき(トーナメント)、等)
	2	1月18日(木)	ボランティア団体との会議	第6セミナールーム他		参加者14団体38名。日頃より当センター研修員の厚生活動行事等に協力的なボランティア団体に会議参加を依頼。JICA本部・岩元克理事の講演、永年協力団体への感謝状及び記念品贈呈等、関係団体とのネットワークの緊密化を図る会議となった。
	3	1月20日(土)	(財)茨城県国際交流協会主催 「第5回・外国人による日本語スピーチコンテスト」	茨城県教育会館8階 大ホール	2	MS.WANG LI-PING(中国:画像・図形処理)が、「なぜ5円王に穴があるか」、MR. POKU-GYAMFI YAW(GHANA:測量技術)が、「日本と茨城の印象」というテーマで参加。前者が「茨城県国際交流協会理事長賞」を受賞した。なお、当センターは、本大会の後援団体であり、また、所長は審査委員。JICA賞は、県の研修員(ケニヤ人)が受賞した。

(2月)

招待行事	番号	月日(曜)	行事名	実施場所	参加研修員数	行事内容
○	1	2月3日(土)	つくば市立二宮小学校主催 国際交流会	同小学校	2	当センター研修員の他に、つくば市在住の外国人18名が参加しての交流会。研修員は第4学年の生徒たちと交流した。
○	2	2月3日(土)	土浦市主催 「国際交流リーダー養成講座」 受講者との交流パーティ	亀城プラザ会館	2	本交流パーティは、養成講座受講生の実践活動の一環として、当センターに協力依頼があり、研修員が参加したもの。
	3	2月10日(土)	土浦ライオンズクラブ及び土浦ユネスコ協会主催 「第5回国際交流ボウリング大会」	土浦京成ボウル	17	土浦市在住の中・高生及び市民の中に研修員が入り、1チーム6人からなる合計24チームの大会。個人総合優勝は、当センター研修員であった。大会後は、土浦京成ホテルでレーン毎に円卓を囲む昼食祝賀会。
	4	2月10日(土)	(研修員の厚生活動行事) ディズニーランドバス旅行		8	本行事は、厳寒の冬季には実施していないが、放射線安全管理コース(短期)より実施要望があり、臨時に実施した。
	5	2月17日(土)	茎崎町立高崎中学校主催 「国際交歓会」	オープニングセレモニー (体育館) 1年1～5組教室他	19	学校側の準備が万全。英語による生徒のスピーチも分かり易く研修員は感心。柔道・剣道・琴の実演の後、PTA、職員との昼食会を楽しむ。
	6	2月18日(日)	コスモ・エコーとの共催による 「剣道を通しての交流会」	当センター体育館	107	小野派一刀流石山睦紀八段(警視庁師範)他6人の警視庁巡査長等及び乙戸南剣友会(土浦市)少年少女剣士の実演を通しての研修員との交流会。昼食後は紙飛行機を作り大会を開催した。
	7	2月24日(土)	(研修員の厚生活動行事) 袋田の滝バス旅行	(1) 袋田の滝 (2) 和紙の里 (3) 古徳沼 (白鳥飛来池)	98	土浦ユネスコ・サンフラワーズより4名の同行支援の協力があった。

(○印は、招待行事)

(3月)

招待行事	番号	月日(曜)	行事名	実施場所	参加研修員数	行事内容
○	1	3月9日(土)	青年海外協力隊二本松訓練所主催 第3次隊員候補生との語学区 流会	青年海外協力隊 二本松訓練所	34	訓練中の候補生161名との派遣 国の各現地語での交流。1月よ りの合宿訓練で上達した母国語 に研修員は感心した。
○	2	3月16日(土)	土浦ユネスコ協会依頼 「病院に於ける必要会話の翻訳」		3	同協会は、筑波メディカルセン ターにおいて、毎月曜日、ボラ ンティア通訳の奉仕活動を行っ ており、中国語、アラブ語、ブ ラジル語の翻訳依頼があり、関 係国研修員が協力した。
	3	3月16日(土)	(研修員の厚生活動行事) ディズニーランドツアー	東京ディズニーランド	34	晴天に恵まれ、暖かく、街路富 士山が見えてツアーを楽しん だ。園内では乗り物に向かって 走らず、のんびりと回る姿が印 象的であった。
	4	3月22日(金)	(研修員の厚生活動行事) 春季パーティ	食堂	200	ディスコ、及びゲーム等を行 い、春の宵を楽しく過ごした。

(○印は、招待行事)





